

令和3年度

島根大学大学院医学系研究科
看護学専攻

シラバス

島根大学大学院医学系研究科

目 次

【博士前期課程】

1. 目的	1
2. 目標	1
3. ディプロマ・ポリシー	1
4. カリキュラム・ポリシー	1
5. 看護学専攻の構成	2
(1) 看護援助学コース	
(2) 看護管理学コース	
(3) 地域・在宅看護学コース	
(4) 母子看護学コース	
(5) がん・成人看護学コース	
(6) がん看護CNSコース	
(7) 高齢者看護学コース	
(8) 老人看護CNSコース	
(9) 助産学コース	
6. 履修方法	4
7. 履修モデル	5
8. 修了の要件	6
9. 学位授与	6
10. 長期履修制度と修業年限	6
11. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	6
12. 奨学金制度	6
13. 学生教育研究災害傷害保険	6
14. 教育課程表：令和 3 年度入学者用	7
15. 教育課程表：令和 2 年度入学者用	11
16. 教育課程表：平成 31 年度入学者用	15
17. 教育課程表：平成 30 年度入学者用	18
18. 教育課程表：平成 28・29 年度以前入学者用	20

19. 令和3年度：大学院授業科目担当者一覧	22
------------------------	----

20. 科目解説

(専門必修科目)

看護援助学特論	24
看護援助学演習	26
看護管理学特論	28
看護管理学演習	30
地域・在宅看護学特論	32
地域・在宅看護学演習	34
母子看護学特論	36
母子看護学演習	38
がん看護学特論	40
がん看護学演習	42
高齢者看護学特論	44
高齢者看護学演習	46
高齢者アセスメント論	48
老年高度看護実践論	50
高齢者サポートシステム論	52
老年慢性期ケア演習	54
高齢者看護学実習Ⅰ	56
高齢者看護学実習Ⅱ	57
がん薬物療法看護援助論	58
緩和ケア演習	60
がん看護学実習Ⅰ	63
がん看護学実習Ⅱ	65
がん看護学実習Ⅲ	67
がん看護学実習Ⅳ	69
がん看護学実習Ⅴ	71
助産学特論	74

助産学演習	76
生殖器病態生理学	78
助産薬理学	80
女性の健康教育学	82
地域母子保健学	85
妊娠期助産診断・技術学	87
分娩期助産診断・技術学	89
産褥・新生児期助産診断・技術学	92
助産臨床推論	95
助産管理学	97
助産学実習Ⅰ	100
助産学実習Ⅱ	102
地域助産学実習	104
地域助産学演習	106
(専門選択科目)	
リスクマネジメント論	108
看護人材育成論	110
看護情報管理論	112
保健医療福祉政策論	114
老年疾患治療論	116
認知症看護論	118
がん看護病態生理治療学	120
がん看護学援助論	122
がん薬物療法看護論	124
緩和ケア論	126
フィジカルアセスメント	128
病態生理学	130
臨床薬理学	132
助産フィジカルアセスメント方法論	135

女性の精神保健学	138
異文化コミュニケーション論	140
(基盤科目)	
家族看護援助論	142
看護理論	144
看護倫理	146
コンサルテーション論	148
看護研究方法演習	150
(大学院選択科目)	
研究と倫理 (集中講義)	未定
学際プレゼンテーション入門 (集中講義)	未定
研究力とキャリアデザイン (集中講義)	未定
(専門必修科目：修士論文関連)	
看護学特別研究	152
看護学課題研究	152
修士論文作成の目安と審査スケジュール	153

【博士後期課程】

1. 目的	154
2. 目標	154
3. ディプロマ・ポリシー	154
4. カリキュラム・ポリシー	154
5. 履修方法	155
6. 学位論文審査	156
7. 修了の要件	156
8. 学位授与	156
9. 学位論文の公表	156
10. 長期履修制度と修業年限	156
11. 入学科・授業料の免除及び徴収猶予制度	156

12. 奨学金制度	157
13. 学生教育研究災害傷害保険	157
14. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム	158
15. 履修モデル	159
16. 入学から修了までのスケジュール	160
17. 研究指導の標準的なスケジュール	161
18. 科目解説	
(専門科目)	
超高齢看護開発特講	162
安全ケアシステム開発特講	164
研究方法特講	166
超高齢看護学研究演習	168
超高齢看護学特別研究	171
(関連科目)	
地域がん治療学	174
がん医療社会学	176
緩和ケア学	178
環境医学Ⅰ	180
環境医学Ⅱ	182
医学・医療情報学Ⅰ	184
臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	186
知的財産と社会連携	188
機能性物質・食品の医療応用と環境影響	190
【共通事項】	
令和3年度時間割	192
令和3年度学年暦	193

博士前期課程

1. 目的

近年、科学技術の発展はめざましく、医療分野においても先端技術の高度化、関連職種の特 門 分化が進展し、保健医療を取り巻く社会情勢は大きく変化した。特に、高齢社会の到来に伴って 疾病構造が変化した結果、病気や障害を抱えながら地域社会の中で日常生活を営む人々が急増し、 在宅看護や介護など、保健・福祉・医療にかかわる看護ニーズが拡大し、多様化してきている。ま た、心身症や自殺者の増加など、心のケアを必要とする健康問題への支援が求められている。

とりわけ島根県は老年人口比率が高く、わが国の高齢社会の抱える問題を先行して体験してい ることに加え過疎化が進行する離島や中山間地域を抱えているところから、住民に豊かな保健・ 医療・福祉サービスを提供するためのシステムを模索している現状にある。

こうした健康問題の社会的・地域的要請に応じていくためには、高度な看護実践能力を持ち、保 健・医療・福祉の有機的連携を調整する役割を果たせる看護専門職者と看護学研究者の育成が必須 である。

本研究科は、豊かな人間性と幅広い視野をもち、科学的な視点と看護学の理論に支えられた卓 越した看護実践能力と、創造的な教育・研究能力を持つ人材を育成し、看護学の発展と地域の保 健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 目標

各種医療機関、保健・福祉施設、教育・研究機関等で活躍する看護学分野における専門性の高い 人材の育成を行う。

1) 高度な専門職業人の育成

看護の対象となる人々の QOL の向上や看護ケアの質の向上を図るために、深い人間理解と高 度で専門的な知識と技術を有し、専門領域の分野で卓越した看護を提供できる能力を持つ人材 を育成する。広い視野で保健・医療・福祉の資源を有効に活用し、一般看護職者のケアの質を向 上させるための教育的機能を果たすとともに、専門分野の看護実践の場における研究活動を推 進し、看護学の発展に寄与することのできる人材を育成する。

2) 教育者・研究者の育成

学部教育で修得した専門的知識と技術を基盤にさらに学識を深め、看護学の体系化と看護技 術の開発を積極的に推進していく能力を育成する。看護学の最先端の理論と知識、方法を学び、 急速に進展している看護学の高等教育を担う人材を育成するとともに、博士後期課程へ進学し 研究者として自立できる能力を有する人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー

原則として2年以上在学し、所定の単位（30 単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受 けて修士論文を提出し、その審査に合格することにより修士（看護学）の学位が授与される。 そのためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

1. 修士論文の作成をとおして、体系的な研究方法を身につけていること
2. 専攻した看護学専門分野の高度な知識と技術を身につけていること
3. 組織的に問題解決を図るための総合的な判断力と行動力を身につけていること

4. カリキュラム・ポリシー

1) 専門教育のあり方

看護学全般において多様な選択ができるよう、看護学の全領域を網羅的にカバーした、「看護 援助学」、「看護管理学」、「地域・在宅看護学」、「母子看護学」、「がん・成人看護学」、「がん看 護 CNS」、「高齢者看護学」、「老人看護 CNS」、「助産学」の9 コースを設置している。

2) 教育課程の構造と教育方法

1. 専門分野の看護学を系統的に学び、研究課題を見出し、修士論文に繋げられるよう、専門 分野の「特論2 単位」「演習2 単位」「看護学特別研究8 単位（CNS コースは「看護学課題研

究4単位)」を1セットで必修としている。

2. 看護学の基盤を成す「看護倫理」「コンサルテーション論」等の科目を「基盤科目」とし、専攻分野に関わらず選択必修8単位を課している。
3. 専攻した分野以外にも、幅広い看護学の知見を学べるよう、『専門選択科目』16科目と各専門分野の「特論」6科目を設定している。
4. 研究能力の向上をめざし、全員が「看護研究方法演習」で多様な研究方法の基本を学んだ後に修士論文に取り組めるようにしている。

5. 看護学専攻の構成

看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、がん看護 CNS コース、高齢者看護学コース、老人看護 CNS コース、助産学コースの9コースで構成されている。

1) 看護援助学コース

現代および将来を見据えたヘルスケアシステムにおいて質の高い看護援助を提供するために、看護援助の理論と科学的思考力を獲得し、看護援助に関する現象や看護技術の検証と新たな看護援助の開発を目指した教育・研究を行う。

2) 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開するために必要な看護管理の理論と方法を修得し、看護管理実践における看護管理技術の検証と更なる開発をめざして教育・研究を行う。

このコースを修了して修士号を取得し、かつ、日本看護協会認定看護管理者規則第21条に定める実務経験を有する者は、認定看護管理者認定審査の受験資格を得られる。

3) 地域・在宅看護学コース

地域の地理的、文化的、社会的環境と密接に関係する人々の健康的な生活を維持するため、個人や家族、学校、職域および集団を対象として、保健・医療・福祉の効果的・効率的連携を可能にする看護と方策について教育・研究を行う。また、一般住民や在宅療養者の生活の質向上に向けて、専門的看護の実践における教育・研究を行う。

4) 母子看護学コース

ライフサイクルと生涯発達の見点に立って、母子関係や家族関係に関連する理論を学び、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見や母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援する方策について教育・研究を行う。

5) がん・成人看護学コース

成人期を生きる視点から、生命、生活および健康にとって重大な課題であるがんや今日的な健康課題・健康障害について理解を深め、社会に生き世代をつなぐ成人期にある人への看護に関連した理論と方法を学び、患者・家族のQOL向上をめざした看護実践を探究する教育・研究を行う。

6) がん看護CNSコース

卓越したがん看護実践に向けて、高度で複雑な課題を解決するための看護援助諸理論を修得するとともに専門看護師としての機能と役割を開発する諸理論や方法を学ぶ。そして、キュアとケアを統合し、がん患者とその家族のQOL向上を目指した高度ながん看護実践能力・適切な倫理的判断力・研究的視点を備えた看護専門職者の育成を目指す。

※本コースでは、必須科目に加えて、専門看護師の各分野に対応する領域の科目ならびに指定の科目を履修することにより、博士前期課程終了後ながん看護専門看護師認定試験受験につながる単位を取得できる。

7) 高齢者看護学コース

加齢による変化や疾病・障害を持つ高齢者の健康上の問題と日常生活との関係をアセスメントし、健康的な老年期の生活を維持できる看護の理論と方法について学び、高齢者や家族への

ケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力やケア開発のための教育・研究を行う。

8)老人看護CNSコース

老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）の育成を目指す。

9)助産学コース

自立して正常な妊娠・分娩・産褥期のケアができる能力と妊娠期から分娩期、子育て期まで継続的に母子を支援できる能力を身につけ、院内助産システムや助産院で活躍できる助産診断力・実践力をもつ助産師を育成する。また、臨床現場の問題・課題を解決に導く研究力を培い、より質の高い助産ケアを探究・創造できる助産師の育成を目指す。

6. 履修方法

次頁の履修モデルおよび、教育課程表（１）～（４）を必ず確認し、修了に必要な単位を把握したうえで、研究指導教員のもと履修登録を行うこと。

教育課程表（１）：看護援助学コース
看護管理学コース
地域・在宅看護学コース
母子看護学コース
がん・成人看護学コース
高齢者看護学コース

教育課程表（２）：がん看護 CNS コース

教育課程表（３）：老人看護 CNS コース

教育課程表（４）：助産学コース

7. 履修モデル

授業科目名	開講年次	単位数			看護援助学	看護管理学	地域・在宅看護学	母子看護学	がん・成人看護学	がん看護CNS	高齢者看護学	老人看護CNS	助産学
		講義	演習	実習									
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		●								
	看護援助学演習	1		2	●								
	看護管理学特論	1	2			●				☆		☆	
	看護管理演習	1		2		●							
	地域・在宅看護学特論	1	2				●						
	地域・在宅看護学演習	1		2			●						
	母子看護学特論	1	2					●					
	母子看護学演習	1		2				●					
	がん看護学特論	1	2						●	●			
	がん看護学演習	1		2					●	●			
	高齢者看護学特論	1	2							☆	●	☆	
	高齢者看護学演習	1		2							●	●	
	高齢者アセスメント論	1	2									●	
	老年高度看護実践論	1	2									●	
	高齢者サポートシステム論	1	1									●	
	老年慢性期ケア演習	1		2								●	
	高齢者看護学実習Ⅰ	1			6							●	
	高齢者看護学実習Ⅱ	2			4							●	
	がん薬物療法看護援助論	1・2	2							●			
	緩和ケア演習	1		2						●			
	がん看護学実習Ⅰ,Ⅱ	1			2					●			
	がん看護学実習Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ	2			2					●			
	助産学特論	1	2										●
	助産学演習	1		2									●
	生殖器病態生理学	1	1										●
	助産薬理学	1	1										●
	女性の健康教育学	1・2		2									●
	地域母子保健学	1	1										●
	妊娠期助産診断・技術学	1		1									●
	分娩期助産診断・技術学	1		2									●
産褥・新生児期助産診断・技術学	1		2									●	
助産臨床推論	1	1										●	
助産管理学	1・2	2										●	
助産学実習Ⅰ	1			9								●	
助産学実習Ⅱ	1			2								●	
地域助産学実習	1・2			6								●	
地域助産学演習	2		3									●	
看護学課題研究	2		4						●		●	●	
看護学特別研究	2		8		●	●	●	●	●		●	●	
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2			◎							
	看護人材育成論	1・2	2			◎				☆		☆	
	看護情報管理論	1・2	2			◎							
	保健医療福祉政策論	1・2	2			◎	○					●	
	老年疾患治療論	1・2	2								○	●	
	認知症看護論	1・2	2								○	●	
	がん看護病態生理治療学	1・2	2					○	●				
	がん看護学援助論	1・2	2					○	●				
	がん薬物療法看護論	1・2	2					○	●				
	緩和ケア論	1・2	2					○	●				
	フィジカルアセスメント	1・2	2						☆		☆	●	
	病態生理学	1・2	2						☆		☆	●	
	臨床薬理学	1・2	2						☆		☆	●	
	助産フィジカルアセスメント方法論	1・2		2									●
	女性の精神保健学	1	1										●
異文化コミュニケーション論	1	1										●	
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2										●
	看護理論	1・2	2						☆		☆	●	
	看護倫理	1・2	2						☆		☆	●	
	コンサルテーション論	1・2	2						☆		☆	●	
	看護研究方法演習	1・2		2					☆		☆	●	
大学院選択科目	研究と倫理	1・2	1										
	学際プレゼンテーション入門	1・2	1										
	研究力とキャリアデザイン	1・2	1										
	大学院連携科目	1・2											

●コース別必修 ◎看護管理学コース必修 ☆CNSコース選択必修 ★CNSコース必修 ○推奨

4 科目 8 単位以上必修

(備考) 基盤科目は、8 単位以上、専門必修科目は、各コースの特論 2 単位及び演習 2 単位ならびに看護学特別研究 8 単位 (CNS コース・助産学コースは課題研究 4 単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目の中から 10 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。なお、CNS コース及び助産学コースの履修については、指導教員の指導を受けること。

8. 修了の要件

本課程に原則として2年以上在学し、所定の単位（30単位以上、老人看護CNSコースにあっては36単位以上、がん看護CNSコースにあっては44単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。

9. 学位授与

修士（看護学）

10. 長期履修制度と修業年限

修業年限は2年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第29条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の2倍の年限まで修業することができる。

11. 入学金・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学金については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

12. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。（令和3年度貸与月額 第一種：無利子 50,000円または88,000円、第二種：有利子 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円）

13. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

14. 教育課程表:令和3年度入学者用

- (1) 看護援助学コース,看護管理学コース,地域・在宅看護学コース,母子看護学コース,がん・成人看護学コース,高齢者看護学コース

授業科目等	開講年次	単位数		摘 要	
		講義	演習		
専門必修科目	看護援助学特論	1	2	看護援助学コース必修	
	看護援助学演習	1	2		
	看護管理学特論	1	2	看護管理学コース必修	
	看護管理学演習	1	2		
	地域・在宅看護学特論	1	2	地域・在宅看護学コース必修	
	地域・在宅看護学演習	1	2		
	母子看護学特論	1	2	母子看護学コース必修	
	母子看護学演習	1	2		
	がん看護学特論	1	2	がん・成人看護学コース必修	
がん看護学演習	1	2			
高齢者看護学特論	1	2	高齢者看護学コース必修		
高齢者看護学演習	1	2			
助産学特論	1	2			
看護学特別研究	2		8	全コース必修	
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	老年疾患治療論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	がん看護病態生理治療学	1・2	2		
	がん看護学援助論	1・2	2		
	がん薬物療法看護論	1・2	2		
	緩和ケア論	1・2	2		
	フィジカルアセスメント	1・2	2		
	病態生理学	1・2	2		
	臨床薬理学	1・2	2		
	助産フィジカルアセスメント方法論	1・2		2	
	女性の精神保健学	1	1		
異文化コミュニケーション論	1	1			
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	
大学院選択科目	* 研究と倫理	1・2	1		
	* 学際プレゼンテーション入門	1・2	1	大学院共通科目	
	* 研究力とキャリアデザイン	1・2	1		
	* 大学院連携科目(別に定める)	1・2			
(備考)					
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) がん看護CNSコース

授業科目等	必修	選択必修	開講年次	単位数			摘 要
				講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論		1	2			
	看護管理学特論		1	2			
	地域・在宅看護学特論		1	2			
	母子看護学特論		1	2			
	高齢者看護学特論		1	2			
	助産学特論		1	2			
	がん看護学特論	○		1	2		
	がん看護学演習	○		1		2	
	がん薬物療法看護援助論	○		1・2	2		
	緩和ケア演習	○		1		2	
	がん看護学実習Ⅰ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅱ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅲ	○		2			2
	がん看護学実習Ⅳ	○		2			2
がん看護学実習Ⅴ	○		2			2	
看護学課題研究	○		2		4		
専門選択科目	リスクマネジメント論		1・2	2			
	看護人材育成論		1・2	2			
	看護情報管理論		1・2	2			
	保健医療福祉政策論		1・2	2			
	老年疾患治療論		1・2	2			
	認知症看護論		1・2	2			
	がん看護病態生理治療学	○		1・2	2		
	がん看護学援助論	○		1・2	2		
	がん薬物療法看護論	○		1・2	2		
	緩和ケア論	○		1・2	2		
	フィジカルアセスメント	○		1・2	2		
	病態生理学	○		1・2	2		
	臨床薬理学	○		1・2	2		
	助産フィジカルアセスメント方法論			1・2		2	
女性の精神保健学			1	1			
異文化コミュニケーション論			1	1			
基盤科目	家族看護援助論		1・2	2			
	看護理論		1・2	2			
	看護倫理		1・2	2			
	コンサルテーション論		1・2	2			
	看護研究方法演習		1・2		2		
大学院選択科目	* 研究と倫理		1・2	1			大学院共通科目
	* 学際プレゼンテーション入門		1・2	1			
	* 研究力とキャリアデザイン		1・2	1			
	* 大学院連携科目（別に定める）		1・2				
(備考)							
必修科目36単位及び選択必修科目8単位以上、合計44単位以上を修得しなければならない。							

(3) 老人看護CNSコース

	授業科目等	必修	選択必修	開講年次	単位数			摘要
					講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論			1	2			
	看護管理学特論		○	1	2			
	地域・在宅看護学特論			1	2			
	母子看護学特論			1	2			
	がん看護学特論			1	2			
	助産学特論			1	2			
	高齢者看護学特論	○		1	2			
	高齢者看護学演習	○		1		2		
	高齢者アセスメント論	○		1	2			
	老年高度看護実践論	○		1	2			
	高齢者サポートシステム論	○		1	1			
	老年慢性期ケア演習	○		1		2		
	高齢者看護学実習Ⅰ	○		1			6	
	高齢者看護学実習Ⅱ	○		2			4	
	看護学課題研究	○		2		4		
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2			
	看護人材育成論		○	1・2	2			
	看護情報管理論			1・2	2			
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2			
	老年疾患治療論	○		1・2	2			
	認知症看護論	○		1・2	2			
	がん看護病態生理治療学			1・2	2			
	がん看護学援助論			1・2	2			
	がん薬物療法看護論			1・2	2			
	緩和ケア論			1・2	2			
	フィジカルアセスメント	○		1・2	2			
	病態生理学	○		1・2	2			
	臨床薬理学	○		1・2	2			
	助産フィジカルアセスメント方法論			1・2		2		
	女性の精神保健学			1	1			
異文化コミュニケーション論			1	1				
基盤科目	家族看護援助論			1・2	2			
	看護理論		○	1・2	2			
	看護倫理		○	1・2	2			
	コンサルテーション論		○	1・2	2			
	看護研究方法演習		○	1・2		2		
大学院選択科目	* 研究と倫理			1・2	1			大学院共通科目
	* 学際プレゼンテーション入門			1・2	1			
	* 研究力とキャリアデザイン			1・2	1			
	* 大学院連携科目 (別に定める)			1・2				
(備考) 必修科目 37 単位及び選択必修科目 8 単位以上、合計 45 単位以上を修得しなければならない。								

(4) 助産学コース

授業科目等	必修	選択必修	開講年次	単位数			摘要
				講義	演習	実習	
専門必修科目			1	2			
			1	2			
			1	2			
			1	2			
			1	2			
			1	2			
		○		1	2		
		○		1		2	
		○		1	1		
		○		1	1		
		○		1・2		2	
		○		1	1		
		○		1		1	
		○		1		2	
		○		1		2	
		○		1	1		9
		○		1			2
		○		1・2			6
		○		2		3	
	○		1・2	4			
専門選択科目			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
		○		1	2		
		○		1	2		
		○		1	2		
		○		1・2		2	
	○		1	1			
	○		1	1			
基盤科目		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2		2		
大学院選択科目			1・2	1			
			1・2	1			大学院共通科目
			1・2	1			
			1・2				
(備考)							
必修科目 5 1 単位及び選択必修科目 8 単位以上、合計 5 9 単位以上を修得しなければならない。							

15. 教育課程表：令和2年度入学者用

- (1) 看護援助学コース, 看護管理学コース, 地域・在宅看護学コース, 母子看護学コース, がん・成人看護学コース, 高齢者看護学コース

授業科目等	開講年次	単位数		摘 要	
		講義	演習		
専門必修科目	看護援助学特論	1	2	看護援助学コース必修	
	看護援助学演習	1	2		
	看護管理学特論	1	2	看護管理学コース必修	
	看護管理学演習	1	2		
	地域・在宅看護学特論	1	2	地域・在宅看護学コース必修	
	地域・在宅看護学演習	1	2		
	母子看護学特論	1	2	母子看護学コース必修	
	母子看護学演習	1	2		
	がん看護学特論	1	2	がん・成人看護学コース必修	
がん看護学演習	1	2			
高齢者看護学特論	1	2	高齢者看護学コース必修		
高齢者看護学演習	1	2			
助産学特論	1	2			
看護学特別研究	2		8	全コース必修	
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	高齢者看護実践論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
	がん看護病態生理治療学	1・2	2		
	がん看護学援助論	1・2	2		
	がん薬物療法看護論	1・2	2		
	緩和ケア論	1・2	2		
	フィジカルアセスメント	1・2	2		
	病態生理学	1・2	2		
	臨床薬理学	1・2	2		
	助産フィジカルアセスメント方法論	1・2			2
	女性の精神保健学	1	1		
異文化コミュニケーション論	1	1			
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2			2
大学院選択科目	* 研究と倫理	1・2	1	大学院共通科目	
	* 学際プレゼンテーション入門	1・2	1		
	* 研究力とキャリアデザイン	1・2	1		
	* 大学院連携科目（別に定める）	1・2			
(備考) 基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) がん看護CNSコース

授業科目等	必修	選択 必修	開講 年次	単位数			摘 要
				講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論			1	2		
	看護管理学特論		○	1	2		
	地域・在宅看護学特論			1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論			1	2		
	助産学特論			1	2		
	がん看護学特論	○		1	2		
	がん看護学演習	○		1		2	
	がん薬物療法看護援助論	○		1・2	2		
	緩和ケア演習	○		1		2	
	がん看護学実習Ⅰ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅱ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅲ	○		2			2
	がん看護学実習Ⅳ	○		2			2
がん看護学実習Ⅴ	○		2			2	
看護学課題研究	○		2		4		
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論			1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	高齢者看護実践論			1・2	2		
	認知症看護論			1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論			1・2	2		
	がん看護病態生理治療学	○		1・2	2		
	がん看護学援助論	○		1・2	2		
	がん薬物療法看護論	○		1・2	2		
	緩和ケア論	○		1・2	2		
	フィジカルアセスメント	○		1・2	2		
	病態生理学	○		1・2	2		
	臨床薬理学	○		1・2	2		
	助産フィジカルアセスメント方法論			1・2		2	
女性の精神保健学			1	1			
異文化コミュニケーション論			1	1			
基盤科目	家族看護援助論			1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院選択科目	* 研究と倫理			1・2	1		
	* 学際プレゼンテーション入門			1・2	1		大学院共通科目
	* 研究力とキャリアデザイン			1・2	1		
	* 大学院連携科目（別に定める）			1・2			
(備考) 必修科目 3 6 単位及び選択必修科目 8 単位以上、合計 4 4 単位以上を修得しなければならない。							

(3) 老人看護CNSコース

授業科目等	必修	選択必修	開講年次	単位数			摘要
				講義	演習	実習	
専門必修科目			1	2			
		○	1	2			
			1	2			
			1	2			
			1	2			
			1	2			
		○		1	2		
		○		1		2	
		○		1	2		
		○		1・2			6
	○		2		4		
専門選択科目			1・2	2			
		○	1・2	2			
			1・2	2			
		○	1・2	2			
			1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2			
			1・2	2		2	
			1	1			
			1	1			
基盤科目	○		1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2	2			
		○	1・2		2		
大学院選択科目			1・2	1			大学院共通科目
			1・2	1			
			1・2	1			
			1・2				
(備考)							
必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。							

(4) 助産学コース

授業科目等	必修	選択必修	開講年次	単位数			摘要
				講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論			1	2		
	看護管理学特論			1	2		
	地域・在宅看護学特論			1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論			1	2		
	がん看護学特論			1	2		
	助産学特論	○		1	2		
	助産学演習	○		1		2	
	生殖器病態生理学	○		1	1		
	助産薬理学	○		1	1		
	女性の健康教育学	○		1・2		2	
	地域母子保健学	○		1	1		
	妊娠期助産診断・技術学	○		1		1	
	分娩期助産診断・技術学	○		1		2	
	産褥・新生児期助産診断・技術学	○		1		2	
	助産臨床推論	○		1	1		
	助産管理学	○		1・2	2		
	助産学実習Ⅰ	○		1			9
	助産学実習Ⅱ	○		1			2
地域助産学実習	○		1・2			6	
地域助産学演習	○		2		3		
看護学課題研究	○		1・2	4			
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論			1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論			1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	高齢者看護実践論			1・2	2		
	認知症看護論			1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論			1・2	2		
	がん看護病態生理治療学			1・2	2		
	がん看護学援助論			1・2	2		
	がん薬物療法看護論			1・2	2		
	緩和ケア論			1・2	2		
	フィジカルアセスメント	○		1	2		
	病態生理学	○		1	2		
	臨床薬理学	○		1	2		
	助産フィジカルアセスメント方法論	○		1・2		2	
女性の精神保健学	○		1	1			
異文化コミュニケーション論	○		1	1			
基盤科目	家族看護援助論		○	1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院選択科目	* 研究と倫理			1・2	1		
	* 学際プレゼンテーション入門			1・2	1		大学院共通科目
	* 研究力とキャリアデザイン			1・2	1		
	* 大学院連携科目 (別に定める)			1・2			

(備考) 必修科目 5 1 単位及び選択必修科目 8 単位以上、合計 5 9 単位以上を修得しなければならない。

16. 教育課程表:平成31年度入学者用

- (1) 看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目	開講年次	単位数		摘 要
		講義	演習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2	看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1	2	
	看護管理学特論	1	2	看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1	2	
	地域・在宅看護学特論	1	2	地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1	2	
	母子看護学特論	1	2	母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1	2	
	がん・成人看護学特論	1	2	がん・成人看護学コース必修
	がん・成人看護学演習	1	2	
高齢者看護学特論	1	2	高齢者看護学コース	
高齢者看護学演習	1	2		
看護学特別研究	2		8	全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2	
	看護人材育成論	1・2	2	
	看護情報管理論	1・2	2	
	保健医療福祉政策論	1・2	2	
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2	
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2	
	高齢者看護実践論	1・2	2	
	認知症看護論	1・2	2	
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2	
	がん看護病態生理治療学	1・2	2	
	がん看護学援助論	1・2	2	
	がん薬物療法看護論	1・2	2	
	緩和ケア論	1・2	2	
	フィジカルアセスメント	1・2	2	
	病態生理学	1・2	2	
臨床薬理学	1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2	
	看護理論	1・2	2	
	看護倫理	1・2	2	
	コンサルテーション論	1・2	2	
	看護研究方法演習	1・2		2
大学院 選択科目	★研究と倫理	1・2	1	大学院共通科目
	★学際プレゼンテーション入門	1・2	1	
	★研究とキャリアデザイン	1・2	1	
	★大学院連携科目(別に定める)	1・2		
(備考)				
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計 12 単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。				

(2) がん看護 CNS コース

授業科目	必修	選択	開講 年次	単位数			摘 要
				講義	演習	実習	
専門必修 科目	看護援助学特論		○	1	2		
	看護管理学特論		○	1	2		
	地域・在宅看護学特論			1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論			1	2		
	がん看護学特論	○		1	2		
	がん看護学演習	○		1		2	
	がん薬物療法看護援助論	○		1・2	2		
	緩和ケア演習	○		1		2	
	がん看護学実習Ⅰ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅱ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅲ	○		2			2
	がん看護学実習Ⅳ	○		2			2
	がん看護学実習Ⅴ	○		2			2
看護学課題研究	○				4		
専門選択 科目	リスクマネジメント論		○	1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論			1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	高齢者看護実践論			1・2	2		
	認知症看護論			1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論			1・2	2		
	がん看護病態生理治療学	○		1・2	2		
	がん看護学援助論	○		1・2	2		
	がん薬物療法看護論	○		1・2	2		
	緩和ケア論	○		1・2	2		
	フィジカルアセスメント	○		1・2	2		
	病態生理学	○		1・2	2		
臨床薬理学	○		1・2	2			
基盤科目	家族看護援助論			1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院 選択科目	*研究と倫理			1・2	1		大学院 共通科目
	*学際プレゼンテーション入門			1・2	1		
	*研究とキャリアデザイン			1・2	1		
	*大学院連携科目(別に定める)			1・2			
(備考) 必修科目36単位及び選択必修科目8単位以上、合計44単位以上を修得しなければならない。							

(3) 老人看護 CNS コース

授業科目		必修	選択	開講 年次	単位数			摘 要
					講義	演習	実習	
専門必修 科目	看護援助学特論			1	2			
	看護管理学特論		○	1	2			
	地域・在宅看護学特論			1	2			
	母子看護学特論			1	2			
	がん看護学特論			1	2			
	高齢者看護学特論	○		1	2			
	高齢者看護学演習	○		1		2		
	高齢者看護援助論	○		1	2			
	高齢者看護学実習	○		1・2			6	
看護学課題研究	○		2		4			
専門選択 科目	リスクマネジメント論			1・2	2			
	看護人材育成論		○	1・2	2			
	看護情報管理論			1・2	2			
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2			
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2			
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2			
	高齢者看護実践論	○		1・2	2			
	認知症看護論	○		1・2	2			
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2			
	がん看護病態生理学			1・2	2			
	がん看護学援助論			1・2	2			
	がん薬物療法看護論			1・2	2			
	緩和ケア論			1・2	2			
	フィジカルアセスメント			1・2	2			
	病態生理学			1・2	2			
臨床薬理学			1・2	2				
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2			
	看護理論		○	1・2	2			
	看護倫理		○	1・2	2			
	コンサルテーション論		○	1・2	2			
	看護研究方法演習		○	1・2		2		
大学院 選択科目	★研究と倫理			1・2	1			
	★学際プレゼンテーション入門			1・2	1			
	★研究とキャリアデザイン			1・2	1			
	大学院連携科目(別に定める)			1・2				
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。								

17. 教育課程表:平成30年度入学者用

(1)看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人（急性・慢性）看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目	開講年次	単位数			摘 要
		講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1		2	
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1		2	
	地域・在宅看護学特論	1	2		地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1		2	
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1		2	
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2		成人(急性・慢性)看護学コース必修
成人(急性・慢性)看護学演習	1		2		
高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース	
高齢者看護学演習	1		2		
看護学特別研究	2		8		全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2		
	高齢者看護実践論	1・2	2		
	高齢者看護援助論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	
大学院 選択科目	研究と倫理	1・2	1		大学院共通科目
	学際プレゼンテーション入門	1・2	1		
	研究力とキャリアデザイン	1・2	1		
	大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/	1・2			
(備考)					
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNS コースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) 老人看護 CNS コース

授業科目		必修	選択必修	開講年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論				2		
	看護援助学演習					2	
	看護管理学特論		○		2		
	看護管理学演習					2	
	地域・在宅看護学特論				2		
	地域・在宅看護学演習					2	
	母子看護学特論				2		
	母子看護学演習					2	
	成人(急性・慢性)看護学特論				2		
	成人(急性・慢性)看護学演習					2	
	高齢者看護学特論	○			2		
高齢者看護学演習	○				2		
高齢者看護学実習	○		1・2			6	
看護学課題研究	○				4		
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論	○		1・2	2		
	高齢者看護援助論	○		1・2	2		
	認知症看護論	○		1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院 選択科目	研究と倫理			1・2	1		
	学際プレゼンテーション入門			1・2	1		
	研究力とキャリアデザイン			1・2	1		
	大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/			1・2			
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。							

18. 教育課程表:平成28・29年度入学者用

(1)看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人（急性・慢性）看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目	開講年次	単位数			摘 要
		講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1		2	
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1		2	
	地域・在宅看護学特論	1	2		地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1		2	
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1		2	
成人（急性・慢性）看護学特論	1	2		成人（急性・慢性）看護学コース必修	
成人（急性・慢性）看護学演習	1		2		
高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース	
高齢者看護学演習	1		2		
看護学特別研究	2		8		全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2		
	高齢者看護実践論	1・2	2		
	高齢者看護援助論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	
大学院 選択科目	*研究と倫理	1・2	1		大学院共通科目
	*学際プレゼンテーション入門	1・2	1		
	*研究力とキャリアデザイン	1・2	1		
	*大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/	1・2			
(備考)					
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNS コースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) 老人看護 CNS コース

授業科目		必修	選択必修	開講年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論				2		
	看護援助学演習					2	
	看護管理学特論		○		2		
	看護管理学演習					2	
	地域・在宅看護学特論				2		
	地域・在宅看護学演習					2	
	母子看護学特論				2		
	母子看護学演習					2	
	成人(急性・慢性)看護学特論				2		
	成人(急性・慢性)看護学演習					2	
高齢者看護学特論	○			2			
高齢者看護学演習	○				2		
高齢者看護学実習	○		1・2			6	
看護学課題研究	○				4		
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論	○		1・2	2		
	高齢者看護援助論	○		1・2	2		
	認知症看護論	○		1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院選択科目	*研究と倫理			1・2	1		
	*学際プレゼンテーション入門			1・2	1		
	*研究力とキャリアデザイン			1・2	1		
	*大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/masters_collabo_courses/			1・2			
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。							

附則

- この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 平成29年度以前の入学者(当該入学者と同学年に転入学、再入学する者を含む。)の履修については、この規則による改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第1、別表第3及び別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の規定によりなお従前の例によることとされる平成29年度以前に入学した者に係る授業科目には、改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3及び別表第4に規定する*印を付した授業科目を加えることができる。
- 前項の規定に基づき履修した別表第3及び別表第4の授業科目について修得した単位は、島根大学大学院医学系研究科規則第11条第1項に規定する単位としては認定しないものとする。

19. 令和3年度:大学院授業科目担当者一覧

区分	授業科目	担当教員 ○: 責任者
看護援助学コース 専門必修科目	看護援助学特論	○福間・内田 (嘱託)
	看護援助学演習	○福間・宮本
看護管理学コース 専門必修科目	看護管理学特論	○津本・内田 (嘱託)
	看護管理学演習	○津本
地域・在宅看護学コース 専門必修科目	地域・在宅看護学特論	○伊藤・岡本 (嘱託)
	地域・在宅看護学演習	○伊藤・榊原
母子看護学コース 専門必修科目	母子看護学特論	○秋鹿
	母子看護学演習	○秋鹿・松浦
がん・成人看護学コース 専門必修科目	がん看護学特論	○若崎・宮下 (嘱託)
	がん看護学演習	○若崎・橋本(龍)
高齢者看護学コース 専門必修科目	高齢者看護学特論	○原・加藤
	高齢者看護学演習	○原・加藤・竹田
助産学コース 専門必修科目	助産学特論	○橋本(美)・秋鹿・他 (学内1名)
	助産学演習	○橋本(美)
がん看護 CNS コース 専門必修科目	がん薬物療法看護援助論	○若崎・宮下 (嘱託)・坂井 (嘱託)・札埜 (嘱託)
	緩和ケア演習	○若崎・秋鹿・他7名 (学内2名、学外5名)
	がん看護学実習Ⅰ	○若崎・秋鹿・他4名 (学外4名)
	がん看護学実習Ⅱ	○若崎・福田・秋鹿・他4名 (学内1名、学外3名)
	がん看護学実習Ⅲ	○秋鹿・若崎・他 (学外4名)
	がん看護学実習Ⅳ	○秋鹿・若崎・他 (学外4名)
	がん看護学実習Ⅴ	○若崎・秋鹿・他4名 (学外4名)
	看護学課題研究	○若崎
老人看護 CNS コース 専門必修科目	高齢者アセスメント論	○原
	老年高度看護実践論	○原・加藤・他 (学外4名)
	高齢者サポートシステム論	○原・伊藤・竹田・三輪 (嘱託)
	老年慢性期ケア演習	○原・加藤・他 (学外3名)
	高齢者看護学実習Ⅰ	○原・加藤
	高齢者看護学実習Ⅱ	○原・加藤
	看護学課題研究	○原・加藤
助産学コース 専門必修科目	生殖器病態生理学	○橋本(龍)・他 (学内2名)
	助産薬理学	○直良・他 (学内2名、学外1名)
	女性の健康教育学	○橋本(美)・日野・永井・他 (学外1名)
	地域母子保健学	○橋本(美)・榊原・他 (学外3名)
	妊娠期助産診断・技術学	○橋本(美)・永井・他 (学内5名)
	分娩期助産診断・技術学	○橋本(美)・永井・日野・他 (学内3名)
	産褥・新生児期助産診断・技術学	○橋本(美)・秋鹿・他 (学内4名、学外1名)
	助産臨床推論	○橋本(龍)・橋本(美)
	助産管理学	○橋本(美)・伊藤・松浦・他 (学内1名、学外5名)
	助産学実習Ⅰ	○橋本(美)・永井・日野・松浦
	助産学実習Ⅱ	○橋本(美)・日野・永井・松浦
	地域助産学実習	○橋本(美)・永井・日野・松浦
	地域助産学演習	○橋本(美)
	看護学課題研究	○橋本(美)
専門選択科目	リスクマネジメント論	○宮本・内田 (嘱託)・川上 (嘱託)
	看護人材育成論	○津本・任 (嘱託)
	看護情報管理論	○津本・石垣 (嘱託)
	保健医療福祉政策論	○伊藤・榊原・楨野 (嘱託)・馬庭 (嘱託)
	老年疾患治療論	○橋本(龍)・他 (学内15名)
	認知症看護論	○原・浦上 (嘱託)・空先 (嘱託)

専門選択科目	がん看護病態生理治療学	○福田・他9名(学内)
	がん看護学援助論	○秋鹿・若崎・福田・他4名(学内1名、学外3名)
	がん薬物療法看護論	○若崎・他4名(学内1名、学外3名)
	緩和ケア論	○秋鹿・他5名(学内1名、学外4名)
	フィジカルアセスメント	○田邊・他8名(学内)
	病態生理学	○紫藤・他8名(学内)
	臨床薬理学	○和田・他3名(学内)
	助産フィジカルアセスメント方法論	○橋本(美)・日野・他(学内8名、学外1名)
	女性の精神保健学	○橋本(美)・永井・他(学内4名)
	異文化コミュニケーション論	○橋本(美)
基盤科目	家族看護援助論	○若崎・鈴木(嘱託)
	看護理論	○福間・津本
	看護倫理	○加藤・榊原・内田(嘱託)
	コンサルテーション論	○長田(嘱託)・福間・宇佐美・鶴屋(嘱託)
	看護研究方法演習	○津本・福間・橋本(龍)・秋鹿・加藤・宮本・木村
看護学特別研究	(主指導教員) 福間・津本・伊藤・若崎・橋本(龍)・原・ 秋鹿・加藤 (副指導教員) 宮本・竹田・榊原	

科目解説

看護援助学特論

単位数：2単位

○福間 美紀：基礎看護学講座教授

内田 宏美：天理医療大学医療学部学部長

1. 科目の教育方針

現代および将来を見据えたヘルスケアシステムや質の高い看護援助を提供するために、科学的根拠に基づく実践の実現に向けて、看護学及び関連学問領域の概念や理論及びの理解を深める。これらの概念や理論を踏まえて、看護実践の場で発生している看護援助の問題を批判的に分析し、解決していくための研究方法について思考する。

2. 教育目標

- 1) 看護の歴史と背景の中での看護援助の変遷を理解することができる。
- 2) 変化するヘルスケアシステムに対応し、質の高い看護援助を提供するための概念や理念に関する見識を深める。
- 3) 看護援助に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護援助の視点で批判的に分析することができる。
- 4) 看護援助に関する問題に対して、原因を分析し、具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護援助の問題解決過程の方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 使用テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
 - 2) 文献を批判的に考察しつつ購読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、看護援助の課題を探究する。
 - 3) 看護援助における発生型問題に焦点を当て、理論や概念を手掛かりとして問題を分析し、解決するための戦略を検討する。
- *講義はオンライン講義とし、Teams によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。

【評価】

担当した単元のレジメ・発表およびプレゼンテーション、レポートの等により総合的に評価する。

まとめ課題レポート 〆切 7/30

・看護実践における問題解決過程の展開と評価

⇒実践を評価し、次の課題を明確化し、実践を方向付ける

4. 参考図書・論文

- 1) 塚本明子/ゲーリー・ロールフ：看護実践のアポリア D・ショーン〈省察的実践論〉の挑戦. ゆみる出版、2017
- 2) 柳沢昌一他監訳/ドナルド・A・ショーン：省察的実践とは何か プロフェッソナルの行為と思考. 鳳書房、2007
- 3) 柳沢昌一：「省察的実践者の教育」を読み解く 看護教育、58 (12)、978-988、2017
- 4) 三輪建二他：看護専門職の生涯学習-省察的実践者をめざして 千葉看護学会誌、10(2)、83-85、2004

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/13	社会の変遷と看護の専門性	福間
2 3 4	日程調整中	看護実践をマネジメントする力：看護組織論	内田
		看護プロセスと問題解決の技法 ・看護上の「問題」の捉え方	
5	4/20	看護実践 ・看護実践と看護技術 ・Evidence-Based Nursing	福間
		・理論と実践を統合する ・看護実践、技術開発	
6	4/27	看護実践 ・暗黙知 ・熟練の技 ・形式知 ・知の伝承	福間
7	5/11	看護実践能力とその評価 ・人々・状況を理解する力 ・人中心のケアを実践する力 ・看護の質を改善する力	福間
8	5/18	省察的実践者 ・省察的実践、再帰的実践、行為内省察	福間
9	6/15	問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（統合演習）	福間
10	6/22	問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（統合演習）	福間
11	6/29	問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（統合演習）	福間
12	7/6	看護援助学に関する研究の動向	福間
13	7/13	看護援助学に関する研究のクリティーク	福間
14	7/20	看護援助学に関する学会発表のクリティーク	福間

注) 日程は受講者との調整により変更する場合があります。

参考図書：看護管理特論の参考図書を参照

看護援助学演習

単位数：2単位

○福間 美紀：基礎看護学講座 教授
宮本まゆみ：基礎看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

看護援助における活動を理論的かつ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指します。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護援助学領域における課題を多面的に捉える。
- 2) 事故の関心領域の研究の現状と課題を的確に捉え、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。
- 3) 看護援助に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチを修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) プレゼンテーションとディスカッションを基本的な学習スタイルとする。
 - 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討し、研究の取り組みと連動させて学習を深める。
 - (1) 研究倫理審査の申請に向けて研究計画を立案する。
 - (2) 1月の論文提出に向けて、年内に基本的な準備を終えることを目標とする。
- * 講義はオンライン講義とし、Teamsによるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。

【評価】

レジメ・発表およびプレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 大木秀一：看護研究・看護実践の質を高める文献レビューの基本. 医歯薬出版株式会社, 2014
- 2) 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step. 医学書院, 2017

5. 教育内容

火曜 (18:00~21:00)

回	月/日	内 容	講師
1・2	<u>8/3</u>	I. 研究動機の明確化：文献検討の方向付け	福岡・宮本
3・4	9/28	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
5・6	10/5	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
7・8	10/12	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：2年生の研究成果中間報告会に参加し研究プロセスをイメージする。	福岡・宮本
9・10	10/19	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
11・12	10/26	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
13・14	11/2	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
15・16	11/9	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
17・18	11/16	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
19・20	11/30	II. 看護援助の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
21・22	12/7	III. 文献検討のまとめと研究テーマの明確化 ：研究の文献的背景について整理した結果を発表 ⇒修士論文として取り組む研究テーマの明確化 ⇒研究の目的・意義の明確化 ⇒研究デザイン・研究方法の決定	福岡・宮本
23・24	12/14	IV. 研究計画書の作成と検討 ：調査内容・分析方法の明確化と妥当性の検討	福岡・宮本
25・26	1/11	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究背景、目的、意義、方法の明文化	福岡・宮本
27・28	1/25	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画書全体の提示、プレテスト等の実施	福岡・宮本
29・30	2/1	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画最終点検、看護研究倫理委員会申請の準備	福岡・宮本
		※2年生の修士論文発表会(2月上旬)に参加 ：研究プロセスと修士論文作成のイメージ化を図る。 ※研究計画の中間発表会(3月上旬) ⇒看護研究倫理委員会に申請(2月か3月締切)	

看護管理学特論

単位数：2単位

津本優子：基礎看護学講座教授

内田宏美：天理医療大学

1. 科目の教育方針

看護専門職には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。質の高い看護を実現するためには、組織やチームの中でメンバーを巻き込んでそれを具現化していくためのマネジメントの機能が働かなければならない。組織やチームの看護活動をマネジメントする能力は、看護管理者のみならず、CNSや大学院修了者などの高度看護実践者に必要不可欠な能力として期待されている。

看護管理における課題の解決にあたっては、保健医療そのものの知識のみならず、心理学、教育学、社会学、経営学などの多岐にわたる学問領域の知見と成果を活用することが求められる。看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、関係する組織・チームの調整・協働のもと解決していくための基礎的能力の修得を育成する。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学の歴史と背景を理解し、今日の保健医療福祉システムの中での看護管理の位置づけと課題を展望できる。
- 2) 組織管理に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護管理の視点で批判的に分析することができる。
- 3) 看護マネジメントに関する現実的な問題に対して、原因を分析し、関係する組織・チームの調整・協働を基盤とした具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護管理の問題解決過程の方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本的にゼミ形式で実施し、学生の課題に対するプレゼンテーションに基づいて討論し、学習を深める。
- 2) ゼミは、Teamsによるライブ配信を中心とする。
- 3) 看護管理における発生型問題に焦点を当て、原因を分析し、戦略的解決策を検討する。

【評価】レジュメ、発表、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

《講読テキスト》

1) 大串正樹『ナレッジマネジメント 創造的な看護管理のための12章』医学書院、2007
《基本・参考テキスト》…(貸し出し可)

- 1) 内野崇『変革のマネジメント』生産性出版、2006
- 2) オーラ・リー・ストリックランド他：看護アウトカムの測定、エルゼビア・ジャパン、2006

5. 教育内容

火曜：18:30~20:00

回	月/日	内 容	講師
1	4/6	看護管理学概説 ・看護管理（学）の概念、射程、目的と方法	津本
2	4/13	I. 看護組織論 ・集団と組織 ・組織論の系譜（官僚制の特徴と逆機能・近代組織論・ネットワーク）	内田
3	4/20	I. 看護組織論 ・医療組織の特徴、専門職支配と権威勾配	
4	4/27	I. 看護組織論 ・効果的な看護マネジメントのための関係する組織・チームの組織化、協働とチーム・マネジメント	
5	5/11	II. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスという考え方 ・看護サービス提供プロセス	津本
6	5/18	II. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスの標準化と看護の質保証、プロセス・アウトカム評価	津本
7	5/25	III. 看護管理者論 ・リーダーシップとは何か ・リーダーシップ論の系譜	津本
8	6/1	III. 看護管理者論 ・変革理論と組織変革 ・組織文化の変革とリーダーシップ	津本
9	6/8	III. 看護管理者論 ・学習する組織を生み出す看護管理者のリーダーシップ	津本
10	6/15	IV. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（演習）	津本
11	6/22	IV. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（演習）	津本
12	6/29	IV. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（演習）	津本
13	7/6	V. 看護管理プロセスと問題解決の実際 ・看護管理研究のクリティーク	津本
14・15	7/27	V. 看護管理プロセスと問題解決の実際 ・学会発表のクリティーク	津本
		まとめ課題レポート 〆切 後期の初回来学時の際提出 ・看護管理における問題解決過程の展開と評価 ⇒実践を評価し、次の課題を明確化し、実践を方向付ける	津本

看護管理学演習

単位数：2単位

○津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指す。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学領域における課題を多面的に捉える。
- 2) 自己の関心領域の研究の現状と課題を的確にとらえ、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。
- 3) 看護管理に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチの手法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) Teams 上によるプレゼンテーションとディスカッションを基本とする。
- 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討し、研究の取り組みと連動させて学習を深める。
 - (1) 文献検討により研究デザインをまとめ、計画書を作成する。
 - (2) 研究倫理審査の申請に向けて必要書類等の準備を終えることを目標とする。

【評価】

レジュメ、プレゼンテーションの緻密さ、的確さ、論理性等によりに総合的に判断する。

4. 参考文献(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト ⑧看護管理学研究
- 2) 同 ⑨看護管理学研究資料
- 3) APA・江藤裕之他訳：APA 論文作成マニュアル、医学書院、2004

5. 教育内容

火曜 (18:30~21:30)

回	月/日	内 容	講師
1・2	8/3	I. 研究動機の明確化：文献検討の方向付け ※研究動機についてレジュメ作成の上参加のこと	津本
3・4	9/28	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
5・6	10/5	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
7・8	10/12	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：2年生の研究成果中間報告会に参加し研究プロセスをイメージする。	津本
9・10	10/19	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
11・12	10/26	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
13・14	11/2	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
15・16	11/9	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
17・18	11/16	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
19・20	11/30	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本
21・22	12/7	III. 文献検討のまとめと研究テーマの明確化 ：研究の文献的背景について整理した結果を発表 ⇒修士論文として取り組む研究テーマの明確化 ⇒研究の目的・意義の明確化 ⇒研究デザイン・研究方法の決定	津本
23・24	12/14	IV. 研究計画書の作成と検討 ：調査内容・分析方法の明確化と妥当性の検討	津本
25・26	1/11	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究背景、目的、意義、方法の明文化	津本
27・28	1/25	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画書全体の提示、プレテスト等の実施	津本
29・30	2/1	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画最終点検、看護研究倫理委員会申請の準備	津本
		※2年生の修士論文発表会(2月上旬)に参加 ：研究プロセスと修士論文作成のイメージ化を図る。 ※研究計画の中間発表会(3月上旬) ⇒看護研究倫理委員会に申請(2/20or3/20 締切)	

地域・在宅看護学特論

単位数：2単位

○伊藤智子：地域・老年看護学講座 教授

岡本玲子：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授

1. 科目の教育方針

地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史の変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解する。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学ぶ。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 地域看護に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 地域看護が展開されるさまざまな場における地域保健活動も視野において、地域で生活する人々の健康づくりと保健行動を支援するための知識・技術を習得する。
- 3) 個人家族、集団、組織の健康レベル向上の課題を理解し、効果的な看護支援方法を学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

講義はオンライン講義とし、Teams によるライブ配信を中心に行う。講義、学生によるプレゼンテーションと意見交換によって授業を進める。

【評価】

レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

- ・松村真司、臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③ 概念モデルをつくる
認定 NPO 法人健康医療評価研究機構

5. 教育内容

回	月 日	内 容	講師
1	4/6	社会的健康課題と地域看護学（1）	伊藤
2	4/13	社会的健康課題と地域看護学（2）	伊藤
3	4/20	社会的健康課題と地域看護学（3）	伊藤
4	4/27	保健・医療・福祉政策	伊藤
5	5/11	地域看護の支援に用いる概念モデル（1） コミュニティ・アズ・パートナーモデル	伊藤
6	5/18	地域看護の支援に用いる概念モデル（2） エンパワメント・ヘルスプロモーション	伊藤
7	5/25	地域看護の支援に用いる概念モデル（3） プリシード・プロシードモデル	伊藤
8	6/1	地域看護学研究（1）	伊藤
9	6/8	地域看護学研究（2）	伊藤
10	6/15	地域看護学研究（3）	伊藤
11	6/22	地域看護学研究（4）	伊藤
12	6/29	地域看護学研究（5）	伊藤
13	7/6	地域の健康課題と看護活動	伊藤
14・15	調整中	地域看護活動と研究	岡本

都合により日程を変更することがある。

地域・在宅看護学演習

単位数：2単位

○伊藤智子：地域・老年看護学講座 教授
榊原 文：地域・老年看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 地域看護学領域における国内外における研究の動向と最新の知見を理解できる。
- 2) 研究テーマに関連した文献レビューやクリティークを行い、研究テーマに関する課題を明確にできる。
- 3) 研究課題に基づき研究計画を作成することができる。
- 4) 研究を行うために不可欠な研究倫理を理解した上で研究を実施することができる。

3. 教育方法、進め方、評価

【進め方】

講義は基本対面、必要に応じオンライン演習とする。学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。

【評価】

演習に対する取り組み姿勢、レポート、討議への参加状況から総合的に評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

参考図書：

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1・2	9/28	地域看護領域における研究の意義と研究倫理	伊藤
3・4	10/5	研究の種類と研究計画書の作成	伊藤
5・6	10/12	地域看護領域における文献検索と文献研究 (1)	伊藤 榊原
7・8	10/19	地域看護領域における文献検索と文献研究 (2)	伊藤 榊原
9・10	10/26	地域看護領域における文献検索と文献研究 (3)	伊藤 榊原
11・12	11/2	地域領域における研究課題と研究テーマ	伊藤
13・14	11/9	地域をベースとした研究の実践 (1)	伊藤 榊原
15・16	11/16	地域をベースとした研究の実践 (2)	伊藤
17・18	11/30	研究計画書の作成 (1)	伊藤 榊原
19・20	12/7	研究計画書の作成 (2)	伊藤 榊原
21・22	12/14	研究計画書の作成 (3)	伊藤 榊原
23・24	1/11	成果発表とプレゼンテーション (1)	伊藤 榊原
25・26	1/18	成果発表とプレゼンテーション (2)	伊藤 榊原
27・28	1/19	研究計画書の作成 (3)	伊藤 榊原
29・30	1/25	研究計画書の作成 (4)	伊藤 榊原

都合により日程を変更することがある。

母子看護学特論

単位数：2単位

秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

ライフサイクルと生涯発達の見点から、子どもと家族が抱える身体的、心理社会的な問題を理解し、QOL の向上ならびに健全な発達を促すための支援について探求する。そのために関連する概念や理論、母子保健・福祉、小児医療・保健・福祉・教育の現状と課題について学習する。

2. 教育目標

- 1) 母子保健・福祉の現状と課題について理解する。
- 2) 小児医療・保健・福祉・教育の現状と課題について理解する。
- 3) ライフサイクル、生涯発達に関する概念や理論について理解する。
- 4) 子どもと家族を取り巻く現代の社会状況を多面的に理解し、身体的、心理社会的側面の問題について理解する。
- 5) 子どもと家族の QOL 向上ならびに健全な発達を支援するために、諸理論を活用し、看護の果たす役割と援助方法について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義はオンライン講義とし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。
- 2) 講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 3) 子どもと家族の QOL 向上と健全な発達を促すための支援について議論を深める。

【評価】

プレゼンテーション内容、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	母子保健・福祉の現状と課題	秋鹿
2	小児医療・保健・福祉・教育の現状と課題	秋鹿
3	小児医療・看護における倫理的課題	秋鹿
4	発達理論（エリクソン）と看護への活用	秋鹿
5	発達理論（ピアジェ）と看護への活用	秋鹿
6	愛着理論（ボウルビー）と看護への活用	秋鹿
7	乳児の身体機能、知的・情緒的・社会的機能と養育	秋鹿
8	幼児の身体機能、知的・情緒的・社会的機能と養育	秋鹿
9	学童の身体機能、知的・情緒的・社会的機能と養育	秋鹿
10	ストレス・コーピング理論（ラザルス）と看護への活用	秋鹿
11	セルフケア理論（オレム）と看護への活用	秋鹿
12	家族発達理論と看護への活用	秋鹿
13	Family centered care	秋鹿
14	Family centered care	秋鹿
15	まとめの発表	秋鹿

母子看護学演習

単位数：2単位

○秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授

松浦 志保：臨床看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

母子看護学領域における先行研究の文献検討を通して自らの研究テーマを明確にし、実行可能な研究計画書を作成する。この過程から基本的な研究能力の獲得をめざす。

2. 教育目標

- 1) 母子看護領域における国内外の研究動向について理解できる
- 2) 関心あるテーマについての文献検討を行い、自らの研究テーマを明確にできる
- 3) 研究テーマに適した研究デザイン、研究方法を選択できる。
- 4) 研究テーマについて倫理面を考慮した研究計画書を作成することができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義はオンライン講義とし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。
- 2) 学生の事前準備をふまえたプレゼンテーション、討議を中心に進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、レポート等により総合的に評価する。

4. テキスト・参考文献

講義の中で適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	母子看護学領域における国内外の研究動向について	秋鹿、松浦
3・4	母子看護学領域における問題意識、研究テーマについて	秋鹿、松浦
5・6	母子看護学領域において関心あるテーマに関する文献検討（1）	秋鹿、松浦
7・8	母子看護学領域において関心あるテーマに関する文献検討（2）	秋鹿、松浦
9・10	母子看護学領域において関心あるテーマに関する文献検討（3）	秋鹿、松浦
11・12	母子看護学領域において関心あるテーマに関する文献検討（4）	秋鹿、松浦
13・14	研究テーマの明確化	秋鹿、松浦
15・16	研究テーマに関する研究方法の検討（1）	秋鹿、松浦
17・18	研究テーマに関する研究方法の検討（2）	秋鹿、松浦
19・20	母子看護学研究における倫理的配慮の検討	秋鹿、松浦
21・22	研究計画書の作成（1）	秋鹿、松浦
23・24	研究計画書の作成（2）	秋鹿、松浦
25・26	研究計画書の作成（3）	秋鹿、松浦
27・28	研究計画書の発表・討論（1）	秋鹿、松浦
29・30	研究計画書の発表・討論（2）	秋鹿、松浦

がん看護学特論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次前期

○若崎淳子 臨床看護学講座 教授
宮下美香 広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学
講座/老年・がん看護開発学 教授

1. 科目の教育方針

がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を学習する。また、がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究成果と対照しながら考察を深める。そして、それらを活用し、治療・療養過程にあるがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解し、生活の質を高める専門的な看護援助のあり方を探求する。がん看護専門看護師の活動を理解すると共に、がん患者を理解し援助するための看護の諸理論を看護実践に適用し、説明できる思考能力の育成を目指す。

2. 教育目標

- 1) がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を理解する。
- 2) がんとともに生きる人々とその家族に対して専門的な看護を実践するうえで基盤となる主要な概念・理論を踏まえ、実践への適用について探求する。
- 3) がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究成果と対照しながら考察を深め、治療過程に在るがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解する。
- 4) がん患者とその家族が抱える全人的苦痛や諸問題に対して包括的な支援を提供できるよう、患者とその家族の QOL の維持向上を目指したエビデンスに基づく専門的な看護援助について探求する。
- 5) がん看護専門看護師の歴史や活動、果たす役割を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- ・高度ながん看護実践に活用できる理論的知識を習得するとともに、看護実践の場を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
 - ・オンライン授業とし、Teams によるライブ講義とオンデマンド型配信を併用する。
- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
 - 2) 授業への臨み方
 - ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
 - ・高度看護実践者として役割開発・発揮できるように、がん患者を取り巻く社会や健康課題・健康問題に関心をもち、がん患者の生活の質を高める看護実践ができるための知識や問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート]

60% (課題レポートの内容：根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する)

[プレゼンテーション・ディスカッション内容]

40%

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中、適宜紹介する。

2) 参考図書

小島操子、佐藤禮子監訳 がん看護コアカリキュラム(医学書院)(最新版)

その他参考書：がん看護に係る原理と実践に関する文献を適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	がん看護の動向-先進諸国とわが国の変遷- がん看護専門看護師の歴史と活動	宮下美香
2	Evidence-based Oncology Nursing がん患者を取り巻く状況とがん看護領域の優先すべき研究 課題	宮下美香
3	がん看護学領域における理論と活用 がん患者の理解と主要な概念・理論(1) Cancer Survivorship その1	宮下美香
4	がん患者の理解と主要な概念・理論(2) Cancer Survivorship その2	宮下美香
5	がん患者の理解と主要な概念・理論(2) サイコオンコロジー	宮下美香
6	がん患者の理解と主要な概念・理論(3) Social Support	宮下美香
7	がん患者の理解と主要な概念・理論(4) Self-care	宮下美香
8	がん患者の理解と主要な概念・理論(5) Quality of Life	若崎淳子
9	がん患者の理解と主要な概念・理論(6) Total pain	若崎淳子
10	がん患者の理解と主要な概念・理論(7) ストレス・コーピング	若崎淳子
11	がん患者の理解と主要な概念・理論(8) 喪失、危機理論	若崎淳子
12	がん患者の理解と主要な概念・理論(9) 悲嘆	若崎淳子
13	がん患者の理解と主要な概念・理論(10) 自己概念	若崎淳子
14	事例検討：がん看護実践における現象の説明-理論を用いて-	若崎淳子
15	課題発表・討議： 治療過程に在るがん患者とその家族が抱える身体的・ 心理社会的諸問題の理解と専門的看護援助	若崎淳子

嘱託講師は集中講義とする。

がん看護学演習

単位数：2 単位

○若崎淳子 臨床看護学講座教授

橋本龍樹 臨床看護学講座教授

1. 教育方針

がん看護学領域における先行研究について文献検討し、がん患者とその家族の QOL 維持向上を目指してがん看護学領域の知識発展のための適切な研究課題を立てると共に、自身の研究課題をこれまでの知識蓄積の中で適切に位置づける。そして、倫理的に研究が実行できる研究計画書を作成し、特別研究・課題研究につなげていく。以上のプロセスを通じて、基本的な研究能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

1) 課題の明確化

- ・がん患者やがん医療を取り巻く状況を分析して、がん看護が研究的に取り組むべき課題を抽出する。
- ・関連文献をまとめてプレゼンテーションを行い、取り組もうとする課題の周辺や明らかになっているエビデンスを整理する。

2) がん看護領域の研究論文クリティーク

- ・国内文献及び海外文献をクリティークし、関心領域の研究状況を明らかにする。

3) 研究デザイン、研究方法の決定

- ・研究課題を明確にして、最も適切な研究方法を選定する。研究デザインの精練方法を学ぶ。

4) 研究計画書の作成

- ・研究課題にもとづき研究計画書を作成するプロセスを学ぶ。
- ・整合性のある研究計画を精練する訓練を行う。
- ・倫理的配慮を確実に行えるよう、研究における倫理的感受性を身に付ける。
- ・研究計画書を作成する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、事前学習を踏まえた学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

オンライン授業：Teams によるライブ授業とする。

【評価】

文献レビュー結果、研究手順の確実さ、研究計画書の洗練度、以上の項目を吟味して、研究を論理的にすすめる能力を評価する。

4. テキスト・参考文献

適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担当
1・2	がん患者やがん医療・がん看護を取り巻く状況の理解	若崎淳子
3・4	がん看護が研究的に取り組むべき今日的課題	若崎淳子
5・6	関心テーマに沿った文献クリティーク (1)	若崎淳子
7・8	関心テーマに沿った文献クリティーク (2)	若崎淳子
9・10	関心テーマに沿った文献クリティーク (3)	若崎淳子
11・12	関心テーマに沿った文献クリティーク (4)	若崎淳子
13・14	研究デザイン	若崎淳子
15・16	研究課題と研究方法 (1)	若崎淳子
17・18	研究課題と研究方法 (2)	若崎淳子
19・20	研究課題と研究方法 (3)	若崎淳子
21・22	がん看護学研究における倫理的配慮の検討	若崎淳子
23・24	研究計画書の作成 (1)	若崎淳子
25・26	研究計画書の作成 (2)	若崎淳子
27・28	研究計画書の発表・討論 (3) [倫理申請準備を含む]	若崎淳子
29・30	研究計画書の発表・討論 (4) [修論発表会予演を含む]	若崎淳子

高齢者看護学特論

単位数：2 単位（時間数：30 時間）

開講年次及び学期：1 年次前期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して高度な看護援助を展開するためには、老年看護に関する基本的な概念や諸理論に基づき、加齢のプロセスで生じる健康問題と生活・人生への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。老年看護の基本的概念や理論を学び、それらを看護実践に活用できる能力の開発を目指す。

2. 教育目標

- 1) 老年看護に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 老人看護専門看護師の役割と機能について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

Teams によるライブ配信を中心とする。

【評価】

文献抄読レポート、プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) E.H. エリクソン, J.M. エリクソン, H.Q. キヴニック：老年期, みすず書房, 1997.
- 2) E.H. エリクソン, J.M. エリクソン：ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001.
- 3) プリシラ・エバーソール, 他：ヘルシー・エイジング, エルゼビア・ジャパン, 2007.
- 4) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論, 医学書院, 2008.
- 5) 安梅勅江：エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク・ケアの技法, 医歯薬出版, 2004.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/13	老いを生きる人を理解するための理論 ・加齢に関する理論 ・適応とサクセスフルエイジング ・生涯発達理論、ライフサイクル理論	原
2	4/20		原
3	4/27		原
4	5/11	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（1） ・高齢者の全体論的視点、高齢者看護の定義	原
5	5/18	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（2） ・「老いを生きること」に関する文献 ¹⁾²⁾ の抄読 （プレゼンテーションと討論）	原
6	5/25		原
7	6/1	高齢者/家族へのヘルスケア提供モデル：コンフォート理論 ・高齢者看護におけるケアの枠組みとコンフォートの概念 ・コンフォート理論の高齢者ヘルスケア実践への適用 ・看護師/ヘルスケア提供者のコンフォートに焦点をあてたモデルの分析 ・コンフォート理論を活用した高齢者/家族ケアの展開 （事例検討）	加藤
8	6/8		加藤
9	6/15		加藤
10	6/22		加藤
11	6/29	高齢者の人権と権利擁護（健康生活を営む権利と自己決定）	加藤
12	7/6	「その人らしさ」という概念とライフストーリー・アプローチ	原
13	7/13	エンパワメントの概念と老年看護における活用	原
14	7/20	専門看護師制度設立の背景と専門看護師の要件	原
15	7/27	老人看護専門看護師の役割と機能、活動の拡大 エビデンスに基づく実践（EBP）の実行	原

高齢者看護学演習

単位数：2単位

- 原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授
竹田 裕子：地域・老年看護学講座講師

1. 科目の教育方針

各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護における国内外の研究の動向を把握する。
- 2) 自己の問題意識と追究課題を絞り込む。
- 3) 自己の研究課題の位置づけについて、看護実践の改善や看護モデル開発の視点で捉える。
- 4) 研究方法を具体化させるプロセスを理解する。
- 5) 高齢者看護研究における倫理的側面を理解したうえで、効果的に研究を推進していくための方法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

Teams によるライブ配信を中心とする。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 大木秀一, 他: よくわかる看護研究の進め方・まとめ方, 第3版, 医歯薬出版, 2017.
- 2) グレグ美鈴, 他: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方—看護研究のエキスパートをめざして—, 第2版, 医歯薬出版, 2016.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	高齢者看護における国内外の研究動向	原・加藤 竹田
3・4	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（1）	原・加藤 竹田
5・6	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（2）	原・加藤 竹田
7・8	関心テーマにおける文献検討（1）	原・加藤 竹田
9・10	関心テーマにおける文献検討（2）	原・加藤 竹田
11・12	関心テーマにおける文献検討（3）	原・加藤 竹田
13・14	問題意識と追究課題の検討（1） 追究課題の背景	原・加藤 竹田
15・16	問題意識と追究課題の検討（2） 追究課題に関連する先行文献のレビュー	原・加藤 竹田
17・18	問題意識と追究課題の検討（3） 課題の追究に必要なかつ有効な諸理論の検討	原・加藤 竹田
19・20	研究課題に適した研究方法の検討（1）	原・加藤 竹田
21・22	研究課題に適した研究方法の検討（2）	原・加藤 竹田
23・24	高齢者看護研究に必要な倫理的配慮の検討	原・加藤 竹田
25・26	研究計画書の作成	原・加藤 竹田
27・28	研究計画書の発表・討論（1）	原・加藤 竹田
29・30	研究計画書の発表・討論（2）	原・加藤 竹田

高齢者アセスメント論

単位数：2 単位（時間数：30 時間）

開講年次及び学期：1 年次前期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授

1. 科目の教育方針

高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、高齢者の身体的・精神的・社会的側面にわたる健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。高齢者やその家族の質の高い生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 高齢者健康生活評価の諸側面と視点、評価方法の実際を学ぶ。
- 2) 高齢者の健康生活を維持・促進するための看護援助について検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

Teams によるライブ配信を中心とする。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価，新興医学出版社，2010.
- 2) 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン，厚生科学研究所，2003.
- 3) 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用，きょうされん，2005.
- 4) 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション
ーICF に立った自立支援の理念と技法ー，中央法規，2004.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	高齢者の健康生活評価に関する理論と方法 ・高齢者総合評価（CGA）の背景と意義、構成とプロセス	原
2	高齢者の健康生活に関する評価（1） ・身体機能（ADL・IADLなど）	原
3	高齢者の健康生活に関する評価（2） ・精神機能	原
4	高齢者の健康生活に関する評価（3） ・生理機能	原
5	高齢者の健康生活に関する評価（4） ・感覚機能	原
6	高齢者の健康生活に関する評価（5） ・認知機能	原
7	高齢者の健康生活に関する評価（6） ・主観的健康感、幸福感	原
8	高齢者の健康生活に関する評価（7） ・生活満足度、QOL	原
9	高齢者の健康生活に関する評価（8） ・環境の快適性と安全性、住環境	原
10	高齢者の健康生活に関する評価（9） ・社会関係、ソーシャルネットワーク	原
11	高齢者の健康生活に関する評価（10） ・家族機能（介護負担など）	原
12	国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントと看護 ・ICFモデルの基本的特徴、実践的意義、今後の課題	原
13	・低運動による弊害（廃用症候群）の予防・克服の具体的な進め方 ・目標指向的アプローチ	原
14	高齢者の健康生活アセスメントにおける思考プロセスの明確化	原
15	（事例検討）	原

老年高度看護実践論

単位数：2 単位（時間数：30 時間）

開講年次及び学期：1 年次前期

- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授
吉岡佐知子：松江市立病院副看護局長（老人看護専門看護師）
島根大学医学部臨床看護教授
内部 孝子：松江赤十字病院看護副部長（老人看護専門看護師）
空先 育子：松江記念病院看護師長（老人看護専門看護師）
塩川 ゆり：訪問看護ステーションあおいそら管理者
（在宅看護専門看護師）

1. 科目の教育方針

複雑かつ多様な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、専門的知識と理論を踏まえるとともに倫理的な看護判断に基づき、Cure と Care を統合した看護援助ができる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 入院治療を受ける高齢者における、入院に伴って生じるリスクとリスク管理、Cure と Care を統合した看護援助、円滑な在宅移行に必要な連携と調整について説明できる。
- 2) 介護保険施設を利用する高齢者ケアの現状と課題を理解し、Cure と Care を統合した看護援助、多職種連携・協働の体制づくりと看護の専門性について説明できる。
- 3) 在宅療養する高齢者と家族への支援の実際と課題を理解し、在宅での疾病管理、Cure と Care を統合した看護援助について説明できる。
- 4) 高齢者のエンドオブライフケアの現状と課題、エンドオブライフの医療・ケアに関するガイドライン等を理解し、高齢者に起こりやすい症状や苦痛のアセスメント、緩和ケアを含む Cure と Care を統合した看護援助、倫理的問題と倫理調整について説明できる。

3. 教育の方法、進め方、評価

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。対面授業を基本とする。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 井部俊子, 他監修: 専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2015.
- 2) 中島紀恵子, 他監修: 高齢者の生活機能再獲得のためのケア プロトコル-連携と協働のために, 2010.
- 3) 鶴若麻理, 他編: 看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ, 日本看護協会出版会, 2018.
- 4) 桑田美代子, 他編: 高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック 第1巻, 第2巻, 中央法規, 2016.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	入院治療を受ける高齢者とその家族への高度な看護実践（1） ・老年病の特徴、老年症候群	原
2	入院治療を受ける高齢者とその家族への高度な看護実践（2） ・入院に伴って生じるリスク（せん妄など）とリスク管理 ・老人看護専門看護師による Cure と Care を統合した看護援助 ・円滑な在宅移行に必要な連携と調整	吉岡
3		吉岡
4	入院治療を受ける高齢者とその家族への高度な看護実践（3） ・倫理調整を必要とする課題の発見と調整の実際（事例検討）	吉岡
5	介護保険施設を利用する高齢者とその家族への高度な看護実践（1） ・介護保険施設を利用する高齢者ケアの現状と課題	原
6	介護保険施設を利用する高齢者とその家族への高度な看護実践（2） ・老人看護専門看護師による Cure と Care を統合した看護援助 ・多職種連携・協働の体制づくりと看護の専門性	空先
7		空先
8	介護保険施設を利用する高齢者とその家族への高度な看護実践（3） ・倫理調整を必要とする課題の発見と調整の実際（事例検討）	空先 原
9	在宅療養する高齢者とその家族への高度な看護実践（1） ・在宅での疾病管理、チームアプローチの実際	塩川
10	在宅療養する高齢者とその家族への高度な看護実践（2） ・在宅看護専門看護師による Cure と Care を統合した看護援助	塩川
11	在宅療養する高齢者とその家族への高度な看護実践（3） ・倫理調整を必要とする課題の発見と調整の実際（事例検討）	塩川 原
12	エンドオブライフを生きる高齢者とその家族への高度な看護実践（1） ・エンドオブライフにおける医療・ケアの現状と課題	加藤
13	エンドオブライフを生きる高齢者とその家族への高度な看護実践（2） ・高齢者に起こりやすい症状や苦痛のアセスメント ・老人看護専門看護師による緩和ケア、Cure と Care を統合した看護援助	内部
14		内部
15	エンドオブライフを生きる高齢者とその家族への高度な看護実践（3） ・高齢者のエンドオブライフケアにおける倫理的問題と倫理調整	内部 加藤

高齢者サポートシステム論

単位数：1 単位（時間数：16 時間）

開講年次及び学期：1 年次後期

- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
伊藤 智子：地域・老年看護学講座 教授
竹田 裕子：地域・老年看護学講座 講師
三輪 恭子：大阪府立大学地域保健学域看護学類
生活支援看護学（在宅看護学）教授
（地域看護専門看護師）

1. 科目の教育方針

高齢者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学ぶ。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者サポートシステムの現状について理解できる。
- 2) 高齢者・在宅ケアにおける連携システムづくりについて考察できる。
- 3) ケアマネジメント実践の基礎的知識と理論に基づいたケアプラン立案と実施・評価までの一連の実践方法を学ぶ。
- 4) 病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能について理解できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

授業は Teams によるライブ配信とする。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 宇都宮宏子，三輪恭子編：これからの退院支援・退院調整，日本看護協会出版会，2011.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	高齢者を取り巻く状況と高齢者サポートシステム（1） 超高齢社会における地域包括ケアシステムの構築と多職種連携・協働	原
2	高齢者を取り巻く状況と高齢者サポートシステム（2） わが国における地域包括ケアシステムと諸外国の状況	伊藤
3	介護保険制度とケアマネジメント 介護保険制度改革の概要	竹田
4	要介護認定の理論的根拠、介護ニーズの客観的評価 ケアマネジメントの定義・構成要素・展開のプロセス	竹田
5	病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能 高齢者の在宅移行および在宅療養継続におけるアプローチ 退院支援の実際、事例検討 サポートシステムの組織化とその活用のあり方 チーム医療と Interprofessional Work (IPW)	三輪
6		三輪
7		三輪
8		三輪

老年慢性期ケア演習

単位数：2単位（時間数：30時間）

開講年次及び学期：1年次後期

- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授
内部 孝子：松江赤十字病院看護副部長（老人看護専門看護師）
立原 怜：島根県立中央病院看護師（老人看護専門看護師）
山根 裕子：松江医療センター看護師（老人看護専門看護師）

1. 科目の教育方針

慢性期治療・ケアの場において高齢者とその家族に生じる複雑かつ多様な健康問題を理解し、高齢者の可能性や強みを活かしながら解決に向けていく援助方法を学ぶとともに、必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整や倫理的な問題・葛藤についての倫理的調整、看護職者を含むケア提供者に対する相談の各役割を果たすことのできる基礎的能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 慢性期治療・ケアを受ける高齢者とその家族に生じる健康問題を理解し、高齢者とその家族への高度看護実践を展開する方法について説明できる。
- 2) 慢性疾患や障害をもつ高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践について説明できる。
- 3) 慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族に対して必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整方法について述べることができる。
- 4) 慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族における倫理的課題の解決に向けた倫理調整や、コンサルティの成長を導く相談のプロセスについて述べるができる。

3. 教育の方法、進め方、評価

【方法と進め方】

1～7回の授業は、講義と討論によって進める。

8～15回の授業は、老人看護専門看護師（GCNS）を含む事例検討会における GCNS の実践事例の検討に参画し、提示された事例の看護実践に対する意見を述べる。その後、慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族に対する高度な看護実践について、事例検討会での意見交換を踏まえた新たな気づきと自己の課題についてレポートする。

対面授業を基本とする。

【評価】

討論、事例検討会での取り組みと貢献度、事例検討会後のレポートにより総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	慢性期にある高齢者とその家族への高度看護実践の展開方法とチームアプローチ	原
2	ICF の視点に基づく自立支援と目標指向的アプローチ	原
3	複雑な健康問題をもつ慢性疾患（生活習慣病等）の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	加藤
4	複雑な健康問題をもつ循環器疾患（慢性心不全等）の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	加藤
5	複雑な健康問題をもつ脳血管障害のある高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	内部
6	複雑な健康問題をもつ慢性腎臓病の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	立原
7	複雑な健康問題をもつ慢性呼吸器疾患の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	山根
8	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(1) 対応を必要とする問題・課題の明確化、高度看護実践とその分析	原 加藤
9		
10	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(2) 調整を必要とする状況の見極め、調整の方向性、調整内容と経過、結果および成果	原 加藤
11		
12	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(3) 倫理調整を必要とした問題・課題の明確化、看護実践とその分析	原 加藤
13		
14	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(4) 相談事例における対応を必要とした問題（背景・課題）の明確化、コンサルティの成長を導く技法と方略、結果および成果	原 加藤
15		

※1年次1月までに授業（15回）を終了する。

高齢者看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）

単位数：6単位（時間数：270時間）

開講年次及び学期：1年次後期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

慢性期治療を受ける高齢患者とその家族に対する、医療チームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。また、実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。

2. 教育目標

- 1) 既習の理論やモデルを適用し、慢性期にあり複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。
- 2) 医療チームの一員として展開された看護実践、実習指導者の指導のもとに（実習指導者とともに）行われた相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。
- 3) 高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。
- 4) スタッフへの教育的働きかけや教育的環境づくり等、継続教育における老人看護専門看護師の役割を理解する。

3. 実習施設・時期および内容

【実習施設】

松江市立病院または松江赤十字病院

【実習時期】

1年次後期科目「老年慢性期ケア演習」の履修終了後、2～3月の6週間

【実習内容】

実習指導者の指導のもとに、高齢者とその家族に対する看護実践を行い、老人看護専門看護師が果たす相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育の役割について、実習施設における実践を通して学ぶ。

4. 評価

実習内容、実践報告書、レポートのほか、学生の自己評価および実習指導者の意見を踏まえて、単位認定者（原 祥子）が総合的に判断し評価する。

5. 備考

詳細については、別途、高齢者看護学実習要項を提示する。

高齢者看護学実習Ⅱ（認知症看護実習）

単位数：4単位（時間数：180時間）

開講年次及び学期：2年次前期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題をもつ認知症高齢者とその家族に対する、ケアチームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。また、実習を通して、認知症高齢者ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。

2. 教育目標

- 1) 既習の理論やモデルを適用し、複雑な健康問題をもちながら療養している認知症高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。
- 2) ケアチームの一員として展開された看護実践、実習指導者の指導のもとに（実習指導者とともに）行われた相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。
- 3) 高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。
- 4) スタッフへの教育的働きかけや多職種協働の環境づくりにおける老人看護専門看護師の役割を理解する。

3. 実習施設・時期および内容

【実習施設】

医療法人社団創健会

（介護医療院 宇賀の里 つばさ、介護老人保健施設ナーシングセンター あげぼの）

【実習時期】

1年次後期科目「認知症看護論」の履修終了後、2年次5～6月の4週間

【実習内容】

実習指導者の指導のもとに、認知症高齢者とその家族に対する看護実践を行い、老人看護専門看護師が果たす相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育の役割について、実習施設における実践を通して学ぶ。

4. 評価

実習内容、実践報告書、レポートのほか、学生の自己評価および実習指導者の意見を踏まえて、単位認定者（原 祥子）が総合的に判断し評価する。

5. 備考

詳細については、別途、高齢者看護学実習要項を提示する。

がん薬物療法看護援助論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次後期

- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
宮下美香 広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座/老年・
がん看護開発学 教授
坂井淳恵 岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
札埜和美 広島赤十字原爆病院 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん薬物療法看護論で学んだ知識を基盤として、代表的疾患（腫瘍）の標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を探求する。がん患者が抱える薬物療法過程で生じた身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。そして、患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。

2. 教育目標

- 1) がん患者が抱えるがん薬物療法過程で生じやすい身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。
- 2) 代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法を確定するプロセスや科学的根拠に基づく治療のプロセスについて理解し、標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンを理解する。
- 3) 代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象を理解し、有害事象の予防・早期発見・早期対処を行なうための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を習得する。
- 4) がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響やガイドラインに基づく支持療法を理解し、患者・家族のセルフマネジメントを促進する援助方法を習得する。
- 5) 患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。
- 6) がん薬物療法を受ける患者の療養生活に必要な支援について全人的にアセスメントし、治療中の生活の質を維持し高めるために、治療過程にあっても患者が自分らしく日常生活を過ごせるためのエビデンスに基づく看護援助の方法を探求する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行なう。
- 2) オンライン授業とし、Teams によるライブ講義とオンデマンド型配信を併用する。
- 3) 授業への臨み方
 - ・がん薬物療法過程にある患者・家族の生活の質やセルフケア能力を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん薬物療法に関する最新情報を文献等から主体的に収集し、学習すること。
- 4) 評価
[レポート]

60% (課題レポートの内容：課題に対する論理的思考及び問題解決思考過程を重視する。)
[プレゼンテーション・ディスカッション内容]

40%

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中、適宜紹介する。

2) 参考図書

小島操子、佐藤禮子監訳 がん看護コアカリキュラム(医学書院)(最新版)

科学的根拠に基づく診療ガイドライン(各学会編)(最新版)：肺がん、大腸がん、乳がん、胃がん、肝臓がん等

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	がん薬物療法過程にあるがん患者と家族が抱える身体的・心理社会的問題の特徴	宮下美香
2	がん薬物療法を受ける患者の心理社会的側面のアセスメント	札埜和美
3	薬物療法主要レジメンと看護(1)肺がん	若崎淳子
4	薬物療法主要レジメンと看護(2)大腸がん	坂井淳恵
5	薬物療法主要レジメンと看護(3)乳がん	若崎淳子
6	薬物療法主要レジメンと看護(4)胃がん	坂井淳恵
7	薬物療法主要レジメンと看護(5)肝臓がん	札埜和美
8	がん薬物療法における治療選択と意思決定支援：事例検討 ①初期治療の場合 ②再発・転移に伴う治療の場合	若崎淳子
9	がん薬物療法を継続する患者とその家族の理解：事例検討 患者と家族に対する情報提供と心理的支援	若崎淳子
10	治療継続と治療中の生活の質を高める看護援助	坂井淳恵
11	がん薬物療法を継続する患者の就労支援	坂井淳恵
12	対応困難な事例の検討(1) 現象の理解と記述、看護介入案の作成(フィールドワーク)	若崎淳子
13	対応困難な事例の検討(2) 事例に基づくセルフケア能力向上にむけた看護介入案の検討 (含：プレゼンテーション)	若崎淳子
14	がん薬物療法過程にあるがん患者の QOL を高めるための支援の検討(1)事例のアセスメントと看護介入案の作成	若崎淳子
15	がん薬物療法過程にあるがん患者の QOL を高めるための支援の検討(2)事例に基づく看護介入案の検討(含：プレゼンテーション)	若崎淳子

嘱託講師は集中講義とする。

緩和ケア演習

単位数：2単位

時間数：60時間

開講時期及び学期(1年次後期)

○若崎淳子	臨床看護学講座 教授
秋鹿都子	臨床看護学講座 准教授
大野 智	島根大学医学部附属病院臨床研究センター センター長 教授
掛田崇寛	関西福祉大学看護学部 教授
角甲 純	兵庫県立大学看護学部実践基礎看護治療看護学 准教授 がん看護 専門看護師
廣瀬寛子	戸田中央総合病院 カウンセリング室 室長
林ふり子	横浜市立大学医学部看護学科 助教 がん看護専門看護師
坂井淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
今岡恵美	島根大学医学部附属病院看護部 看護師長 緩和ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

がん患者が抱える様々な症状、苦痛・苦悩を理解し、適切な臨床判断に基づいた症状マネジメントについて学ぶ。並びにがんの進行やがん治療に伴い生じる患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和に向けて、包括的な介入ができるための看護援助の方法を探求する。そして、キュアとケアを統合し、がん患者とその家族の QOL向上を目指した高度ながん看護実践能力の開発に向けて、研究成果の活用やエビデンスに基づく臨床判断、的確なアセスメント、援助の方法、看護実践の評価について理解する。緩和ケアに関するフィールドワークや事例検討、実技演習を通じて、患者とその家族への適切な援助方法を検討すると共にがん看護専門看護師の果たす役割を考察し、緩和ケア領域における専門的な看護援助ができるための能力開発を探求する。

2. 教育目標

- 1) 緩和ケアの概念や歴史、エビデンスに基づく緩和ケアの実践について理解する。
- 2) 緩和ケアに用いられる薬剤の機序と主作用・副作用・相互作用を学び、薬剤の適切で安全な使用方法を理解する。
- 3) セルフケア理論に基づく症状マネジメントの看護学的アプローチを習得する。
- 4) 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての臨床判断過程、患者とその家族のニーズに沿った専門的な援助方法の検討、看護実践の評価について理解する。
- 5) がん患者の身体的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。
- 6) がん患者の精神的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。
- 7) がん患者の実存的苦痛を理解し、適切で専門的な看護援助の方法を検討する。
- 8) がんがもたらす苦痛や苦悩、がんの進行やがん治療に伴い生じる患者の苦痛を全人的に理解し、苦痛緩和に向けた包括的な介入ができるための臨床判断過程とエビデンスに基づく専門的な看護援助の方法を検討し提案する。
- 9) がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けて、緩和ケアにおけるがん補完代替医療についてその内容とエビデンス、支援方法を理解する。
- 10) 緩和ケアにおける地域連携や在宅緩和ケアの実際と課題、並びにがん看護専門看護師の果たす

役割を理解する。

- 11) 緩和ケアにおける鎮静に関する既習の知識を基盤として、事例をもとに倫理的問題や意思決定支援について思考を深める。
- 12) がん相談支援の事例から患者家族が抱える苦悩を理解し、緩和ケアにおける家族への相談支援のあり方を検討する。
- 13) 緩和ケアにおける患者とその家族への看護カウンセリング技術を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッション、事例検討や実技演習、医療施設での医療・看護活動に参加する。

2) 授業への臨み方

- ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
- ・自らの特定看護領域を中心に学習を深め、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
- ・がん患者やがん医療、がん看護、緩和ケアに関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート] 50% (課題レポートの内容：臨床上の看護課題について、根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する。エビデンスに基づく臨床判断過程の記述を重視する。)

[プレゼンテーション・ディスカッション内容・実技演習]

50%

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中に適宜紹介する。

2) 参考文献

日本緩和医療学会編、専門家を目指す人のための緩和医療学、南江堂、最新版

恒藤 暁、緩和ケアエッセンシャルドラッグ、最新版

廣瀬寛子、看護カウンセリング第2版、医学書院、2003.

森田達也、緩和ケアレジデントマニュアル、医学書院、最新版

緩和医療に関する各ガイドライン(最新版)

森田達也、緩和ケアレジデントマニュアル、医学書院、最新版

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	緩和ケアと症状マネジメント	角甲 純
2	薬物による症状緩和：事例を用いた症状アセスメントと使用薬剤の判断(演習)	角甲 純
3	がん患者のセルフケアと症状マネジメント(1) 看護実践における症状マネジメントモデルの活用 症状マネジメントの統合的アプローチ：事例検討	角甲 純
4	がん患者のセルフケアと症状マネジメント(2) 症状マネジメントの統合的アプローチ：事例検討	角甲 純
5	緩和ケアの実際(1) エビデンスに基づく専門的ながん看護実践に向けた臨床判断の過程	林 凧り子

6	緩和ケアの実際(2) エビデンスに基づく専門的ながん看護実践に向けた援助方法の検討と看護実践の評価：事例検討	林 凧り子
7	がん患者の疼痛の発生機序と看護	掛田崇寛
8	苦痛症状のアセスメントと援助(1)がん性疼痛	掛田崇寛
9	苦痛症状のアセスメントと援助(2)倦怠感	掛田崇寛
10	苦痛症状のアセスメントと援助(3)呼吸困難	角甲 純
11	苦痛症状のアセスメントと援助(4)栄養障害、食欲不振	掛田崇寛
12	苦痛症状のアセスメントと援助(5)排泄障害	掛田崇寛
13	苦痛症状のアセスメントと援助(6)不眠、せん妄	林 凧り子
14	苦痛症状のアセスメントと援助(7)抑うつ、不安	林 凧り子
15	苦痛症状のアセスメントと援助(8)否認、怒り	若崎淳子
16	がん患者の実存的苦痛：スピリチュアルペインの理解と看護：事例検討	林 凧り子
17	がんがもたらす患者の苦痛症状及び苦悩の全人的理解：臨地での事例検討	若崎淳子 今岡恵美
18	がんがもたらす患者の苦痛症状及び苦悩に対する臨床判断とエビデンスに基づく支援の検討及び提案：臨地での事例検討(含：プレゼンテーション)	若崎淳子 今岡恵美
19	がん疼痛～オピオイドローテーションの実際：臨地での事例検討(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
20	がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けたがん補完代替医療の活用：事例検討	大野 智
21	緩和ケアチームにおける活動の実際とがん看護専門看護師の果たす役割の理解：臨地での活動参加(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
22	緩和ケアにおける地域連携とがん看護専門看護師の果たす役割の理解(1)緩和ケア地域連携カンファレンスへの参加(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
23	緩和ケアにおける地域連携とがん看護専門看護師の果たす役割の理解(2)退院前カンファレンスへの参加と退院後訪問(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
24	地域で暮らす終末期がん患者とその家族への緩和ケアの実際：事例検討	秋鹿都子
25	緩和ケアにおけるがん相談支援(1) 相談支援センターで行なう家族ケアの実際：事例検討	坂井淳恵 秋鹿都子
26	緩和ケアにおけるがん相談支援(2) 病院から在宅療養への移行-自宅での療養と看取りに関する家族からの相談への対応-：事例検討	坂井淳恵 秋鹿都子
27	がん看護実践における倫理調整 緩和ケアにおける鎮静に関する倫理的問題と意思決定支援：事例検討	若崎淳子 坂井淳恵
28	看護カウンセリングの実際：実技演習その1	廣瀬寛子
29	看護カウンセリングの実際：実技演習その2	廣瀬寛子
30	看護カウンセリングの実際：実技演習その3	廣瀬寛子

嘱託講師は集中講義とする。

がん看護学実習 I

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：1年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授	
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授	
上田恵巳	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
奥野梨沙	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
山崎かおり	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
加藤由希子	松江赤十字病院看護部		がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

卓越したがん看護実践能力を開発することを目標とする。複雑な健康問題をもつがん患者とその家族に対して質の高い卓越した看護を提供するために、ケアとケアの統合による専門的知識と的確な臨床判断、直接的ケアの習熟化を目指す。看護実践の中で理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。がん看護実践上にある複雑で解決困難な問題をもつ事例を取り上げ、その解決方法を検討する(3事例程度)。また、実習期間中に実習指導者や教員参加のカンファレンスを企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、臨床判断能力や看護援助の質を高める。がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発すると共にチーム医療が十分に機能し活性化するためのがん看護専門看護師として機能を考え、役割開発について考察する。

2. 教育目標(実習目標)

- 1) がん患者を全人的に理解し、患者の体験や患者を取り巻く現象を論理的に説明する。
- 2) 複雑で解決困難な問題をもつがん患者とその家族に対して、治療・療養過程における問題解決のために、専門的知識と的確な臨床判断に基づく質の高い直接的ケアを実践する。
- 3) 理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。
- 4) がんチーム医療が十分に機能し活性化するために、専門看護師の立場から問題解決能力や調整力、指導力を身につける。
- 5) 実習を通して、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え、役割開発について考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 地域がん診療連携拠点病院で行われているがん看護実践を学び、がん看護専門看護師に必要な卓越したがん看護実践能力を習得する。実習場所は、病棟及び外来(看護専門外来、外来化学療法室他)とする。がん医療における地域連携の実際を視野に入れた学習を行なう。
- 2) がん患者とその家族を取り巻く状況を実際的に理解し、がん看護専門看護師の役割である実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整の視点からがん看護実践上の課題を探究する。
- 3) 実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら下記5.の授業計画の内容を含む実習計画を策定し臨地で実習展開する。
- 4) 授業への臨み方

- ・課題研究に結び付けられる課題を見出すことができるように、目的意識や問題意識をもって実習に取り組むこと。
- ・実習に臨むにあたり病態生理や治療法に関する知識と最新情報を熟知し理解しておくこと。
- ・実習に臨むにあたり看護過程展開能力を高めておくこと。

5) 実習施設

鳥取大学医学部附属病院
松江赤十字病院

6) 実習時期

1年次後期 12～1月のうち10日間

7) 評価

実習の目的目標に沿って、がん看護専門看護師の役割機能の習得と目標達成度を次の内容により総合的に評価する。

- (1) 実習計画書
- (2) 実習期間中に提出される実習記録の内容
- (3) 受け持ち患者に係る看護過程展開状況
- (4) 困難事例の検討
- (5) 課題レポート
- (6) カンファレンスや事例検討会等における企画・討議参加状況
- (7) 実習への取り組み姿勢

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定者が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等

実習の手引きを別途示す。

5. 教育内容

- 1) 全人的視点からがん患者とその家族を理解し、理論やモデルを用いて説明する。
- 2) 受け持ち患者について、がんの病態・治療、がん看護に関する専門的知識に基づき多面的にアセスメントを行なう。適切な臨床判断を踏まえて明確化した看護上の問題について根拠に基づく計画を立案し、実施・評価する。特に、複雑で解決困難な問題をもつ事例に対してその解決方法を検討し、効果的な看護介入を行なう。
- 3) 看護チームと連携を取りながら、協働的姿勢をもって受け持ち患者のケアに参画する。
- 4) 実習期間中に実習指導者や指導教員参加のカンファレンスを主体的に企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、学生の臨床判断能力、看護援助の質を高める。
- 5) がん看護実践における変革者としての機能を考え、がん看護専門看護師としての自己の課題を整理する。
- 6) 変化する社会と医療・看護の状況の中で、がん看護専門看護師の役割開発について考える。
- 7) がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発する。焦点をあてる領域(サブスペシャリティ)において、がん患者とその家族の抱える看護上の問題に対して卓越した直接的ケア能力を習熟する。

がん看護学実習Ⅱ

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：1年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授
福田誠司	医療安全管理部	臨床遺伝診療部 教授
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授
高橋 勉	先端がん治療センター	腫瘍・血液内科 助教
杉浦弘明	医療法人医純会	すぎうら医院 院長
花田 梢	医療法人医純会	すぎうら医院 在宅診療部 部長
佐藤幸恵	医療法人医純会	すぎうら医院 在宅診療部 副部長

1. 科目の教育方針

がんに関わる看護職は、理学所見と検査データに基づき患者の状態を評価できること、治療内容と治療選択の根拠を理解すること、治療効果や有害事象を科学的に評価すること等の臨床判断能力と、それらに基づいた身体管理を行うことが求められる。本科目では、がん診療連携拠点病院において、がん治療の専門医の指導の下でがんの患者を担当し、患者を客観的に評価し、診断に至るプロセス、検査所見の解釈と判断を行う臨床判断能力を習得し、それらに基づいた身体管理を体験する。そして治療中、治療後に客観的に患者を評価し、治療効果の判定や有害事象を予測できる臨床判断力と、それらの結果に基づいた身体管理方針を考える能力を習得する。また、在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。患者や家族の置かれた状況を理解し、その後の方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。

2. 実習目標

- 1) がん患者の治療前後の状態を、理学所見、検査所見に基づき客観的に臨床判断できる。
- 2) 臨床判断過程を理解し、治療と身体管理方針が選択された根拠を述べることができる。
- 3) 患者のステージ、予後等をデータに基づいて臨床的に判断できる。
- 4) 治療を受けた患者の状態を客観的に評価し、特に副作用の発現を臨床的に判断できる。
- 5) 副作用の有無と程度に基づき、身体管理計画を立てることができる。
- 6) 治療後の状態と所見を客観的に評価し、治療効果を臨床的に判断できる。
- 7) 治療効果の判定に基づき、身体管理方針を立てることができる。
- 8) オンコロジー・エマージェンシーを臨床的に判断し、適切な身体管理を計画できる。
- 9) がんゲノム医療の適応と限界を体験し、診断に基づいた身体管理計画を考えることができる。
- 10) 担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。
- 11) 在宅がん患者の状態を臨床的に判断し、それらに基づき身体管理方針を述べることができる。
- 12) がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用等の臨床判断と身体管理に関するいずれかの内容をスタッフに講義することができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

実習場所

- ・ 島根大学附属病院（都道府県がん診療連携拠点病院）
先端がん治療センター・緩和ケア病棟
- ・ 医療法人 医純会 すぎうら医院 在宅診療部

がん診療連携拠点病院では、がん治療の専門医と共に、身体所見、検査所見の解釈と判断など、患者を客観的に評価する臨床判断力を養い、それらに基づき診断に至るプロセスを学ぶ。そして、治療効果と有害事象を判断する力も獲得する。更に、治療に限界が生じた場合の選択肢を考え、それらに基づいた短期的、長期的身体管理計画を立てる能力を習得する。また、担当患者に関して臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針に関してスタッフと検討する。在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。そして、患者や家族の置かれた状況を理解し、方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。

【評価】

実習記録と担当患者に関する総合的なレポートを作成する。レポートは上記の実習目標を全て含んだ内容とし、それぞれの達成度に応じて点数化し、口頭試問を行う。また、実習への積極的参加、看護の実践、カンファレンスでの発表や参加を総合して評点する。

4. 使用テキスト

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集「新臨床腫瘍学」改訂第4版 南江堂
- 2) DeVita, Hellman, & Rosenberg's Cancer, 10th edition. Principles & Practice of Oncology WOLTERS KLUWER

5. 教育内容

- 1) 入院患者 1-2 名を担当し、診察と検査データ解釈など患者を客観的に臨床判断する。
- 2) 検査、診断、治療方針、身体管理方針決定のプロセスを体験し、患者のステージ、予後等をデータに基づいて担当医と討論し、臨床判断の過程を体験する。
- 3) 治療効果や治療による有害事象の有無などの臨床判断過程を体験し、討論する。
- 4) 治療または原病により生じる治療の限界とその後の身体管理方針を考える。
- 5) 担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。
- 6) オンコロジー・エマージェンシーを判断し、対応を速やかに計画する。
- 7) がん患者の在宅診療において医師が行う臨床判断過程を学び、患者や家族の状況に基づいて、その後の身体管理の方針決定プロセスを体験する。
- 8) がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用などの臨床判断と身体管理に関するいずれかの最近のトピックに関して医師や看護師を対象に講義する。
- 9) がんゲノム診断や遺伝カウンセリングにも関わり、診断に基づき管理方針を考察する。

がん看護学実習Ⅲ

単位数：2 単位

時間数：60 時間

開講時期及び学期：2 年次前期

- 秋鹿都子 臨床看護学講座 准教授
- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
- 奥野映子 島根県立中央病院 がん看護専門看護師
- 鳥屋尾由美 訪問看護ステーション愛 所長
- 福場衣理子 訪問看護ステーションいずも 所長
- 小林由美子 訪問看護ステーションやすらぎ 所長

1. 科目の教育方針

がんの治療期や医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、ならびに移行後のがん患者・家族に対し、シームレスな看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学ぶ。がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師の指導のもとでの看護実践を通し、在宅療養期や終末期にあるがん患者・家族の QOL 向上を目指した症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶとともに、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 在宅療養にかかわる多職種連携・協働について、具体的な実践に結び付けるための方略を習得する。
- 2) 在宅療養にかかわる多職種連携・協働において、がん看護専門看護師の果たすべき役割について理解する。
- 3) 地域医療連携におけるがん治療の連携、がん相談支援の実際について理解する。
- 4) 治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題について理解する。
- 5) 治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題に対して実践される、専門知識・技術、的確な判断に基づいた看護の実際について理解する。
- 6) がん患者・家族の在宅療養を支える上でのがん看護専門看護師としての役割と、それを担う上での課題について、看護理論や先行研究と関連づけて探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

地域がん診療拠点病院で行われている地域医療連携や、在宅療養への移行に向けた多職種による退院支援、がん患者と家族が在宅療養を継続する上で必要な支援について学び、がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師、がん看護専門看護師、指導教員のスーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての役割と実践上の課題を探究する。

【実習施設】

島根県立中央病院（入退院支援・地域医療連携センター、がん相談支援センター）
訪問看護ステーション愛

訪問看護ステーションいずも
訪問看護ステーションやすらぎ

【実習時期】

2年次前期 4～5月のうち 10日間

【評価】

実習記録の内容、多職種連携や協働に関する記録、訪問看護事例のケースレポート、課題レポート、実習計画書、カンファレンス、プレゼンテーションの企画、実習への取り組み・態度、実習指導者の意見等により総合的に判定する。

*実習は原則 2 単位 90 時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定教員が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等
実習要項を別途示す

5. 教育内容

1) 外来診察室、外来化学療法室において

- (1) 治療期のがん患者への支援について、がん診療連携拠点病院の医師と地域のかかりつけ医が共有する「がん地域連携パス」の活用の実際、診療情報の共有の実際を学ぶ。
- (2) 治療期のがん患者の地域医療の連携において、がん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

2) 入退院支援・地域医療連携センターにおいて

- (1) 主治医、受け持ち看護師、訪問看護師、保健師等との退院支援カンファレンス等に、退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、がん看護専門看護師等と共に参加し、連携を目指した視点から、がん患者・家族が安心して在宅療養へ移行するために必要な支援と調整について考察する。
- (2) がん患者の在宅療養にかかわる多職種の連携・協働において、がん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

3) 訪問看護ステーションにおいて

- (1) 在宅医、ケアマネージャー、保健師等とのカンファレンス等に、訪問看護師と共に参加し、連携を目指した視点から、がん患者・家族が QOL の高い在宅療養を続ける上で必要な支援と調整について考察する。
- (2) 在宅療養におけるがん患者の症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶ。
- (3) がん患者・家族の健康問題が在宅療養におよぼす影響についてアセスメントし、QOL の向上を目指した支援を行うための多職種連携や協働に関する計画を立案する。
- (4) 立案した計画を訪問看護師に提案、あるいは共に実施し評価する。
- (5) がん患者の在宅療養に関わる多職種の連携・協働においてがん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

4) 地域医療連携センターおよび訪問看護ステーションにおける実習を通して学んだ、がん患者・家族の在宅療養を支援する上でのがん看護専門看護師の役割について考察し、プレゼンテーションを行う。

がん看護学実習Ⅳ

単位数：2 単位

時間数：60 時間

開講時期及び学期：2 年次前期

- 秋鹿都子 臨床看護学講座 准教授
- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
- 上田恵巳 鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師
- 奥野梨沙 鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師
- 山崎かおり 鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師
- 加藤由希子 松江赤十字病院 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

優れた看護を継続的に実践しているがん看護専門看護師と共に行動し、がん看護専門看護師に求められる6つの役割、機能とその意義を理解する。また、がん看護専門看護師が行う熟達した役割実践活動に同行し、がん看護専門看護師が役割を開発・遂行する戦略や方策の実際を学ぶ。そして、役割開発に向けた自己の課題を明らかにする。

2. 教育目標

- 1) がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な看護実践の目的・内容について考察する。
- 2) がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や方法について考察する。
- 3) 患者・家族のQOL向上を図る上で必要なケアが円滑に提供されるためにがん看護専門看護師が行う多職種間の調整について考察する。
- 4) がん看護専門看護師が行う倫理的問題の明確化、ならびに解決に向けての調整について考察する。
- 5) がん看護専門看護師が患者や家族、看護師に向けて行っている教育活動の目的・内容について考察する。
- 6) がん看護専門看護師が関わっている研究活動の目的・内容、意義について考察する。
- 7) がん看護専門看護師の役割開発や役割達成に向けた戦略や方策について考察する。
- 8) がん看護専門看護師としての役割を遂行する上での自己の課題について、看護理論や先行研究の結果と実践を関連づけて探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

がん看護専門看護師の活動に同行し、スーパービジョンを受けながらがん看護専門看護師の役割、機能のあり方を学ぶ。

【実習施設】

鳥取大学医学部附属病院
松江赤十字病院

【実習時期】

2 年次前期 6～7 月のうち 10 日間

【評価】

実習記録の内容、課題レポート、事前レポート、実習計画書、実習への取り組み・態度、カンファレンス、実習指導者の意見等により総合的に判定する。

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定教員が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等
実習要項を別途示す。

5. 教育内容

- 1) がん専門分野で看護チームと連携しながら患者ケアを実践するがん看護専門看護師と共に行動し、実際に学ぶ。
- 2) コンサルテーション場面に同席し、がん看護専門看護師の相談役割の実際に学ぶ。
- 3) がん看護専門看護師が円滑な継続ケアのために医療チームの中で多職種との連携調整を行う場面に同席する。
- 4) がん看護専門看護師が参加する倫理カンファレンスや倫理調整場面に同席する。過去の事例についても随時口頭で説明を受ける。
- 5) がん看護専門看護師によるがん専門領域の看護チームへの教育場面に同席する。
- 6) がん看護専門看護師が実施してきた研究とその背景、および看護師が行う研究に対する指導やサポートの実際について、随時口頭で説明を受ける。研究指導やサポートの場面があれば見学する。
- 7) 実習担当教員と実習指導者（がん看護専門看護師）を交えて複数回カンファレンスを行い、役割についての考察を深める。

がん看護学実習Ⅴ

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：2年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授	
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授	
上田恵巳	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
奥野梨沙	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
山崎かおり	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
加藤由希子	松江赤十字病院看護部		がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん看護専門看護師としての役割遂行能力を体験的に養うことを目標とする。既習の講義や実習における学習内容を基盤として、がん患者とその家族のニーズに応じてがん看護専門看護師としての役割が果たせることを目指し、専門看護師の役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のうち、いくつかについて専門看護師の役割を実行する。実習施設において、がん看護専門看護師が貢献できる課題をアセスメントし、専門看護師が果たす役割を計画・実施・評価する。臨地において事例検討会やカンファレンス、臨床講義を主体的に企画、開催し、がん看護専門看護師の立場から看護活動を創意工夫する。そして、組織における看護活動を通じて、がん看護専門看護師の役割の実際を学び、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、役割開発について考察する。

2. 教育目標(実習目標)

- 1) 実習病院において、以下に示すがん看護専門看護師の活動と役割について体験を通して実践的に学ぶ。
 - (1) 熟練した高度なケア技術とケアの知識を用いたがん患者とその家族に対する卓越した看護の実践
 - (2) がん看護に関わる看護職者のニーズに応じたケアを向上させるための教育や指導
 - (3) 看護職者を含むケア提供者、関連職種からの相談への対応
 - (4) がん患者とその家族に対して、個別のニーズに応じた必要なケアが提供されるための保健医療福祉に携わる専門職者間の調整とリーダーシップ
 - (5) がん看護実践にある倫理的な問題や倫理的葛藤の明確化と倫理調整及び看護介入
 - (6) がん看護の向上と開発のための実践の場における自己啓発(研究を含む)
- 2) がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え理解を深めて、さらなる役割開発について考察すると共に自己の課題を明らかにする。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 地域がん診療連携拠点病院で行われているがん看護実践を学び、がん看護専門看護師に必要な

卓越したがん看護実践能力を習得する。実習場所は、病棟及び外来(看護専門外来、外来化学療法室他)とする。

2) がん患者とその家族を取り巻く状況を実際的に理解し、がん看護専門看護師の役割である実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整の視点からがん看護実践上の課題を探究する。

3) 実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら下記5.の授業計画の内容を含む実習計画を策定のうえ臨地にて実習展開する。

4) 授業への臨み方

・実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら以下の内容を含む実習計画を立案する。

(1) 実習施設においてがん看護に焦点を当てて看護活動や看護システム、他職種との連携について把握し、部署の機能の概要を把握する。

(2) がん看護専門看護師の役割を把握する。

①実践

②教育

③相談

④調整

⑤研究

⑥倫理調整

5) 実習施設：鳥取大学医学部附属病院、松江赤十字病院

6) 実習時期：2年次後期 10～11月のうち10日間

7) 評価

実習の目的目標に沿って、がん看護専門看護師の役割機能の習得と目標達成度を次の内容により総合的に評価する。

(1) 実習計画書

(2) 実習期間中に提出される実習記録の内容(がん看護専門看護師の役割遂行を重視する)

(3) 事例に係る看護過程展開状況

(4) カンファレンスや事例検討会における企画、討議、評価

(5) 課題レポート

(6) 実習への取り組み姿勢

(7) 自己評価

(8) 指導教員による評価

(9) 実習指導者による評価

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定者が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行なうこととする。

4. 使用テキスト・参考文献等

実習の手引きを別途示す。

5. 教育内容

- 1) がん患者とその家族に対して、治療・療養過程を統合し、エビデンスに基づく的確な臨床判断を行なって、がん患者とその家族のニーズに基づく卓越した看護を実践する。
- 2) がん看護に関わる看護職者のニーズをアセスメントし、それに応じてケアを向上させるための教育や指導を行なう。看護実践の質の向上に向けて、臨地において事例検討会やカンファレンス、臨床講義を主体的に企画し実施する。
- 3) 看護職者を含むケア提供者、関連職種からの相談に対応する。
- 4) がん患者とその家族に対して、個別のニーズに応じた必要なケアが提供されるための保健医療福祉に携わる専門職者間の調整を行ない、がん医療におけるリーダーシップを発揮する。
- 5) がん看護実践にある倫理的な問題や倫理的葛藤を明確化し、倫理調整及び看護介入を行なう。
- 6) がん看護の向上と開発のために、実践の場において自己啓発を試みる(研究を含む)。

※以上の1)～6)についてはいくつかを実行する。

- 7) がん看護専門看護師の役割を実行後、自己の役割遂行について評価する。
- 8) 組織における実践を通じて、がん看護専門看護師が備えるべき役割遂行能力を培い、看護実践の質の向上に向けて、看護活動を創意工夫する。
- 9) 実習を通してがん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え、さらなる役割開発について考察する。

助産学特論

単位数：2 単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
秋鹿 都子：臨床看護学講座准教授
荒木ももこ：臨床遺伝診療部 副看護師長

1. 科目の教育方針

助産学の概念、意義、母子保健・医療・福祉政策、看護政策の動向、女性、子ども、パートナー、家族がおかれている社会的背景・状況、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題について学修し、助産師に期待される役割、責務、活動範囲について考察し、対象に必要な援助を追求できる能力を培う。

助産師として対象の尊厳と権利を尊重した専門職的倫理を理解し、助産師の責務と規範を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 助産の基本概念を理解し、助産師としてのアイデンティティ確立の動機とする。
- 2) 助産業務に関わる倫理規定や法律について理解する。助産師の専門職性を理解する。
- 3) 助産師と倫理について理解し、助産師の基本的態度について考えることができる。
- 4) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの背景と現状を理解し、今日的課題について考える。
- 5) 女性と家族の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアについて考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

講義は主に対面講義で進め、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドも併用する。

【評価】

筆記試験、プレゼンテーション・レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座 1 基礎助産学[1] 助産学概論, 第 5 版, 2015, 医学書院
- 2) 我部山キヨ子編：助産学講座 2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学, 第 6 版, 2021, 医学書院
- 3) 我部山キヨ子編：助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健, 第 5 版, 2016, 医学

書院

- 4) 福井トシ子編：[新版]助産師業務要覧Ⅰ第3版 基礎編，日本看護協会出版会
 5) 福井トシ子編：[新版]助産師業務要覧Ⅱ第3版 実践編，日本看護協会出版会

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	4/9 14:55~	助産学コース概要オリエンテーション 助産の概念：助産の原則原理、医学モデルと助産モデル	橋本
2	4/13 10:25~	助産の概念：助産の原則原理、医学モデルと助産モデル 助産師の専門職性と業務、助産師業務の法的根拠	橋本
3	4/21 13:00~	助産と倫理 プロフェッショナルリズム、職業倫理	橋本
4	4/28 13:00~	助産師に求められる役割と能力(1)演習 周産期医療、母子保健の現状と課題、国内外のリプロダクティブ・ヘルス・ライツの現状	橋本
5	5/7 13:00~	助産師に求められる役割と能力(2)演習 社会・家族の中の暴力におけるジェンダー分析、虐待	橋本
6	5/13 10:25~	助産師に求められる役割と能力(3)演習 少子化、社会背景、事業・政策	橋本
7	5/21 13:00~	ウィメンズヘルス (1) : 思春期、成熟期、更年期に見られる健康問題、	橋本
8	6/4 13:00~	助産の歴史、母子保健の歴史、助産研究 助産師教育制度の変遷と課題	橋本
9	6/22 13:00~	母性・助産学を構成する理論(1) 自己効力感 (バンデューラ)、	秋鹿
10	6/29 13:00~	母性・助産学を構成する理論(2) ストレス・コーピング理論 (ラザルス) セルフケア理論 (オレム) (演習)	秋鹿
11	10/4 10:25~	助産師のコアコンピテンシー、助産師の活動の場についての展望 今後の助産師の働き方 (演習)	橋本
12	後期	目指す助産師になるために必要なスキル (演習)	橋本
13	後期	助産師の専門性とIPW	橋本
14	後期	生命倫理(1) 出生前診断と遺伝カウンセリング	荒木
14	後期	生命倫理(2) 出生前診断と遺伝カウンセリング	荒木

助産学演習

単位数：2単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

生涯発達看護学分野の看護・保健・医療・福祉の研究論文のクリティークを行い、女性や家族に関する健康問題や課題、解決に向けた看護実践を見出すためのプロセスを学ぶ。研究テーマとそれに適した研究デザイン、研究計画を検討し、課題研究へと連動させる。

2. 教育目標

- 1) 自己の関心領域の研究の現状と問題を多面的に捉え、自らが取り組むべき課題を捉えることができる。
- 2) 看護援助に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチを修得する。
- 3) 文献の批判的吟味ができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 討論、プレゼンテーションとディスカッションを基本的な学習スタイルとして、進めるため、対面で講義を行い、Webex、Teamsによるライブ配信を併用する。
- 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討していく。

【評価】

討論の状況、研究計画書、発表を総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	リサーチ・クエッションの明確化 研究背景・研究動機と関連する文献クリティーク	橋本
3・4	リサーチ・クエッションの明確化 研究背景・研究動機と関連する文献クリティーク	橋本
5・6	リサーチ・クエッションの明確化 研究背景・研究動機と関連する文献クリティーク	橋本
7・8	リサーチ・クエッションの明確化 研究背景・研究動機と関連する文献クリティーク	橋本
9・10	リサーチ・クエッションの明確化 研究背景・研究動機と関連する文献クリティーク	橋本
11・12	研究framework検討と研究課題の設定	橋本
13・14	研究 framework 検討と研究課題の設定	橋本
15・16	研究 framework 検討と研究課題の設定	橋本
17・18	調査方法、分析法、調査内容の検討	橋本
19・20	調査方法、分析法、調査内容の検討	橋本
21・22	調査方法、分析法、調査内容の検討	橋本
23・24	調査方法、分析法、調査内容の検討	橋本
25・26	研究計画書作成	橋本
27・28	研究計画書の発表・討論	橋本
29・30	研究計画書の発表・討論	橋本

生殖器病態生理学

単位数：1 単位

○橋本 龍樹：臨床看護学講座教授
京 哲：産婦人科学講座教授
折出 亜希：産婦人科学講座講師

1. 科目の教育方針

女性のライフサイクルを通じた性と生殖の疾患及び異常に関する基礎的知識の理解と科学的根拠に基づいた周産期のケアおよび分娩介助を実践するため、女性生殖器の解剖・生理、性周期とその調節機構、受精、妊娠のメカニズム、妊娠管理の生理学的、病理学的基盤と妊娠各期に起こりやすい異常の病態生理について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 女性生殖器の解剖・生理ならびに女性性周期について理解する。
- 2) 妊娠の成立と胎児胎盤系の解剖生理について理解する。
- 3) 女性のライフサイクル各期における性と生殖の健康問題について理解する。
- 4) 女性のライフサイクル各期における婦人科疾患について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

主に対面講義で進め、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する。

【評価】

筆記試験で評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) プリンシプル産婦人科学1 婦人科編 第3版, 2014, メジカルビュー社
- 2) プリンシプル産婦人科学2 産科編 第3版, 2014, メジカルビュー社
- 3) 我部山キヨ子編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期, 第6版, 2021, 医学書院
- 4) 我部山キヨ子編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 第6版, 2021, 医学書院
- 5) 横尾京子編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期, 第6版, 2021, 医学書院
- 6) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	4/12 14:55~	妊娠、胎児 発生、生殖器系の解剖と生理	橋本
2	6/29 16:50~	女性腫瘍学 (1)	橋本
3	7/2 14:55~	女性の性周期、妊娠の成立・生理、 ライフサイクル各期の性と生殖の健康問題と婦人科疾患(1) 小児期、思春期	折出
4	7/2 16:50~	ライフサイクル各期の性と生殖の健康問題と婦人科疾患(2) 成熟期、更年期、老年期	折出
5	7/9 14:55~	不妊・生殖内分泌 (1)	折出
6	7/9 16:50~	不妊・生殖内分泌 (2)	折出
7	7/17	女性腫瘍学 (2)	京
8	後期	骨盤解剖 (骨、筋、血管、神経)	京

助産薬理学

単位数：1単位

○直良 浩司：薬剤部 部長 教授
矢野 貴久：薬剤部 副部長 准教授
今岡 かおる：今岡皮膚科クリニック院長
麻酔科医：

1. 科目の教育方針

薬理学の基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）とともに、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について解説し、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解を深める。さらには母体救命救急に使用する薬剤取り扱い上での基礎的知識を修得する。

思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される和漢薬についての知識を深める。

2. 教育目標

- 1) 薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本を学習する。
- 2) 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について知識を深める。
- 3) 産婦に頻用される薬剤について知識を深める。
- 4) 妊娠中・授乳中の薬物療法について知識を深める。
- 5) 母体救命救急に使用される薬剤についての基礎的知識を学習する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

主に対面講義で進め、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する。

【評価】

筆記試験により評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

適時、参考資料を提示する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	周産期における薬物体内動態： 薬物の胎児への影響、薬物の母乳移行、新生児への薬物の使用	直良
2	妊娠・授乳への薬物の影響1： 向精神薬、抗けいれん薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬	直良
3	妊娠・授乳への薬物の影響2： 循環器官用薬、呼吸器官用薬、消化器官用薬、 アルコール・喫煙	直良
4	妊婦・授乳婦の感染症治療： 細菌・真菌・原虫・ウイルス、ワクチン接種、ウイルスキャリア妊婦	矢野
5	医薬品情報の収集、評価、活用法： 添付文書の読み方、インターネットによる情報検索、 妊娠と薬相談	矢野
6	ウイメンズヘルスと漢方（1）	今岡
7	ウイメンズヘルスと漢方（2）	今岡
8	帝王切開、麻酔・無痛分娩に使用される薬剤	麻酔科医

女性の健康教育学

単位数：2単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教
永井 真寿美：臨床看護学講座助教
山本 雅子：えんまる助産院院長

1. 科目の教育方針

健康教育の理論を活用して、女性と子ども、その家族のリプロダクティブに関連する心身の健康、各ライフステージにおける健康課題を踏まえた健康教育について理解し、対象集団・個人の特性を考慮した健康教育の在り方について学修し、考える。

対象のアセスメントを行い、健康教育学習指導案を立案し、対象の行動変容に向けた健康教育や保健指導を展開する能力を培う。

2. 教育目標

- 1) 女性のライフステージに対応した健康教育の意義が説明できる。
- 2) 健康教育の理念、モデル、健康教育を展開する上での方法について説明できる。
- 3) 健康教育の企画・実施・評価を行い、健康教育に必要な知識・技術を習得する。
- 4) 性や生殖、セクシュアリティなど女性と子どもの健康に関連する概念について説明できる。
- 5) 包括的性教育の基本概念について理解し、日本における性教育の課題について考察する。

3. 教育の内容、進め方、評価等

【方法と進め方】

基本、対面講義・演習で授業を進める。感染状況に応じて、講義・模擬演習は Webex、Teams によるライブ配信へと変更して行うが、臨床や学校での演習については状況に応じて延期または中止する。

1) 講義、模擬健康教育演習

- ・妊婦健診、出産・育児準備教育（母親・父親学級）、祖父母教室、沐浴指導、出産後の退院指導、母子家庭訪問の模擬演習を学内で行う。
- ・包括的性教育について理解を深め、人権、ジェンダー観、多様性、幸福についての健康教育の在り方についてディスカッションし、考察する。

2) 性と生殖に関する健康教育演習

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程の生徒を対象に、リプロダクティブヘルスを維持・増進するための身体づくりを目的とした子どもたちへの健康教育について考え、教育計画立案、実施、評価を行う。

【評価】

模擬健康教育計画書、健康教育演習の計画・実施・評価、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

International technical guidance on sexuality education

An evidence-informed approach

January 2018 UNFPA, UNESCO, UNAIDS, UNFPA, UNICEF, UN Women and WHO

【参考文献】

適時、提示する。

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	4/12 13:00~	健康教育の理論と方法、行動変容理論 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法	橋本
2	4/19 10:25~	健康教育計画の立案	橋本
3	4/26 10:25~	健康への影響要因の理解：行動変容を促すため（演習）	橋本
4	6/29 14:55~	出産準備教育 1 妊婦健康診査時の保健指導演習	橋本 日野・永井
5	5/14 13:00~	出産準備教育 2 母親学級(1)	橋本 日野・永井
6	前期	出産準備教育 2 母親学級(2)	橋本・永井
7	5/19 13:00~	子育て支援 1 沐浴指導	橋本・日野
8	後期	子育て支援 2 退院後の生活にむけた支援（1） 集団を対象とした退院後の生活にむけた子育て支援	橋本 日野・永井
9	後期	子育て支援 2 退院後の生活にむけた支援（2） 集団退院指導模擬演習	橋本 日野・永井
10	6/14 13:00~	子育て支援 2 退院後の生活にむけた支援（3） 個人への退院後の生活にむけた子育て支援	橋本 日野・永井
11	6/30 13:00~	子育て支援 2 退院後の生活にむけた支援（4） 個別退院指導模擬演習	橋本・永井
12	4/27 10:25~	子育て支援 3 母子家庭訪問	橋本

13		家庭訪問演習(1)	山本
14	4月下旬 ～5月末	家庭訪問演習(2)	山本
15		家庭訪問演習(3)	山本
16		後期	性教育のあり方と包括的性教育について考える(1)
17	後期	性教育のあり方と包括的性教育について考える(2)	橋本
18	後期	性教育のあり方と包括的性教育について考える(3)	橋本
19	後期	性教育のあり方と包括的性教育について考える(4)	橋本
20	後期	性と生殖に関する健康教育演習 中学性への健康教育実践演習(1) 健康教育計画立案	橋本 永井
21	後期	性と生殖に関する健康教育演習 中学性への健康教育実践演習(2) 健康教育計画立案	橋本 永井
22	後期	性と生殖に関する健康教育演習 中学性への健康教育実践演習(3) 健康教育計画立案	橋本 永井
23	後期	性と生殖に関する健康教育演習 中学性への健康教育実践演習(4) 健康教育計画立案	橋本 永井
24	後期	性と生殖に関する健康教育演習 中学性への健康教育 実践演習(5) 健康教育授業準備 デモンストラーション	橋本 永井
25	後期	中学校での健康教育授業①	橋本 日野・永井
26	後期	中学校での健康教育授業②	橋本 日野・永井
27	後期	ウイメンズヘルス 更年期・老年期女性への健康教育(1)	橋本
28	後期	ウイメンズヘルス 更年期・老年期女性への健康教育(2)	橋本
29	後期	ウイメンズヘルス 更年期・老年期女性への健康教育(3) 更年期・老年期女性外来見学	橋本
30	後期	ウイメンズヘルス 更年期・老年期女性への健康教育(3) 更年期・老年期女性外来見学	橋本

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
榊原 文：地域・老年看護学講座講師
比良 静代：比良助産院院長
三島 みどり：島根県立大学名誉教授
出雲市健康推進課 保健師

1. 科目の教育方針

地域母子保健の今日的課題について理解し、地域母子保健の意義について理解する。また、地域母子保健の政策・事業を概観し、その活動状況や課題を調査・分析し、その評価や対策について考え、地域母子保健活動における助産師の役割について考察する。

2. 教育目標

- 1) 地域母子保健の意義について説明できる。
- 2) 地域母子保健に関わる事業および政策について説明できる。
- 3) 地域における母子保健の課題について説明できる。
- 4) 地域母子保健活動における助産師の役割について考察できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

主に対面講義で進め、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する。

【評価】

筆記試験、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健, 第5版, 2016, 医学書院

【参考文献】

- 1) 母子衛生研究会「母子保健の主なる統計」、母子保健事業団

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	地域母子保健活動の理念と活動概要 地域母子保健活動における助産師の機能、活動の展開	橋本
2	最近の母子保健制度と母子保健施策の動向 地域において助産師に期待される役割	出雲市 保健師
3	地域における助産活動の実際と IPW (1)	比良
4	地域における助産活動の実際と IPW (2) 助産師のニーズ (教育・待遇)	三島
5	母子保健に関する地域診断	榊原
6	母子保健研究に基づく地域診断	榊原
7	演習 母子に関する施策のマッピング 地域において助産師に期待される役割	橋本
8	地域の周産期医療の現状	橋本

妊娠期助産診断・技術学

単位数：1 単位

- 橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
- 永井 真寿美：臨床看護学講座助教
- 折出 亜希：産婦人科学講座講師
- 皆本 敏子：産婦人科学講座講師
- 京 哲：産婦人科学講座教授
- 大熊 里依：歯科口腔外科学講座
- 平井 順子：栄養治療室栄養士長

1. 科目の教育方針

ローリスクおよびハイリスク妊婦の基本的な妊婦管理について学び、正常な妊娠経過をサポートするための助産診断と助産実践を行うための知識と技術を修得する。

2. 教育目標

- 1) 正常な経過における基本的な妊婦管理を理解する。
- 2) 正常経過およびハイリスク妊婦に対する助産過程の展開方法を修得する。
- 3) 妊娠期の女性とその家族のアセスメントおよび具体的なケア方法を理解する。
- 4) 胎児の成長発達と妊婦健康診査における観察（問診，計測診，胎児心拍数モニタリング）の方法とアセスメントについて理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および模擬事例を使用した演習、プレゼンテーションによって進める。

授業は主に対面で進め、感染状況に応じてWebex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドの講義を行う。

【評価】

筆記試験、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期, 第 6 版, 2021, 医学書院
- 2) 北川眞理子, 内山和美編:今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践課程 改訂第 4 版, 2019, 南江堂
- 3) プリンシプル産婦人科学 1 婦人科編 第 3 版, 2014, メジカルビュー社

- 4) プリンシプル産婦人科学2 産科編 第3版,2014,メジカルビュー社
 5) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020,日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会
 6) 中井章人: 図説 CTG テキスト,2016,メジカルビュー社

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	4/30 14:55~	妊娠期の産科学的診断 妊娠悪阻, 流産, 異所性妊娠, 胎盤の肉眼的初見、 胎盤異常(前置胎盤, 癒着胎盤), 絨毛性疾患, 他	折出
2	4/30 16:50~	妊娠期の異常と管理(1) 羊水検査と出生前診断, 臍帯異常、早産(切迫早産・絨毛 膜羊膜炎・頸管無力症・前期破水)と治療, 他	折出
3	5/7 16:50~	妊娠期の異常と管理(2) 血液型不適合妊娠, 胎児発育不全, 妊娠高血圧症候群, 子癇, HELLP 症候群, 常位胎盤早期剥離	皆本
4	6/22 16:50~	妊娠期の異常と管理(3) 合併症妊糖代謝異常合併妊娠, 代謝・内分泌疾患, 血液疾患, 腎・泌尿器疾患, 他	京
5	6/7 13:00~	妊娠期の助産診断とケア(1)	橋本
6	6/15 10:25~	妊娠期の助産診断とケア(2)	橋本
7	6/22 10:25~	妊娠期の異常とケア	橋本
8	5/17 14:55~	妊娠期の口腔健康管理(1)	大熊
9	5/17 16:50~	妊娠期の口腔健康管理(2)	大熊
10	6/2 14:55~	妊娠期の栄養管理(1)	平井
11	6/7 14:55~	妊娠期の栄養管理(2)	平井
12	後期	妊娠期の助産診断(3)	橋本
13	後期	妊婦健康診査演習(1)	橋本
14	後期	妊婦健康診査演習(2)	橋本
15	後期	妊婦健康診査演習(3)	橋本

分娩期助産診断・技術学

単位数：2単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
永井 真寿美：臨床看護学講座助教
日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教
皆本 敏子：産婦人科学講座講師
原 友美：産婦人科学講座助教
石橋 朋佳：産婦人科学講座助教

1. 科目の教育方針

ローリスクおよびハイリスク産婦の管理について学び、正常な分娩経過のサポート、生理的状态からの逸脱を予測し、必要な助産ケアを行うための助産診断と助産実践を行うための知識と技術および問題解決能力を修得する。

2. 教育目標

- 1) 分娩期にある女性と胎児の心身の生理的なプロセスと生理的状态からの逸脱を助産診断するために必要な知識を修得する。
- 2) 産婦の健康状態、正常な分娩経過と正常からの逸脱について根拠をもって助産診断することができる。
- 3) 科学的根拠に基づいた分娩介助法と助産ケア技術について修得することができる。
- 4) 女性に寄り添う助産実践や分娩期における助産師の役割について考察できる。
- 5) 胎児の異常とその原因・要因、治療、管理について学び、その援助および予防に向けた助産ケアについて修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

講義は、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する場合もある。演習は、対面が不可になった場合は、演習を延期する。

【評価】

筆記試験、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 第 6 版, 2021, 医学書院
- 2) 北川真理子, 内山和美編:今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践課程 改

訂第4版, 2019, 南江堂

- 3) プリンシプル産婦人科学1 婦人科編 第3版, 2014, メジカルビュー社
- 4) プリンシプル産婦人科学2 産科編 第3版, 2014, メジカルビュー社
- 5) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会
- 6) 中井章人: 図説 CTG テキスト, 2016, メジカルビュー社
- 7) 細野茂春監修: 日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト 第3版, 2016, メジカルビュー社

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	5/14 16:50~	分娩期の異常(1) 微弱陣痛と過強陣痛, 胎児機能不全, 遷延分娩, 分娩停止, 吸引分娩, 他	皆本
2	5/21 16:50~	異常出血の原因および鑑別診断、ショック時の病態生理と 診断, 検査, 処置について、分娩時の異常出血	皆本
3	7/12 14:55~	陣痛誘発、無痛分娩、産科手術	原
4	5/26 16:50~	胎児の健康状態 胎児心拍数モニタリングにおける CTG 判読法の理解	石橋
5	7/13 10:25~	胎児の健康状態: 胎児心拍数モニタリングにおける CTG 判 読法の理解	橋本
6	7/21 13:00~	分娩期の助産ケア (1) 演習	橋本・永井
7	7/21 14:44~	分娩期の助産ケア (2) 演習	橋本 日野・永井
8	4/16 13:00~	正常な分娩経過 (分娩の 3 要素)(1)	橋本
9	4/16 14:55~	正常な分娩経過 (分娩の 3 要素)(2) 胎児の健康度および胎児付属物の診断	橋本
10	4/16 16:50~	分娩介助の意義・原理と基本技術①	橋本 日野・永井
11	4/19 14:55~	分娩介助の意義・原理と基本技術②	橋本 橋本・永井
12	4/19 16:50~	分娩介助の意義・原理と基本技術③	橋本 日野・永井
13	4/30 13:00~	分娩介助の意義・原理と基本技術④	橋本 日野・永井
14	後期	分娩介助の意義・原理と基本技術⑤肩甲難産	橋本

15	6/14 14:55~	間接介助・ベビーキャッチ 新生児出生直後～2時間の健康評価と助産診断	橋本 日野
16	5/24 13:00~	出生直後の新生児の助産診断とケア 新生児出生直後～分娩後2時間までの健康評価と処置	橋本 日野
17	7/15 13:00~	胎児アセスメントから出生直後の新生児の助産診断①)	橋本 日野
18	後期	胎児アセスメントから出生直後の新生児の助産診断②)	橋本 日野
19	7/9 13:00~	NCPR Aコース 準備演習(1)	日野
20	7/9 18:30~	NCPR Aコース 準備演習(2)	日野
21	4/12 10:25~	分娩期助産診断・助産過程(1)	橋本
22	4/20 10:25~	分娩期助産診断・助産過程(2)	橋本
23	4/26 14:55~	分娩期助産診断・助産過程(3)	橋本
24	5/11 10:25~	分娩期助産診断・助産過程(4)	橋本
25	後期	分娩期の助産技術2 側臥位分娩、フリースタイル分娩(1)	橋本
26	後期	分娩期の助産技術2 側臥位分娩、フリースタイル分娩(2)	橋本
27	後期	分娩期の助産ケア技術演習(1)	橋本 日野・永井
28	後期	分娩期の助産ケア技術演習(2) 代替え医療ケア	橋本
29	7/16 13:00~	チーム医療 チームステップス	加藤
30	7/16 14:55~	周産期救急母体救命 母体急変時における助産師の役割	加藤

産褥・新生児期助産診断・技術学

単位数：2単位

- 橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
- 秋鹿 都子：臨床看護学講座准教授
- 柴田直昭：小児科
- 板倉 正幸：乳腺内分泌外科診療教授
- 平井 順子：栄養治療室栄養士長
- 山本 雅子：えんまる助産院院長
- 門城 すみ子：新生児集中ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

ローリスクおよびハイリスク褥婦と新生児の管理について学び、母児の出産後の正常な経過をサポートするための助産診断と助産実践を行うための知識と技術および問題解決能力を修得する。乳幼児期の子どもの成長発達および生活環境を理解し、退院後の母児への継続的な援助を行う知識と技術を修得する。

2. 教育目標

- 1) 褥婦の生理的な身体的変化、心理的变化、社会的変化、そして正常な妊娠経過とその逸脱状態について理解できる。
- 2) 褥婦の健康状態、正常な妊娠経過と正常からの逸脱について根拠をもって助産診断することができる。
- 3) 産褥期の助産過程の展開に必要な知識と技術を習得する。
- 4) 母乳哺育に関するケアの基本的知識と技術を実施できる
- 5) 胎児・新生児の身体的変化、分娩経過から胎児・新生児の逸脱状態について助産診断できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

授業は主に対面で進め、感染状況に応じてWebex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドの講義を行う。技術演習は対面で行い、対面演習ができない場合は、技術演習については延期する。

【評価】

筆記試験、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 第 6

版, 2021, 医学書院

- 2) 横尾京子編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期, 第 6 版, 2021, 医学書院
- 3) 北川眞理子, 内山和美編：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践課程 改訂第 4 版, 2019, 南江堂
- 4) プリンシプル産婦人科学 1 婦人科編 第 3 版, 2014, メジカルビュー社
- 5) プリンシプル産婦人科学 2 産科編 第 3 版, 2014, メジカルビュー社
- 6) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会
- 7) 仁志田博司編：新生児学入門 第 5 版, 2018, 医学書院
- 8) 水野克己, 水野紀子著：母乳育児支援講座 第 2 版, 2017, 南山堂

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	5/14 14:55~	新生児総論	柴田
2	5/21 14:55~	正常新生児	柴田
3	5/28 14:55~	新生児各論(正期産児)	柴田
4	6/4 14:55~	新生児各論(早産児)	柴田
5	後期	小児の発達評価	秋鹿
6	6/1 13:00~	乳児の身体機能、知的・情緒的・社会的機能と養育	秋鹿
7	6/8 13:00~	幼児の身体機能、知的・情緒的・社会的機能と養育	秋鹿
8	6/15 13:00~	学童の身体機能、知的・情緒的・社会的機能と養育	秋鹿
9	5/18 10:25~	産褥期の助産診断とケア①：退行性変化	橋本
10	5/25 10:25~	産褥期の助産診断とケア②：進行性変化・母乳栄養	橋本
11	6/1 10:25~	産褥期の助産診断とケア③：乳房ケア、乳房トラブル	橋本
12	6/16 16:50~	産褥期の助産診断とケア③：乳房ケア、乳房トラブル	橋本
12	6/21 13:00~	乳房ケア技術演習 乳房の触り方・観察の仕方①	山本

13	6/25 13:00~	出産準備教育演習 腹帯	山本
14	6/28 10:25~	産褥期の助産診断とケア④：褥婦の心理・母子関係、家族関係の特徴と家族ケア 家族関係 親支援	橋本
15	7/13/20 13:00~	Family centered care	秋鹿
16	後期	産褥期助産診断演習(1)	橋本
17	後期	産褥期助産診断演習(2)	橋本
18	後期	産褥期の助産診断とケア(5)：ハイリスク産褥期 CS 助産診断とケア(演習)	橋本
19	6/18 14:55~	乳腺疾患 乳がん、乳腺炎と治療1	板倉
20	6/18 16:50~	乳腺疾患 乳がん、乳腺炎と治療2	板倉
21	後期	小児のアレルギー：食物アレルギー	秋鹿
22	後期	小児のアレルギー：アトピー性皮膚炎	秋鹿
23	後期	小児のアレルギー：気管支喘息	秋鹿
24	6/14 16:50~	栄養 授乳期の栄養上の特性と問題点 新生児の栄養、補完食の進め方	平井
25	後期	ハイリスク児へのケア 重心	橋本
26	後期	NICU ケア	門城
27	後期	ハイリスク児のケア・在宅医療に向けての支援	門城
28	後期	ハイリスク児のケア	橋本
29	後期	ペリネイタルロス(1)	橋本
30	後期	ペリネイタルロス(2)	橋本

助産臨床推論

単位数：1単位

○橋本 龍樹：臨床看護学講座教授
橋本 美幸：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

より自律した産師の育成を図るため、臨床推論の基本的な概念を理解し、臨床診断における診断の概念や疾病の定義，診断仮説（鑑別診断）の設定および確定診断への絞り込みのプロセスを習得する。

2. 教育目標

- 1) 臨床推論に関連する基本的な概念を理解する。
- 2) 対象の主訴から疾患の頻度と重症度、緊急度の高い症状・病態の確定診断を絞り込む臨床診断の思考プロセスを習得する。
- 3) 妊娠・分娩経過が正常から異常に移行するリスクを速やか、かつ、適切に判断する力を培う。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

授業は主に対面で進め、感染状況に応じてWebex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドの講義を行う。

【評価】

レポートで評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

適時、提示する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	臨床推論に関連する基本的な概念 助産診断と臨床推論の相違	橋本龍
2	臨床推論の思考プロセス（情報収集，鑑別診断，仮説の検証，確定診断）	橋本
3	臨床推論事例展開 1 妊娠初期～中期	橋本
4	臨床推論事例展開 2 妊娠中期～後期	橋本
5	臨床推論事例展開 3 分娩期	橋本
6～7	臨床推論事例展開 4 分娩期	橋本
8	臨床推論事例展開 5 産褥期・子育て期	橋本

助産管理学

単位数：2単位

- 橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
- 伊藤 智子：地域・老年看護学講座教授
- 松浦 志保：臨床看護学講座講師
- 三島 みどり：島根県立大学名誉教授
- 比良 静代：比良助産院院長
- 高村 浩美：隠岐広域連後立隠岐病院師長
- 数森 和栄：島根大学附属病院師長
- 渋川 あゆみ：マザリー産科婦人科医院 副院長
- 島根県健康福祉部医療施策課課長

1. 科目の教育方針

マネジメントの基本的考え方を学び、周産期医療の質と安全を担保する助産管理と目標管理について学修する。

臨床・地域の健康問題や課題の解決に向けた看護・助産の政策的働きかけと政策提言までのプロセスについて理解を深め、専門領域から政策提言ができる基礎的能力を培う。

2. 教育目標

- 1) マネジメントの基本的考え方を理解し、助産管理の在り方について考える。
- 2) 目標管理について理解し、自身の目標管理を考えることができる。
- 3) 様々な助産実践の場での（総合病院、診療所、助産所）における管理運営（医療法・保助看法、安全性）について理解できる。
- 4) 周産期医療システム、助産師外来・院内助産など助産管理運営について理解する。
- 5) 看護の政策的働きかけと政策提言について学修し、臨床や地域の周産期医療、母子保健の現状の改善と課題解決に向けた方策・運営について理解できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

対面、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用しながら講義を進める。

保健医療福祉政策論（伊藤智子教授）の伊藤先生(1,4~5回)、牧野先生(2~3回)、馬庭先生(10~12回)の講義を聴講し、社会・医療・保健・看護等の政策について学び、分析、改善・改革にむけた取り組み方法について理解する。この学びを基に、少子化、母子保健、周産期医療に関連する行政・国の政策の現状と課題の分析を行い、今後の母子保健や医療の在り方等について考察する。。

この科目は地域助産学演習の基盤の科目となります。

【評価】

学生のプレゼンテーション、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子, 毛利多恵子編：助産学講座 10 助産管理, 第 5 版, 2016, 医学書院
- 2) 福井トシ子編：[新版]助産師業務要覧 第 3 版 [Ⅰ基礎編] 2021 年版, 日本看護協会出版会
- 3) 福井トシ子編：[新版]助産師業務要覧 第 3 版 [Ⅱ実践編] 2021 年度版, 日本看護協会出版会
- 4) 福井トシ子編：[新版]助産師業務要覧 第 3 版 [Ⅲアドバンス編] 2020 年度版, 日本看護協会出版会

【参考文献】

- 1) 日本助産師会：助産業務ガイドライン 2019
- 2) 助産所開業マニュアル、日本助産師会
- 3) 見籐隆子、石田昌宏、大串正樹、他：看護職者のための政策過程入門 第 2 版—制度を変えると看護が変わる—、日本看護協会出版会

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	助産管理の概念：助産管理と評価、目標管理 マネジメント管理の基本概念（ドラッカー理論）	橋本
2	産科医療事故とリスクマネジメント	松浦
3	助産管理の実際-助産所- 助産所の運営と助産業務管理、開業準備	比良
4	助産管理の実際-離島病院 - 隠岐病院の管理、院内助産	高村
5	助産管理の実際 - 総合周産期母子医療センター -	数森
6	助産管理の実際 - 院内助産、子育て研究所	渋川
7	看護協会と助産師活動 助産師のキャリア支援	渋川
8	助産管理演習(1) 助産所開業の準備演習	橋本
9	助産管理演習(2) 助産所開業の準備演習	橋本
10	災害時における助産管理	橋本
11	島根県の母子保健施策	(島根県 健康福祉部 医療施策課)

12	保健医療福祉政策論	伊藤
13	保健医療福祉政策論	伊藤
14	保健医療福祉政策論	伊藤
15	保健医療福祉政策論	伊藤

助産学実習 I

単位数：9 単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
永井 真寿美：臨床看護学講座助教
日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教
松浦 志保：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

妊娠・分娩・産褥・新生児期の基礎的な助産実践を、科学的根拠に基づいて実践できる能力と正常からの逸脱を予防するための助産診断力および実践力を修得する。この過程を通し、助産師の責務と規範を学びつつ助産師としてのアイデンティティを育む。

2. 実習目標

- 1) 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を理解することができる。
- 2) 妊娠期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 3) 分娩期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 4) 分娩期の産婦と胎児の正常性からの逸脱、異常兆候を予測し、適切な時期に報告、医師と協働し助産ケアを考えることができる。
- 5) 産褥期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 6) 新生児期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 7) 自分の行った助産ケアを振り返り、課題を明確にし、実践につなげることができるリフレクシオン力を修得する。
- 8) 周産期に必要な保健医療チームとの連携、及び助産師の責任と役割について考えることができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 実習施設

江田産婦人科クリニック、隠岐連立立隠岐病院、済生会江津病院、
島根大学医学部附属病院、日本赤十字社益田赤十字病院

2) 実習時期（期間）

前期実習：1 年次前期（5 週間）

後期実習：1年次後期（4週間）

3) 実習内容

- ・分娩介助、ベビーキャッチ、産褥・新生児事例、帝王切開見学及び産褥事例、など
- ・保健指導、助産師外来見学
- ・妊娠中期～産後1か月健診までの継続事例

【評価】

実習目標の達成度により評価を行う。

- 1) 実習記録：40%
- 2) 実習状況（自己評価表含む）：40%
- 3) カンファレンス資料と実習レポート：20%

助産学実習Ⅱ

単位数：2単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教
永井 真寿美：臨床看護学講座助教
松浦 志保：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

ハイリスク妊産褥婦と胎児・新生児のもつ疾患・リスクおよびその治療・管理について学修し、身体・心理・社会的側面から統合的に対象を理解する力と助産実践力を養う。

ハイリスク児を持つ親とその家族を取り巻く社会環境や援助など様々な問題について学び、医療・福祉など地域関連施設の多職種との協働や連携のあり方、包括的なケアについて探求できる力を養う。ハイリスク母児へのケアや援助を通して看護職の倫理的態度について考察を深める。また、ハイリスク児を尊重したケアについて理解できる。

2. 教育目標

- 1) 無痛分娩を行う産婦の管理及び助産ケアを指導のもと実践できる。
- 2) ハイリスク妊産婦の病態、治療方針、管理について理解し、助産過程の展開と対象の状態に応じた助産ケアを、指導者の指導のもと実践できる。
- 3) ハイリスクの妊産褥婦の心理的、社会的影響をアセスメントし、包括的なケアを導き出せる。
- 4) ディベロップメンタルケアなど新生児を尊重したケアについて理解できる。
- 5) ハイリスク児出生までの経過、児の病態、治療方針について理解し、アセスメントと児の状態に応じたケアについて述べられる。
- 6) ハイリスク児が家族に与える影響をアセスメントし、家族を含めた包括的なケアについて考察できる。
- 7) ハイリスク妊産褥婦やハイリスク児の退院に向けた支援など医療施設内や地域関連施設との連携の在り方について学び考察できる。
- 8) ハイリスク母児とその家族へのケアの際の助産師の役割と倫理的態度について考察できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 実習施設

島根大学医学部附属病院
日本赤十字社益田赤十字病院
東部島根医療福祉センター

2) 実習時期 (期間)

1 年次後期 (2 週間)

3) 実習内容

- ・無痛分娩を行う産婦管理及び助産ケア (分娩介助を含む)
- ・ハイリスク妊婦事例の受け持ち実習
- ・NICU 見学実習
- ・重症心身障害児の生活見学実習

【評価】

実習目標に沿って以下の内容から総合的に評価する

実習記録、実習への取り組み姿勢、妊産褥期の評価表、カンファレンス参加状況、
実習レポート

地域助産学実習

単位数：6単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
永井 真寿美：臨床看護学講座助教
日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教
松浦 志保：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

地域母子保健活動について多角的な視点から総合的に理解し、母子保健事業と医療・福祉との連携・協働の実際を理解する。また、助産所での妊産褥婦および新生児・乳児への助産実践を通し、妊娠期から子育て期における助産実践力の強化を図ると共に助産所の管理運営を実践的に学ぶ。地域母子保健活動における助産師の役割・働き方について考察する。

2. 教育目標

- 1) 地域における母子保健事業および母子保健活動の実際について理解できる。
- 2) 地域の母子保健活動における多職種連携・協働の実際を理解できる。
- 3) 地域における子育て支援システムについて多角的な視点から総合的に理解できる。
- 4) 地域における助産師の役割・働き方について考察する。
- 5) 助産所の経営・管理運営について実践的に学ぶ。
- 6) 助産所での妊産褥婦および新生児・乳児への助産実践を通し、妊娠期から子育て期における助産実践力の強化を図る。
- 7) 助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）を理解し、医療連携システムについて考察できる。
- 8) 助産所と連携する各施設・団体の活動の実際を理解できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 地域行政事業所実習

- ・実習時期及び期間：1年次後期、1週間
- ・実習場所・施設：出雲市、雲南市、松江市
- ・実習内容：母子保健事業、子育て支援に関連する事業への参加・見学
母子への家庭訪問への同伴・見学等

2) 助産所実習

- ・実習時期及び期間：2年次後期、5週間
- ・実習場所・施設：目白バースハウス、助産所ドゥーラえむあい
- ・実習内容：分娩介助を含む妊娠期から産褥期までの助産ケア
産後ケア、助産管理業務

【評価】

実習目標の達成度により評価を行う。

実習記録、妊産褥期の評価表、カンファレンス資料、実習レポート等

地域助産学演習

単位数：3単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

女性の健康問題や課題を女性外来、文献、データ、対象地域の地区踏査などから明らかにし、問題解決のための課題、施策について提案できる。助産師の専門性を活かした地域活動と多職種との連携・協働の実践を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) ライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)の女性への健康支援の実践について理解を深め、家庭・職場・地域における女性の健康支援について考える。
- 2) 就労女性に対する母子保健活動の意義と現状を理解し、課題と助産師の役割について考える。
- 3) 地域・医療へき地における周産期医療の実践について学び、助産師の専門性を活かした活動・役割について考える。
- 4) 地域の母児・女性の健康問題・課題を明確化し、その解決に向けた対策を考えることができる。
- 5) 多職種間の連携・協働について学び、これが円滑に行われるための対策について学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 演習時期と方法

時期：2年次前期

内容：特定の地域の母子・女性の健康問題・課題を明確化し、その解決に向けた対策を考え、プレゼンすることを目標とする。

助産学特論、助産管理論などで学修した女性の健康、地域・へき地の周産期医療、母子等の問題・課題から演習対象と関心テーマを決定し、演習計画を立てて演習を行い、評価する。

2) 演習場所と内容

(1) 島根大学医学部附属病院

産後ケア外来、プレコンセプション外来、女性ヘルスケア外来での演習

(2) 隠岐病院島の医療人育成センター 地域連携部

- ・ 学生が主体的に指導者と相談し、実習スケジュールを調整、決定する
- ・ 学内で演習計画を文献やデータ、地区踏査等から対象地域の地区診断を行い、問

題と課題を明らかにする。

- ・この問題と課題を解決するための対策(事業)を考え、プレゼンテーションを行う。

【評価】

演習計画書、報告書、発表を総合的に評価する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1～5	演習オリエンテーション 演習計画の立案、指導	橋本
6～14	女性外来演習	橋本 産婦人科医師、 看護師・助産師
15～44	学生の演習計画に沿って行う	橋本 隠岐人材育成 センター
45	成果発表	橋本 隠岐人材育成 センター

リスクマネジメント論

単位数：2単位

○宮本まゆみ：基礎看護学講座講師

内田宏美：天理医療大学 医療学部長

川上利枝：島根大学医学部附属病院副看護部長

1. 科目の教育方針

医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえる。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要に迫られている。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習する。

2. 教育目標

- 1) 医療リスクマネジメントの理念・概念・理論・基本的な方法を理解する。
- 2) 現場の医療安全推進者としての活動の遂行に必要な基礎的知識と技術を修得する。
- 3) 医療安全管理者に求められる知識と・技術を理解し、その役割を展望する。
- 4) 医療安全の遂行における情報ネットワークの必要性・重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

文献購読は Teams によるライブ配信、事例検討を含む講義は対面での授業行う。

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 臨床現場の取組みを批判的に分析し、ディスカッションをふまえて課題を解決するための改善策を見出す。

【評価】

評価は授業への主体的参加度、課題学習、プレゼンテーション、課題レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

1) 基本テキスト

- (1) Lコーン他編：人は誰でも間違える、日本評論社、2000
- (2) アン・ベイジ編：患者の安全を守る、日本評論社、2006
- (3) 河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー、医学書院、2004

2) 参考図書

- (1) 米国医療の質委員会/医学研究所編：医療の質・谷間を超えて 21 世紀システムへ、日本評論社、2002
 - (2) 嶋森好子・他：病棟から始めるリスクマネジメント、医学書院、2003
 - (3) 内田宏美・他：実践から学ぶ病院リスクマネジメント、診断と治療社、2005
 - (4) J リーズン：保守事故－ヒューマンエラーの未然防止のマネジメント、日科技連、2005
- *その他、授業の中で適宜紹介する。

5. 教育内容

※後期(木)13:00～14:40

回	月/日	内 容	講師
1	6/27(日) 10:15～ 15:30	※ 「山陰リスクマネジメント研究会」 場所：米子市 鳥取大学医学部記念講堂	宮本
2		医療リスクマネジメントの実際 医療安全ネットワーキング構築の実際	
3	10/7	我が国の医療安全の取り組みの経緯 医療安全管理の理念と方法	内田
4	10/14	実践から学ぶ病院リスクマネジメント	内田
5	10/21	医療安全管理者の役割と責務	内田
6	10/28	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
7	11/4	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
8	11/11	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
9	11/18	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
10	11/25	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
11	12/2	リスクマネジメントの理論と方法 ・ヒューマンエラーの原理 ・エラー分析の手法	川上
12	12/9	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	川上
13	12/16	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	川上
14	12/23	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	川上
		課題レポート 〆切 1/13(木) ：医療安全における看護専門職の責務と課題	宮本

看護人材育成論

単位数：2 単位

○津本優子：基礎看護学講座教授

任 和子：京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻教授

1. 科目の教育方針

専門職としての看護職は、時代の変化に対応して、幅広い視点から社会の健康問題を捉え、自ら課題に取り組み、自らの役割を開拓していかなければならない。特に、CNS をはじめとする大学院修了者には、看護継続教育を企画し運営して、看護専門職の人材育成においてリーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目では、専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方と方法を、理論的根拠に基づいて学習する。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善点を反映した教育計画を検討することを通して、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 看護学の基礎教育及び継続教育の歴史と現状、課題を理解する。
- 2) 看護専門職のキャリア開発における基本概念、理論を理解する。
- 3) 看護継続教育の実際を批判的に分析し、改善すべき課題を明確化できる。
- 4) ジェネラリスト育成のモデルプランを作成できる。
- 5) スペシャリスト活用における課題を明確化し、対策を提示できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本的にゼミ形式で実施し、学生の課題に対するプレゼンテーションに基づいて討論し、学習を深める。
- 2) ゼミは、Teams によるライブ配信を中心とする。

【評価】

評価は授業の参加度、プレゼンテーションの内容、レポートを総合的に評価する。

4. 参考文献等

- 1) 渡辺三枝子編著『新版 キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2007
 - 2) P. ベナー (井部俊子訳)：ベナー看護論、医学書院
 - 3) エドガーH. シャイン『キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう』白桃書房、2003
 - 4) 勝原裕美子著『看護師のキャリア論』ライフサポート社、2007
- *その他 随時、授業で紹介する

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	10/7	看護教育・看護学教育の歴史的考察 看護継続教育をめぐる動向と展望及び課題	津本
2	10/14	専門職業人とキャリア 1) 専門職の概念 2) 生涯発達心理学の視点とキャリア 3) 専門職業人としての看護職のキャリア・ディベロップメント	津本
3	10/21	看護専門職業人の育成 ベナー看護論とその活用：クリニカルラダー・システム ①ラダーの段階 ②臨床実践能力の3側面	津本
4・5	10/29 (金) 13:00- 16:35 (予定)	看護人材育成と活用の実際 ・ジェネラリストの育成と活用の実際と課題 ・スペシャリスト育成と活用の実際と課題	任
6	11/4	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ③卒後継続教育の視点と方法	津本
7	11/11	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ④新人～一人前看護師の看護実践能力育成の視点・方法・課題	津本
8	11/18	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ⑤中堅～ベテラン看護師の臨床実践能力育成の視点・方法・課題	津本
9	11/25	看護専門職業人の育成 4) 専門看護師の教育的機能、スペシャリストの育成と課題 5) 看護管理者、教育研究者の育成と課題	津本
10	12/2	継続教育の展開 ・教育を支える学習理論	津本
11	12/9	・看護学教育における教授法	
12	12/16	・評価の目的・プロセスと種類・評価方法 ラダーシステムによる教育プログラムの作成（演習）	
13	12/23	・現行教育プログラムの課題 ・臨床実践能力の帰納的分類、実践能力育成課程の構造化 ・教育目標・教育方法・評価方法の設定 （新卒看護師・一人前看護師・中堅看護師） ・ジェネラリストとスペシャリストの協働モデルの検討	
14	1/13	教育プログラムの発表	

学外講師の担当コマは集中で行う。講師の都合により変更することがある。

看護情報管理論

単位数：2単位

○津本優子：基礎看護学講座教授

石垣恭子：兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科教授

1. 科目の教育方針

看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の決定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築におけるの理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授する。

2. 教育目標

- 1) 看護と情報に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護情報システムの在り方や構築方法について理解する。
- 3) 看護情報の標準化について適用を試みる
- 4) 看護情報教育について現状を知り、情報教育の在り方を認識する。
- 5) 地域医療情報システムについて理解し、認識を深める。
- 6) 情報倫理と個人情報保護法について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本的にゼミ形式で実施し、学生の課題に対するプレゼンテーションに基づいて討論し、学習を深める。
- 2) ゼミは、Teams によるライブ配信を中心とする。

【評価】

授業への主体的な参加（発言等）の程度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) 基本テキスト（キャサリン・Jハンナ他：看護情報学への招待、中山書店）は絶版になっているため、入手できなくてよい。
- 2) 参考文献については講義中に紹介する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/9	課題分担の決定 情報科学の基礎 1	津本
2	4/16	情報科学の基礎 2	津本
3	4/23	看護情報学教育と専門職性	津本
4	5/7	看護情報と EBN ・看護系学会ホームページと文献検索システム ・看護情報の分析とデータマイニング	津本
5	5/14	看護情報学の成立と看護情報の特徴と分析	津本
6	5/21	病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	津本
7	5/28	看護データの標準化 ・看護情報の標準化例 NANDA NIC NOC OMAHA ICNP	津本
8・9		情報倫理と患者情報 ・看護情報を研究に使用する際のガイドライン ・守秘義務と患者情報の取り扱い・個人情報保護法	石垣
10・11		看護データの標準化 ・看護電子記録のための看護用語の標準化 ・標準看護用語、MEDIS 開発例と手順 看護データの標準化 ・データの集積と活用システムの構築	石垣
12		病院・看護システム開発 ・看護における情報システムの適用	津本
13		病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	津本
14・15		保健情報学と地域社会 ・行政における保健、医療、福祉情報システム ・介護保険とコンピュータシステム・遠隔看護とシステム	石垣
		課題レポートの提出 ・各自の分担部分を深め、考察を加えてレポートを作成する	津本

※6月以降の日程は、講義内で提示します。 なお、非常勤講師の担当コマは、時間割とは異なる時間になることがあります。

保健医療福祉政策論

単位数：2 単位（時間数：30 時間）

開講年次及び学期：1 年次後期

- 伊藤 智子：地域・老年看護学講座 教授
牧野由美子：ヘルスサイエンスセンター島根
医療技監・研究局次長
馬庭 恭子：元 YMCA 訪問看護ステーション 所長
（地域看護専門看護師）
榊原 文：地域・老年看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

看護管理者、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者には、社会のヘルスニーズの変化に対応して看護の機能や役割を考え、未来の姿を創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。さらには、問題の本質的解決のために必要な施策を提示し、施策化・制度化に繋いでいくマネジメント能力が求められる。

本科目では、少子・高齢化社会のヘルスニーズの変化に対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、未来の医療・保健・福祉・看護等について考察する能力を習得する。

2. 教育目標

- 1) 少子高齢化が進行する我が国の保健医療福祉政策の動向及び、国民の健康の保持増進を支える政策・制度の重要性と課題について理解する。
- 2) 我が国の看護制度の歴史的変遷、及び国民の健康を支えるための看護制度・政策の重要性と課題を理解する。
- 3) 医療・保健・福祉・看護等の政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、考察できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

講義は基本対面、必要に応じオンライン講義とし、以下のように進める。

- 1) 保健・医療・福祉・看護に関する政策を学習し、その内容を理解する。
- 2) 医療制度改革を踏まえ、医療現場の現状や課題、実施されている施策について自己学習し、そのレクチャーを基に、学生・教員とディスカッションを行う。
- 3) ディスカッション内容を踏まえ、医療現場（看護実践）の課題を考案する。

【評価】

・プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

- 1) 国民衛生の動向
- 2) 見籐隆子、石田昌宏、大串正樹、他：看護職者のための政策過程入門 第2版—制度を変えると看護が変わる—、日本看護協会出版会

《参考資料》

- ・国民の福祉と介護の動向、保険と年金の動向
- ・井部俊子他監修『看護管理学習テキスト⑦ 看護制度・政策論』日本看護協会出版会

5. 教育内容

※ 後期(木)18:30~20:00

回	月/日	内 容	講師
1	9/4(土) 11:00- 12:30	保健医療福祉政策論 ガイダンス 我が国の保健・医療・福祉制度の変遷 看護政策の現状と課題	伊藤
2	9/4(土) 13:30- 16:45	わが国の社会政策・制度 1) 超高齢社会における社会保障のあり方と課題 2) 超高齢社会の保健医療福祉を支える制度(1) ・医療制度改革 ・健康日本21 ・後期高齢者医療制度 3) 超高齢化の進展に対応した保健医療政策(1) ・島根県の取り組み	牧野
3			
4	9/25(土) 9:30- 12:45	超高齢社会の保健医療福祉を支える制度(2) ・介護保険制度 ・新オレンジプラン(認知症高齢者ケアの充実) 超高齢化の進展に対応した保健医療政策(2) 高齢者の生活課題と看護学研究	伊藤
5			
6	9/30(木)	課題のプレゼンとディスカッション①前半	伊藤 榊原
7	10/7(木)	課題のプレゼンとディスカッション②前半	伊藤 榊原
8	10/14(木)	課題のプレゼンとディスカッション③前半	伊藤 榊原
9	10/21(木)	課題のプレゼンとディスカッション④前半	伊藤 榊原
10	10/28(木)	課題のプレゼンとディスカッション⑤後半	伊藤 榊原
11	11/4(木)	課題のプレゼンとディスカッション⑥後半	伊藤 榊原
12	11/11(木)	課題のプレゼンとディスカッション⑦後半	伊藤 榊原
13	11/20(土) 9:30- 14:30	超高齢化社会であるわが国のヘルスケアニーズと看護 (広島からオンライン講義) * 超高齢社会の保健医療福祉の中での看護職の役割 ・病院から地域へ: 総合看護・継続看護で健康生活を支える ・end of lifeを支える: 訪問看護、在宅、施設における看護の充実 ターミナルケアの充実	馬庭
14			
15			
		課題レポートの提出 12月16日(木) 〆切	

老年疾患治療論

単位数：2単位
開講年次及び学期：1年次前期

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ○橋本龍樹：臨床看護学講座 教授 | 田邊一明：内科学第四 教授 |
| 磯部 威：呼吸器・臨床腫瘍学 教授 | 長井 篤：内科学第三 教授 |
| 秋山恭彦：脳神経外科学 教授 | 内尾祐司：整形外科学 教授 |
| 馬庭壯吉：リハビリテーション医学 教授 | 蓼沼 拓：リハビリテーション医学 助教 |
| 森田栄伸：皮膚科学 教授 | 泌尿器科学 講師 |
| 石原俊治：内科学第二 教授 | 川島耕作：消化器内科 講師 |
| 菅野貴浩：歯科口腔外科学 教授 | 長濱道治：精神医学 助教 |
| 大拙孝治：精神科神経科 講師 | 加藤真紀：地域・老年看護学講座准教授 |

1. 科目の教育方針

老年期に発生頻度の高い疾患や症候群について、高齢者の生体反応の病態生理ならびに臨床的なアセスメントの方法論と最新の治療を学び、科学的根拠に基づく看護実践能力の修得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 老年期疾患の特徴と老化のメカニズムについて説明できる。
- 2) 各種疾患や症候群の検査・治療の概要について説明できる。
- 3) 老年期疾患や症候群と検査・治療を理解し、科学的根拠に基づく看護を実践するために必要な知識を修得できる。

3. 教育方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義形式を基本とする。教育内容によっては、問診（症状の成り立ち）、身体診察、病態解析に必要な検査手技などをわかりやすく解説する。

【評価】

授業中の質疑応答とレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書、参考書等は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4月13日	高齢患者の口腔機能のアセスメントと口腔ケア	管野 (歯科口腔外科学) 加藤
2	4月20日	神経疾患のアセスメントとパーキンソン病の治療	長井 (内科学第三)
3	4月27日	循環器系のアセスメントと心不全の治療	田邊 (内科学第四)
4	5月11日	運動器疾患（骨粗鬆症・高齢者の骨折）の病態・アセスメント・治療	内尾 (整形外科)
5	5月18日	呼吸器系のアセスメントと慢性呼吸器疾患の治療	磯部 (呼吸器・臨床腫瘍学)
6	5月25日	高齢者の便通異常（便秘と下痢）の診療	石原 (内科学第二)
7	6月1日	経管経腸栄養法の適応・造設・管理	川島 (消化器内科) 加藤
8	6月8日	高齢者の脳卒中の診療	秋山 (脳神経外科学)
9	6月15日	全身疾患における皮膚のアセスメントと褥瘡の治療	森田 (皮膚科学)
10	6月22日	泌尿器系のアセスメントと尿失禁の診療	泌尿器科学 講師
11	6月29日	フレイルとサルコペニアの診断・治療・予防	馬庭 (リハビリテーション医学)
12	7月6日	高齢者の摂食・嚥下機能の評価とリハビリテーション	蓼沼 (リハビリテーション医学)
13	7月13日	老年期に現れやすい精神疾患の症状・診断・治療	長濱 (精神医学)
14	7月20日	高齢患者のせん妄のアセスメントと対応	大拙 (精神科神経科) 加藤
15	7月27日	老化と老年病	橋本

講義は、原則として 火曜日 16:50～18:20 に行います。講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合があります。

認知症看護論

単位数：2単位（時間数：30時間）

開講年次及び学期：1年次後期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
浦上 克哉：鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座 教授
空先 育子：医療法人社団創健会松江記念病院 看護師長
（老人看護専門看護師）

1. 科目の教育方針

認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整、家族関係の調整のための具体的援助、それらに関する看護職への教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、保健医療福祉ニーズのケア調整、倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 認知症の診断（評価）と病態像及び障害像、最新の治療について理解する。
- 2) 認知症の人の障害像から生活に及ぼす影響について適切に判断できる能力を養う。
- 3) 認知症の種類、症状、経過にそった、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助に関する理論と実際を学ぶ。
- 4) 認知症高齢者ケアにかかわるスタッフへの教育・相談の実際を学ぶ。
- 5) 認知症高齢者とその家族に対する資源の活用の実際を学ぶ。
- 6) 認知症高齢者の人権擁護と倫理的調整の実際を学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。Teamsによるライブ配信を中心とする。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート（テーマ：認知症看護をめぐる課題・背景要因・課題解決のための方略の提言）等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 小澤勲：認知症とは何か，岩波書店，2005.
- 2) 池田学：認知症，中公新書，2010.
- 3) クリスティーン・ボーデン：私は誰になっていくの？，クリエイツかもがわ，2003.
- 4) 浦上克哉：これでわかる認知症診療（改訂第2版），南江堂，2012.
- 5) トム・キッド・ウット（高橋誠一訳）：認知症のパーソンセンタードケア，筒井書房，2005.
- 6) 中島紀恵子，他編著：新版 認知症の人々の看護，医歯薬出版，2017.
- 7) 児玉桂子，他編：痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり，彰国社，2003.
- 8) Jacqueline Kindell（金子芳洋訳）：認知症と食べる障害，医歯薬出版，2005.
- 9) ビッキー・デグラーク・ルビン：認知症ケアのバリデーション・テクニック，筒井書房，2009.
- 10) 日本神経学会監修：認知症疾患治療ガイドライン 2010 コンパクト版 2012，医学書院，2012.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	認知症の概念と定義 認知症とともに生きる人の理解	原
2	認知症高齢者看護の専門性と役割	原
3	認知症をきたす疾患への理解	浦上
4	認知症の治療と今後の展望	浦上
5	認知症高齢者のアセスメントと看護援助 ・生活環境・生活活動の調整	原
6	・認知症高齢者に対するアクティビティケアの理念と実際 (回想法、ライフストーリー・アプローチ、リアリティ・オリエンテーションを含む)	原
7	パーソンセンタードケアの理論と実践 * 講義と討論 ・「その人らしさ」の概念、理論の背景 ・パーソンセンタード・アプローチの展望と評価	原
8	・認知症ケアにおける課題：相互行為の質の改善 ・パーソンセンタードケアを実践するための組織上の課題 ・職員のケアと教育、チーム作り	原
9	認知症ケアにおけるアセスメントとケアマネジメント ・認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式 ・グループホーム・在宅における認知症ケアの実際と質評価	原
10	認知症ケアと薬物療法	原
11	認知症者に対する療法プログラムやアプローチ・アクティビティケアの理念と実際 (回想法(ライフレビュー)、バリテーション・テクニック、園芸療法、アートセラピーなど) *療法プログラム等から1つを選択、文献(実践報告を含む)検討のうえ プレゼンテーション	原
12	認知症高齢者の人権と生活を支える制度、適切な資源の活用 事例検討 * 討論	原
13	認知症高齢者ケアにおける老人看護 CNS の実践・相談・教育の実際 ・生活環境と生活活動の調整	空先
14	・認知症高齢者の介護家族支援と家族関係の調整	空先
15	認知症高齢者ケアにおける倫理調整の実際 ・認知症ターミナルケアの倫理的課題を含む	空先

がん看護病態生理治療学

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次前期

○福田誠司	医療安全管理部 臨床遺伝診療部 教授
浦野 健	病態生化学 教授
原田 守	免疫学 教授
磯部 威	呼吸器・臨床腫瘍学 教授
京 哲	産科婦人科学 教授
田島義証	消化器総合外科学 教授
鈴木律朗	血液・腫瘍内科学 教授
板倉正幸	乳腺・内分泌外科 臨床教授
玉置幸久	放射線治療科 准教授
津端由佳里	先端がん治療センター 呼吸器・化学療法内科 講師

1. 科目の教育方針

分子標的療法や優れた支持療法の開発に伴い、がんの治療成績は一昔前に比べて改善し、必ずしも死の病ではなくなった。しかし、日本人の二人に一人は何らかのがんに罹患し、死亡原因の一位はがんである。したがって、がんに関わる看護職のニーズは今後益々増加すると予想される。がん患者に対する看護に必要な専門能力を高めるためには、がんの病態を知り、病態に基づいた理論的な治療法とそれらの限界を理解することが求められる。即ち、がん細胞は正常の細胞と比較して何が異なるのか、その結果どのようなことが体内で起きるのか、それらに対してどのように治療戦略が立てられるのか、そして治療に限界が生ずるとすれば原因は何かを理論的に理解する必要がある。本科目では、がんの発生、増殖、分化機構の破たん、転移浸潤、治療抵抗性など、治療や予防に関わるがん細胞特有の分子機構を学び、それらに基づいた治療法と合併症を深く理解することを目指す。

2. 教育目標

- 1) がんの発生に関わるゲノム異常、染色体異常を理解し、説明できる。
- 2) がん幹細胞とがんの進化、がん細胞の多様性を理解し、説明できる。
- 3) がんの微小環境とがん細胞の相互作用を理解し、説明できる。
- 4) 免疫機構の破たん、炎症、感染ががんの発生に関わる分子機構を理解し、説明できる。
- 5) がんの増殖機構と薬剤抵抗性の分子機構を理解し、説明できる。
- 6) がんの転移、浸潤に関わる分子機構を理解し、説明できる。
- 7) がん薬物療法の原理、限界、副作用を理解し、説明できる。
- 8) 分子標的療法の理論的根拠を理解し、説明できる。
- 9) 造血幹細胞移植の目的、意義、方法と合併症を理解し、説明できる。
- 10) がんゲノム医療の目的、意義、方法、限界を理解し、説明できる。
- 11) 固形腫瘍の病態と治療法を理解し、説明できる。
- 12) 造血器腫瘍の病態と治療法を理解し、説明できる。

13) オンコロジー・エマージェンシーの原因と対応を理解し、説明できる。

3. 教育の方法、進め方、評価

【方法と進め方】

講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。

【評価】

授業毎に課題を提示し、レポートを提出する。内容を教育目標に基づいて評価する。授業への積極的参加も加味して評点する。

4. 使用テキスト

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集「新臨床腫瘍学」改訂第4版 南江堂
- 2) DeVita, Hellman, & Rosenberg's Cancer, 10th edition. Principles & Practice of Oncology
WOLTERS KLUWER

5. 教育内容・授業計画

回		内 容	担 当
1	4月14日	がん細胞とは何か? 総論と overview	福田誠司
2	4月21日	がん細胞のゲノム異常とエピジェネティクス	浦野 健
3	4月28日	がん細胞の増殖、転移、薬剤抵抗性の分子機構	浦野 健
4	5月12日	がん細胞と炎症、がん細胞の免疫逃避機構	原田 守
5	5月19日	がんゲノム医療と遺伝性がん	福田(荒木)
6	5月26日	がん薬物療法と分子標的療法の原理と実際	津端由佳里
7	6月2日	がん放射線治療の原理と実際	玉置幸久
8	6月9日	造血幹細胞移植の原理と実際	鈴木律朗
9	6月16日	乳がんの病態生理と治療	板倉正幸
10	6月23日	胃がんの病態生理と治療	田島(平原)
10	6月23日	大腸がんの病態生理と治療	田島(山本)
11	6月30日	肺がんの病態生理と治療	磯部 威
12	7月7日	肝臓がん、すい臓がんの病態生理と治療	田島義証
13	7月14日	子宮がん、卵巣がんの病態生理と治療	京 哲
14	7月21日	造血器腫瘍の病態生理と治療	福田誠司
15	7月28日	オンコロジー・エマージェンシーの原因と対応	福田誠司
<p>講義は、原則として 水曜日 18:30~20:00 に行います。講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。</p>			

がん看護学援助論

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次前期

○ 秋鹿 都子	臨床看護学講座准教授
若崎 淳子	臨床看護学講座教授
福田 誠司	島根大学医学部附属病院医療安全管理部教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
安田 千香	県立広島大学看護学科助教 がん看護専門看護師
坂井 淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
今岡 恵美	島根大学医学部附属病院看護部 看護師長 緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

がん患者の治療・療養過程における複雑な健康問題について理解し、その特性を考慮した問題のアセスメントと専門的看護ケアを提供するために必要な援助方法を学ぶ。そして、がん患者と家族のQOL 向上をめざした包括的な支援としてのチームアプローチや専門性の高い看護援助方法について探究する。

2. 教育目標

- 1) がん患者と家族の治療・療養における様々な状況・局面での意思決定プロセスについて学び、がん患者と家族の意思決定支援に向けた看護援助について探究する。
- 2) がん患者・家族を中心としたチームアプローチについて理解し、専門性の高い看護援助について探究する。
- 3) がんの予防、スクリーニング、早期発見について学び、その支援方法について探究する。
- 4) がん患者の治療に伴う全人的苦痛・苦悩について理解し、看護援助について探究する。
- 5) がん患者の生活や社会的役割をふまえた理解と看護援助について学び、その実践について探究する。
- 6) がん患者・家族とのコミュニケーションについて学び、その実践について探究する。
- 7) がんサバイバーの長期的影響について理解し、時期ごとの支援について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 講義はオンライン講義とし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。
- 2) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 3) 授業への臨み方
 - ・がん患者と家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的・問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。
- 4) 評価
プレゼンテーション内容、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜紹介する。

- ・国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第8版，医学書院，2019

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	診断から療養過程におけるがん患者と家族の意思決定支援 がん患者・家族の意思決定プロセス、影響要因	掛橋千賀子
2	がん患者とチームアプローチ	秋鹿都子
3	がん看護領域における倫理的問題の理解	掛橋千賀子
4	がんの予防、スクリーニング、早期発見と看護	若崎淳子
5	がんの治療と看護 (1) 手術療法	秋鹿都子 今岡恵美
6	がんの治療と看護 (2) 放射線療法	安田千香
7	がんの治療と看護 (3) 薬物療法	掛橋千賀子
8	がん患者・家族とのコミュニケーション	坂井淳恵
9	がんサバイバーの身体的側面のアセスメントと時期ごとの支援	掛橋千賀子
10	がんサバイバー・家族の心理社会的側面のアセスメントと時期ごとの支援	掛橋千賀子
11	がん患者の就労の現状を踏まえた問題と支援	秋鹿都子
12	がん患者のセクシャリティの問題のアセスメントと援助	若崎淳子
13	AYA 世代がん患者の看護	秋鹿都子
14	遺伝学的診断における看護と課題	福田誠司
15	がん患者の在宅療養支援 在宅療養への移行支援、継続支援	秋鹿都子

嘱託講師は集中講義とする。

がん薬物療法看護論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次前期

○若崎淳子	臨床看護学講座 教授
宮下美香	広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座/老年・がん看護開発学 教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
坂井淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
妹尾尚美	島根大学医学部附属病院外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師

1. 科目の教育方針

がん薬物療法を基盤に、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)の目的と特性、治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し、患者とその家族に必要な援助を提供できる能力を身につける。がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行ない、治療の継続、セルフケア支援、セルフケア能力向上のための方略、並びに治療中の生活の質を高める看護を探究し、実践展開できる知識と問題解決能力を培う。治療選択の意思決定支援、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)に伴うエビデンスに基づく看護のあり方を学ぶ。

特定看護領域(サブスペシャリティ)に焦点を絞って学習を深める。自らの特定看護領域について目的意識や問題意識をもって授業に臨み、より質の高い看護実践ができるための知識と問題解決能力を身につける。

2. 教育目標

- 1) がん薬物療法を基盤にその目的と特性、治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)を受ける患者とその家族にエビデンスに基づく看護を実践できる能力を身につける。
- 2) がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行ない、有害事象とマネジメント、治療の継続、セルフケア支援、セルフケア能力向上のための方略並びに治療中の生活の質を高める看護を実践・展開する知識と問題解決能力を身につける。抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)と看護について実践に向けた知識と臨床判断力を培う。
- 3) 治療選択の意思決定への支援、並びにがん患者とその家族のQOLの維持向上を目指したエビデンスに基づく具体的かつ専門的な看護援助について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- ・高度ながん看護実践に活用できる理論的知識を習得するとともに、看護実践上にある現象を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
 - ・自らの特定看護領域について、より質の高い看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨む。
 - ・特定看護領域に焦点を絞って学習を深める。
 - ・オンライン授業とし、Teamsによるライブ講義とオンデマンド型配信を併用する。
- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行なう。

2) 授業への臨み方

- ・がん薬物療法を受ける患者とその家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
- ・がん薬物療法に関する最新情報を自主的に収集し、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート]

60% (課題レポートの内容：事例に対する問題解決思考過程を重視する。)

[プレゼンテーション・ディスカッション内容]

40%

4. 使用テキスト・参考文献等

1) テキスト

国立がんセンター内科レジデント編 がん診療レジデントマニュアル(医学書院)(最新版)

2) 参考図書

渋谷正史 がん生物学イラストレイテッド(羊土社)(最新版)

制吐薬適正使用ガイドライン(金原出版)(最新版)

各がん治療に関する診療ガイドライン(最新版)

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内容	担当
1	薬物療法に伴う主な有害事象の発生機序の理解	若崎淳子 妹尾尚美
2	薬物療法に伴う主な有害事象の出現予防、発生時の対処と看護援助： 有害事象とマネジメント	若崎淳子 妹尾尚美
3	がん薬物療法における有害事象とマネジメント：事例検討	坂井淳恵
4	抗がん剤治療と看護	坂井淳恵
5	分子標的治療と看護	坂井淳恵
6	内分泌療法と看護	若崎淳子
7	免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)と看護	若崎淳子
8	がん薬物療法に伴う器質的・機能的変化：認知機能の障害	宮下美香
9	がん薬物療法に伴う器質的・機能的変化：末梢神経障害	若崎淳子
10	がん薬物療法に伴う性機能障害(女性)と看護：事例検討	若崎淳子
11	がん薬物療法に伴う性機能障害(男性)と看護：事例検討	掛橋千賀子
12	抗がん剤治療と脱毛ケア・アピアランスケア	若崎淳子
13	がん薬物療法過程におけるセルフケア能力のアセスメント	宮下美香
14	薬物療法過程にあるがん患者のセルフケア能力を高める教育的アプローチ： 事例検討	若崎淳子 坂井淳恵
15	外来がん薬物療法を受ける患者とその家族へのセルフケア支援：事例検討	若崎淳子 坂井淳恵

嘱託講師は集中講義とする。

緩和ケア論

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次後期

- 秋鹿都子 臨床看護学講座准教授
大野 智 島根大学医学部附属病院臨床研究センター センター長・教授
掛橋千賀子 姫路大学看護学部特任教授
広瀬寛子 戸田中央総合病院カウンセリング室室長
加藤典子 島根県立大学看護栄養学部准教授
林めぐり子 横浜市立大学医学部看護学科助教 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し、緩和するために必要なケアの専門的知識を習得する。また、エンド・オブ・ライフケアの視点による患者・家族の QOL 向上を目指した包括的看護介入、リソースの活用、グリーフケアについて探究する。

2. 教育目標

- 1) 緩和ケアの概念について理解する。
- 2) がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩について理解する。
- 3) がん患者のスピリチュアルな苦痛・苦悩に対するケアの実践方法について探究する。
- 4) がんの補完代替療法について理解する。
- 5) 治療期、医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、在宅療養期、終末期にあるがん患者とその家族の在宅療養支援と地域連携について理解する。
- 6) エンド・オブ・ライフケアの概念について理解する。
- 7) アドバンス・ケア・プランニングの実践方法と課題について理解する。
- 8) 終末期の鎮静について理解する。
- 9) 緩和ケアにおける倫理的課題を理解し、その対応について探究する。
- 10) がん患者の家族の心理的ケアについて探究する。
- 11) 緩和ケアにおける看護師の心理的ケアについて理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 講義はオンライン講義とし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。
- 2) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 3) 授業への臨み方
 - ・がん患者と家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的・問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。
- 4) 評価
プレゼンテーション内容、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜紹介する。

- ・恒藤暁, 岡本禎晃：緩和ケアエッセンシャルドラッグ第4版, 医学書院, 2019
- ・広瀬寛子：悲嘆とグリーフケア, 医学書院, 2011

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	緩和ケアの概念、歴史的変遷 がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩の理解	掛橋千賀子
2	がん患者の実存的苦痛 (1) スピリチュアルペイン、苦悩	林めぐり子
3	がん患者の実存的苦痛 (2) スピリチュアルペイン、苦悩のアセスメントとケア	林めぐり子
4	子どもを持つがん患者への支援	秋鹿都子
5	がん補完代替療法	大野 智
6	緩和ケアにおける在宅療養支援と地域連携 (1) 治療期にあるがん患者・家族に対する緩和ケアの実際と課題	加藤典子
7	緩和ケアにおける在宅療養支援と地域連携 (2) 在宅療養への移行期、在宅療養期、終末期におけるがん患者・家族に対する緩和ケアの実際と課題：療養の場の選択と意思決定支援	加藤典子
8	エンド・オブ・ライフケアの概念	大野 智
9	アドバンス・ケア・プランニング (1) 支援の実際	大野 智
10	アドバンス・ケア・プランニング (2) 課題	大野 智
11	終末期の鎮静	掛橋千賀子
12	緩和ケアにおける倫理的課題と対応	掛橋千賀子
13	家族の心理的ケア (1) 家族の予期悲嘆への対応、悲嘆プロセスをふまえたケア	広瀬寛子
14	家族の心理的ケア (2) 看取りとグリーフケア	広瀬寛子
15	緩和ケアにおける看護師の心理的ケア	広瀬寛子

嘱託講師は集中講義とする。

田邊一明：内科学第四講座教授 磯部 威：呼吸器・臨床腫瘍学講座教授
内尾祐司：整形外科講座教授 泌尿器科学講座担当講師
折出亜希：附属病院産科講師 三瀧真悟：附属病院神経内科講師
川島耕作：附属病院消化器内科講師 森倉一朗：附属病院耳鼻咽喉科講師
橋本龍樹：臨床看護学講座教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題を持つ対象者に対して、高度な看護実践を行うために必要なフィジカルアセスメントの方法を、人体の構造と機能に沿って系統的に学習する。さらに、複雑な健康問題を有する事例の検討をとおして、系統的で総合的な臨床判断能力を培う。

2. 教育目標

- 1) 高度実践看護師として、系統的なフィジカルアセスメントを実践するための知識と技術を習得し、身体診察を正確に行うことができる。
- 2) フィジカルアセスメントから得られたデータを系統的・総合的に解釈し、アセスメントすることができる。
- 3) 事例を用いて、複雑な健康問題を持った対象者に対して系統的・総合的なフィジカルアセスメントを実践できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

*人体の形態と機能に関する知識、フィジカルアセスメントの基本技術については習得済であること、また、予習・復習は自己学習であることを前提に授業を進める。

*演習では履修者間でフィジカルアセスメントを実践するので、フィジカルアセスメントが可能な服装で参加すること。しかし、今年度はオンデマンドによるリモート講義とする。

- 1) 講義と演習を組み合わせ学習を進める。なお、授業は原則、毎週火曜日 18 時 30 分から 20 時とする。
- 2) 事例検討
 - (1)提示事例について、系統的・総合的なフィジカルアセスメント実践計画を立てる。
 - (2)上記(1)の計画に基づき、シミュレーター、もしくは、他の履修者を模擬患者として、問診と身体診察を実践して、反応をアセスメントし、健康問題を特定する。
 - (3)上記(2)の方法とプロセスの適切性について、メンバー相互で批判的に振り返りを行い、正確なフィジカルアセスメントの技法を習得する。

【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 福井次矢他日本語監修：ベイツ診察法 第2版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2015

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4月6日	フィジカルアセスメント総論 フィジカルアセスメントの方法（問診技法・身体診察技法）	田邊
2	4月13日	循環器系のフィジカルアセスメント 循環に関する人体の構造と機能	田邊
3	4月20日	循環器系のフィジカルアセスメント 循環に関する身体診察	田邊
4	4月27日	呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸に関する人体の構造と機能	磯部
5	5月11日	呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸に関する身体診察	磯部
6	5月18日	筋骨格系のフィジカルアセスメント 運動機能に関する人体の構造と機能、身体診察	内尾
7	5月25日	生殖器のフィジカルアセスメント 生殖器に関する人体の構造と機能、身体	折出
8	6月1日	頭頸部、鼻腔、口腔、視覚、聴覚器のフィジカルアセスメント 感覚器に関する人体の構造と機能、身体診察	森倉
9	6月8日	腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント 排泄に関する人体の構造と機能、身体診察	泌尿器科 講師
10	6月15日	腹部のフィジカルアセスメント 消化器に関する人体の構造と機能	三島
11	6月22日	診察腹部のフィジカルアセスメント 消化器に関する身体診察	三島
12	6月29日	脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系に関する人体の構造と機能	三瀧
13	7月6日	脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系に関する身体診察	三瀧
14	7月13日	事例検討① 事例を用いたフィジカルアセスメント	橋本
15	7月20日	事例検討② 事例を用いたフィジカルアセスメント	橋本

講義は、原則として 火曜日 18:30～20:00 に行います。講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。

紫藤 治：環境生理学教授	藤谷昌司：神経科学教授
泌尿器科学担当教員	森田栄伸：皮膚科学教授
内尾祐司：整形外科学教授	折出亜希：婦人科講師
山本昌弘：内科学第一准教授	川島耕作：消化器内科講師
橋本龍樹：臨床看護学教授	

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題を持つ対象者の病態を正確に捉えて高度な看護実践を行うために必要な病態生理の知識を、主要な症状や病態に焦点を当てて、人体の系統性に沿って学習する。さらに、臨床判断を求められる頻度の高い症状や病態を呈する患者事例の検討をとおして、病態のメカニズムと治療との関連を理解し、病態を踏まえた高度な看護介入を行うための基盤となる臨床判断力培う。

2. 教育目標

- 1) 主要な症状や症候について、発生メカニズムを正常な形態と機能との関連から説明できる。
- 2) 主要な症状や症候と所見との関係について説明できる。
- 3) 疾患とそれに伴う症状や症候との関連について理解し、臨床看護判断に活用できる。
- 4) 事例を用いて、複雑な病態を示す対象者に対して病態生理的な変化を解釈、臨床看護判断につなげることができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義：人体の形態と機能、疾病と随伴症状発現のメカニズム等に関する基礎的知識についての事前学習を踏まえていること前提として授業を進める。
原則、毎週火曜日 16 時 50 分から 18 時 20 分開講とする。
- 2) 演習：事例検討は、小グループによる演習形式とする。
 - (1)病態症候論に基づき症候・症状から疾患を推測し特定する。
 - (2)特定した疾患・病態に伴う看護問題を診断し対策を立案する。※ 事例は「呼吸困難」「意識障害」「胸痛」「腹痛」「嘔気・嘔吐」「発熱」「頭痛」「ふらつき」等の何れかを主症状とする 2 事例とする。
※ 事例は毎年変更する。

【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 松村理司監訳：Dr.ウィリス ベッドサイド診断 病歴と身体診察でここまでわかる！. 医学書院, 2008.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4月6日	病態生理学の紹介、体系的枠組み、基礎知識	紫藤
2	4月13日	環境病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (熱中症を考える)	紫藤
3	4月20日	循環・体液病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (血圧の決定と異常)(心不全時の体液バランスの変化)	紫藤
4	4月27日	呼吸病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (換気異常、肺サーファクタントの必要性)	紫藤
5	5月11日	代謝病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	山本
6	5月18日	演習：事例検討① ・ 病態症候論に基づき症候・症状から疾病と病状を解釈する。	橋本
7	5月25日	筋骨格系病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	内尾
8	6月1日	生殖器病態生理 ・ 随伴症状、主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	川島
9	6月8日	消化器病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	折出
10	6月15日	腎・泌尿器病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	泌尿器 科講師
11	6月22日	皮膚病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	森田
12	6月29日	演習：事例検討② ・ 解釈した疾病・病状に伴う看護問題を診断し対策を立案する	橋本
13	7月6日	演習：事例検討③ ・ 病態症候論に基づき症候・症状から疾病と病状を解釈する。	橋本
14	7月13日	演習：事例検討④ ・ 解釈した疾病・病状に伴う看護問題を診断し対策を立案する	橋本
15	7月20日	脳神経病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	藤谷
<p>講義は、原則として 火曜日 16:50~18:20 に行います。講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。</p>			

臨床薬理学

単位数：2単位

和田孝一郎：薬理学講座 教授

岡本 貴行：薬理学講座 准教授

橋本 龍樹：臨床看護学講座 教授

秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

ケア対象者に実施されている薬物療法について、その薬理作用の正確な理解に基づいて、薬剤使用の判断、投薬後の患者のモニタリング、症状管理、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力向上を図る等、高度な看護実践に必要な薬理・薬剤の知識を学習する。さらに、緊急応急処理、症状調整、慢性疾患管理等の事例検討をとおして、複雑な健康問題を有する対象者の薬物療法を適切に支援するために必要な高度な臨床看護判断力を培う。

2. 教育目標

- 1) 薬物による生体制御の基礎を理解する。
- 2) 医薬品分類に基づき、疾病の治療や症状管理のために用いる薬物の薬理作用、適用、投与時の留意点と投与後のモニタリング、副作用出現時の対処について理解する。
- 3) 薬物療法を受けているケア対象者の服薬管理能力向上のための介入計画を立案できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義：人体の系統別に用いる薬剤の作用、副作用、適用に関する基礎的知識についての事前学習を踏まえていること前提として授業を進める。
- 2) 演習：事例検討は、小グループによる演習形式とする。
 - (1)事例に処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。
 - (2)事例の病態をふまえて、投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。
 - (3) 使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。※ 事例は病態を設定した 2 事例とし、毎年変更する。

【評価】 事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

5. 教育内容

回	月／日	内容	講師
1	4月7日	臨床薬理学 総論①： 臨床薬理学の基礎 ・薬物の作用機序 ・薬物・薬剤の適正処方と安全管理 ・副作用とその防止 ・新薬開発とその情報収集	薬理学 教員
2	4月14日	臨床薬理学 総論②： 薬物の体内動態と TDM ・薬物動態学の基礎 ・薬物動態に影響を与える諸因子 ・薬物相互作用の重要性 ・ Therapeutic drug monitoring (TDM)	薬理学 教員
3	4月21日	臨床薬理学 総論③： 臨床使用における諸問題 ・コンプライアンスとアドヒアランス ・ポリファーマシー ・分子標的薬など新たなコンセプトによる新薬の登場と諸問題	薬理学 教員
4	4月28日	各論①： 心血管系に作用する薬物・薬剤（循環器系に作用する薬物・薬剤） ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
5	5月12日	各論②： 消化器系に作用する薬物・薬剤 ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
6	5月19日	各論③： 中枢神経系に作用する薬物・薬剤 ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
7	5月26日	各論④： 呼吸器系に作用する薬物・薬剤（含 喘息治療薬） ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
8	6月2日	各論⑤： 末梢神経系に作用する薬物・薬剤（含 眼科・耳鼻科領域で使用する薬物・薬剤） ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
9	6月9日	各論⑥： 感染症に使用する薬物・薬剤（抗菌薬、抗生物質、抗ウイルス薬） ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
10	6月16日	各論⑦： 抗腫瘍薬（抗がん剤） ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員
11	6月23日	各論⑧： 炎症・免疫・アレルギー疾患、内分泌代謝疾患に使用される薬物・薬剤 ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	薬理学 教員

12 13	6月30日	演習：事例・症例検討① 実際に処方された薬剤や、過去の薬物による有害事象をもとに、以下のような点について発表とディベートをおこない、理解を深める。・処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。・投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。・使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。	薬理学 教員
14 15	7月7日	演習：事例・症例検討② 実際に処方された薬剤や、過去の薬物による有害事象をもとに、以下のような点について発表とディベートをおこない、理解を深める。・処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。・投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。・使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。	薬理学 教員
<p>講義は、原則として 水曜日 16:50～18:20 に行います。講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。</p>			

助産フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

- 橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
- 板倉 正幸：乳腺内分泌外科診療教授
- 柴田 直昭：小児科
- 加藤 一郎：隠岐広域連合立隠岐病院診療部長
- 山下 瞳：産婦人科学講座助教
- 石橋 朋佳：産婦人科学講座助教
- 原 友美：産婦人科学講座助教
- 下条 芳秀：Acute Care Surgery 講座助教
- 明徳 一広：MEセンター臨床工学技士長
- 黒崎 育美：リハビリテーション医学講座理学療法士
- 日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教

1. 科目の教育方針

妊娠・分娩・産後・新生児期の正常からの逸脱の判断、異常発生を予測する能力、予防的に行動する能力、母体の急変時・異常時に対応できる実践能力の修得のための基礎的知識と技術を修得し、妊娠・出産・産褥期の診察診断能力を向上する。

女性の生涯における健康課題や問題に対して必要とされる知識・技術を修得する。

2. 教育目標

- 1) 超音波検査の操作技術と妊娠期・産褥期の女性と胎児の超音波画像評価能力を修得する。
- 2) 会陰切開・裂傷縫合の基礎的知識と技術について理解する。
- 3) 新生児の救急蘇生に対応するための知識と技術を修得する(NCPR Aコース受講)。
- 4) 母体急変時や異常時の早期対応に必要な知識と技術を修得する。
- 5) 妊娠・出産・産後に伴って生じるインナーユニットへの負担・機能障害について理解し、マイナートラブルの予防・ボディケアの方法について学修する。
- 6) 女性生殖器の診察に必要な視診の一つである腔鏡診の実施方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

1～3の方法で進める。講義は、対面を主とするがWebex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する場合もある。演習とシミュレーション教育は、対面が不可になった場合は、開催時期を延期する。

- 1) 講義と技術演習を行う。
- 2) シミュレーション教育によって必要なスキルを修得する。

新生児蘇生法(Aコース)、ALSOプロバイダーコース、ICLSを受講する。

3) 外来での見学実習で実践的に学ぶ。

【評価】

筆記試験、技術試験で評価する。

新生児蘇生法(Aコース)、ALSOプロバイダーコース、ICLSのコースの受講とコース認定試験の合格。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) プリンシプル産婦人科学1 婦人科編 第3版, 2014, メジカルビュー社
- 2) プリンシプル産婦人科学2 産科編 第3版, 2014, メジカルビュー社
- 3) 細野茂春監修: 日本版救急蘇生ガイドライン 2015に基づく新生児蘇生法テキスト 第3版, 2016, メジカルビュー社

【参考文献】

適時、提示する。

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	5/28 13:00~	超音波検査の原理と操作法などの基礎、臨床上の意義 超音波検査の原理と産科における活用の実際 超音波診断装置の基本的操作の説明と理解	山下
2	6/4 16:50~	超音波診断装置の基本的操作の説明と理解 胎児推定体重の算出演習(1)	石橋
3	6/16 14:55~	胎児推定体重測定演習(2)	石橋
4	6/23 14:55~	胎児推定体重測定演習(3) 技術試験	石橋
5	後期	膣鏡診 手技手順	橋本
6	後期	膣鏡診 産婦人科外来見学演習(1)	産婦人科 医師
7	後期	膣鏡診 産婦人科外来見学演習(2)	産婦人科 医師
8	9月	乳腺フィジカルアセスメント方法 乳腺エコー読影講義と乳腺超音波技術演習(1)	板倉
9	9月	乳腺フィジカルアセスメント方法 乳腺超音波技術演習(2)	板倉
10	9月	会陰縫合学内技術演習(1) 糸結び、持針器の使い方、縫合の方法	原
11	後期実習	会陰縫合技見学演習(2) 産婦人科3階病棟分娩室	産婦人科

			医師
12	後期実習	会陰縫合技見学演習(3) 産婦人科 3階病棟分娩室	産婦人科 医師
13	1年後期	産後ケアとウィメンズヘルス支援①講義	黒崎
14	1年後期	産後ケアとウィメンズヘルス支援②演習	黒崎
15	1年後期	産後ケアとウィメンズヘルス支援③演習	黒崎
16	7/10 9:00~ 16:00	NCPR Aコース ①	柴田・日 野
17		NCPR Aコース ②	柴田・日 野
18		NCPR Aコース ③	柴田・日 野
19	2022年	ICLS コース ①	下条
20	2022年	ICLS コース ②	下条
21	2022年	ICLS コース ③	下条
22	2022年後 期予定	ALSO プロバイダーコース 準備	橋本
23	2022年後 期予定	ALSO プロバイダーコース ①	加藤・橋 本
24	2022年後 期予定	ALSO プロバイダーコース ②	加藤・橋 本
25	2022年後 期予定	ALSO プロバイダーコース ③	加藤・橋 本
26	2022年後 期予定	ALSO プロバイダーコース ④	加藤・橋 本
27	2022年後 期予定	ALSO プロバイダーコース ⑤	加藤・橋 本
28	後期	医療機器 講義	明穂
29	後期	医療機器 演習①	明穂
30	後期	医療機器 演習②	明穂

女性の精神保健学

単位数：1 単位

- 橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
- 稲垣 正俊：精神医学講座教授
- 稲垣 卓司：教育学部教授
- 和氣 玲：精神医学講座兼任
人間科学学部准教授
- 林田麻衣子：精神医学講座 講師
- 永井 真寿美：臨床看護学講座助教

1. 科目の教育方針

周産期メンタルヘルスケアの重要性について学修し、妊産婦および子育て期にある母親の心のケア、母親としてのアイデンティティ形成、愛着形成への支援をするための基礎知識及び技術について学修する。

女性の各ライフステージ、特に思春期のメンタルヘルスに影響する疾患について基礎知識を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 妊産婦にみられるメンタルヘルスの不調や精神疾患の特徴、診断、治療、スクリーニングなど基礎知識について理解する。
- 2) 妊産婦メンタルヘルスケアの基本的な対応法(コミュニケーション法、面接技法)、について理解する。
- 3) 周産期メンタルヘルスケアにおける多領域協働チームの活動の実際について学修し、チーム活動における助産師の役割について考える。
- 4) 女性の各ライフステージ特に思春期のメンタルヘルスについての基礎的知識を理解する。
- 5) 親のメンタルヘルスと子どもの発達に関連について学修し、女性のメンタルヘルスケアの重要性について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義は主に対面講義で進め、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する。基本的な対応法を修得するための演習は対面で行う。

【評価】

試験、討論への参加状況、レポート内容にて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座 3 基礎助産学[3] 母子の健康科学, 第5版, 2016,

医学書院

2) 堀内成子編：助産学講座 5 助産診断・技術学 I , 第 6 版, 2021, 医学書院

【参考文献】

適時、提示する。

5. 教育内容

回	日時	内 容	講師
1	9/13 13:00~	周産期メンタルヘルスの社会的背景とメンタルヘルスケアの重要性 メンタルヘルスケアで助産師に求められる役割	橋本
2	9/17 10:25 ~	妊産婦のメンタルヘルスの基礎知識： 妊産婦の心理、精神疾患についての基礎知識と治療	和氣
3	9/14 10:25~	妊産婦メンタルヘルスケアの実際： 基本的な対応（心理療法、精神療法、心理相談、カウンセリングなど）、妊産婦の精神科治療導入のタイミング、緊急性の把握方法	稲垣 卓司
4	10/7 10:25 ~	親のメンタルヘルスと子どもの発達に関連、虐待 妊産婦メンタルヘルスケアにおける多領域協働チームの活の 実際と課題	林田
5	10/5 10:25~	女性の各ライフサイクルにおけるメンタルヘルス	稲垣正俊
6	10 月中 旬	面接技法（1） コミュニケーション、カウンセリング、コーチング（演習）	橋本
7	10 月中 旬	面接技法（2） コミュニケーション、カウンセリング、コーチング（演習）	橋本
8	10/19 10:25~	精神障害をもつ女性の妊娠・出産・育児への看護支援	永井・橋本

順不同

異文化コミュニケーション

単位数：1単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

国内外の異文化と多様性を理解し、海外における助産活動と国内の在日・在留外国人母児と家族などの異なる文化や価値観をもつ対象へのケアや支援を行う能力を培う。また、国内外の災害時における母児への助産ケアについて学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 人間の基本的な人権を理解し、多文化が共生することの基本原則を理解できる。
- 2) 様々な文化を持つ人々に、看護職としての基本的姿勢・態度および役割を説明できる。
- 3) 自分の身近にある「異文化」を認識し、考察できる。
- 4) 様々な異なる文化的背景について理解した上で、考えられる異文化／多文化による摩擦や人々の生活上の問題点を説明できる。
- 5) 助産・看護活動における異文化問題についての考察と対策について考えることができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

授業は主に対面で進め、感染状況に応じてWebex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドの講義を行う。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【使用テキスト】

- 1) 我部山キヨ子編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健, 第5版, 2016, 医学書院

【参考文献】

- 1) レイニンガー看護論 文化ケアの多様性と普遍性 医学書院 1995年
- 2) 助産の文化人類学 日本看護協会出版会 2001年

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	国際社会と母子保健 わが国の国際化と母子保健と開発途上国の母子保健の現状	橋本
2	ミレニアム開発目標の達成と周産期の健康問題	橋本
3	国際看護学に関連する理論 レンインガー看護理論、ケネス・リー・パイクの「イーミック (emic)」と「エティック (etic)」	橋本
4	異文化ケア 異文化コミュニケーションの理解 医学モデルと助産モデル 医療人類学的視点からの助産・出産・子育て	橋本
5	助産・看護活動における異文化問題の考察と対策 (1) 在日・在留外国人への援助	橋本
6	助産・看護活動における異文化問題の考察と対策 (2) 在日・在留外国人への援助	橋本
7	助産・看護活動における異文化問題の考察と対策 (3) 災害と助産、避難所における支援	橋本
8	助産・看護活動における異文化問題の考察と対策 (4) 医療の場や多職種連携における異文化問題	橋本

○若崎 淳子：臨床看護学講座 教授
鈴木志津枝：兵庫医療大学副学長・教授

1. 科目の教育方針

- 1) 看護学における家族を理解し実践するための概念や諸理論、研究動向を学び、看護の対象としての家族について理解を深め探求する。
- 2) さまざまな状況にある家族に対して包括的な支援が提供できるよう、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護援助を探求する。

2. 教育目標

- 1) 家族看護学の発展過程と求められる看護を理解する。
- 2) 家族に対して専門的看護を実践するうえで基盤となる概念や理論を理解する。
- 3) 地域や臨床における家族看護の実践に向けて、家族アセスメント及び支援について説明する
※看護実践の場を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
- 4) 看護実践に活用できる知識を獲得し、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護支援を検討・提案する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自の課題レポート内容に基づくプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 2) オンライン授業とし、Teams によるライブ講義とオンデマンド型配信を併用する。
- 3) 授業への臨み方
 - ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
 - ・家族を取り巻く社会や抱える課題・問題に関心をもち、家族の持てる力を促進し、対象の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう目的意識をもって授業に臨むこと。
 - ・家族看護に関する最新情報・知見について、文献等から主体的に学習すること。

4) 評価

[レポート] 50%

課題レポート

- ①家族看護に関する理論の説明とその活用及び展開過程を重視する。
- ②根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する。

[プレゼンテーション・ディスカッション内容]

50%

4. テキスト等

1) テキスト

指定なし。

2) 参考図書

鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学—理論と実践第3版、日本看護協会出版会、2006.

法橋尚宏：新しい家族看護学—理論・実践・研究、メヂカルフレンド社、2010.

山崎あけみ、原礼子：家族看護学第2版、南江堂、2015.

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担当
1	ガイダンス／関心領域の発表 家族看護学の発展過程と求められる看護	若崎
2	家族エンパワーメントモデル	鈴木
3	家族エンパワーメントモデルを活用した事例展開 終末期患者の家族への援助（高齢者の事例を用いて）	鈴木
4	Enrichment の概念の活用 終末期患者・家族間の相互性を支える援助	鈴木
5	悲嘆理論と死別後の遺族へのグリーフケア	鈴木
6	家族看護の基盤となる概念・理論(1)	若崎
7	家族看護の基盤となる概念・理論(2)	若崎
8	家族看護の基盤となる概念・理論(3)	若崎
9	家族のアセスメントと看護援助方法の検討	若崎
10	事例1 病をもつ高齢者の家族への支援	若崎
11	事例2 認知症高齢者の家族への支援	若崎
12	事例3 在宅療養に向けた患者家族への支援	若崎
13	事例4 治療過程にあるがん患者家族への支援	若崎
14	事例5 クリティカルな状況にある患者の家族への支援	若崎
15	事例6 家族の意思決定支援 等	若崎
14	2コマ続きで3日間(計6回)	若崎
15	家族看護の展望と課題～看護実践に向けて：討議	若崎

教室：N404(対面授業の場合)

嘱託講師は集中講義とする。

看護理論

単位数：2単位

福間 美紀：基礎看護学講座准教授

津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

実践の科学である看護学の基礎をつくるものは理論である。看護現象を説明し理論を生成すること、理論を実践に活用してその妥当性を検証すること、この繰り返しによって看護は看護学として発展し、社会の健康ニーズに応え得る質の高い看護を展開することができる。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されている。

本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高める。

2. 教育目標

- 1) 看護理論開発の歴史を概観し、これからの看護理論の発達に対する見識を深める。
- 2) 看護理論家の著書を講読し、理論の分析を行って看護理論の構造や特徴を理解する。
- 3) どのような対象者にどのような場面や状況下で看護理論を適用させるのか、事例をとおして看護理論の看護実践への活用方法を検討する。
- 4) 看護実践における理論活用の意義と理論開発の必要性を考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 看護理論への理解を深めるために、講義、看護理論講読、事例演習を行う。
- 2) 理論分析は、看護哲学、広範囲理論、中範囲理論に関する看護理論の著書の中から各自が1冊を選択して講読し、レポートの作成、発表、グループ・ディスカッションを行う。(ウィーデンバック、ペプロウ、ロジャーズ、オレム、トラベルビー、レイニンガー、ロイ、ニューマン、ベナーのうち1つを選択する)
- 3) 看護理論活用の実際は、各自の専門領域に応じて関心を寄せる看護の理論を選択して看護実践に活用し、その成果について発表とディスカッションを行う。

* 講義はオンライン講義とし、Teams によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。

【評価】

プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト

- 1) 筒井真由美編集：看護理論家の業績と理論評価，医学書院，2015
- 2) 正木治恵他：看護理論の活用-看護実践の問題解決のために，医歯薬出版，2012
- 3) ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2007

<参考文献等> *その他の図書・文献は授業で紹介する。

筒井真優美編集：看護理論，看護理論 20 の理解と実践への応用，南江堂，2008

松木光子他編集：看護理論，理論と実践のリンケージ，ヌーヴェルヒロカワ，2006

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/13	理論の定義・目的、理論の種類、現象を説明する範囲 理論開発のプロセス、理論と実践との関連性	福間
2	4/20	看護理論の発展の歴史、看護理論の意義 0・貢献	福間
3	4/27	看護理論の構造、要素となる主要概念、理論分析の方法	福間
4	5/11	理論分析 1 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
5	5/18	理論分析 2 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
6	5/25	理論分析 3 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
7	6/1	理論分析 4 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
8	6/8	理論分析 5 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
9	6/15	理論分析 6 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
10	6/22	看護理論の構築と活用の必要性	福間
11	6/29	看護理論の実践への活用方法	福間
12	7/6	事例演習 1 看護理論の実践への活用と展開	福間 津本
13	7/13	事例演習 2 看護理論の実践への活用と展開	
14	7/21	事例演習 3 看護理論の実践への活用と展開	
15	7/20	事例演習 4 看護理論の実践への活用と展開	
レポート「看護理論を実践に活用すること-事例分析からみえてきた自己の課題」 締切：2020.9.30（木）正午、提出：mk8592@med.shimane-u.ac.jp			

看護倫理

単位数：2 単位

○加藤真紀：地域・老年看護学講座准教授
榊原文：地域・老年看護学講座講師
内田宏美：天理医療大学教授

1. 科目の教育方針

看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探究することである。CNSをはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されている。

本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけ、看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを判断する。さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、臨床における倫理的調整を図るための問題解決力・調整力を養う。

2. 教育目標

- 1) 倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護実践における倫理の基本概念を理解する。
- 3) 倫理的課題に対応する基盤としての組織文化・組織風土の重要性を理解し、現実の課題に向き合うことができる。
- 4) 看護の臨床で経験する倫理的ジレンマ・道徳的苦悩に対し、状況対応型解決法の適用を試み、倫理的調整をはかるための問題解決のプロセスと方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・講義：基本テキスト、参考文献等により、課題に関する事前学習を行い、疑問や問題意識を持って授業に臨むことを前提とする。
- ・文献講読：担当した単元のポイントを整理し、自身の経験を踏まえて考察してレジュメにまとめ、発表する。メンバー間でのディスカッションにより考察を深める。
- ・事例検討：対応に苦慮した倫理的問題を孕む事例について、“意思決定モデル”又は、清水哲郎氏の「臨床倫理検討シート」に準じて問題を整理し、妥当な解決策を探求する。

【評価】課題レポート等により総合的に評価する。

4. テキスト

- 1) サラ・フライ（片田範子訳）『看護実践の倫理』（第3版）日本看護協会出版会、2010

【参考文献】

- 1) 清水哲郎『臨床現場に臨む哲学』勁草書房、1997
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理 1, 2, 3』みすず書房、2006
- 3) ジョイス E.トンプソン他『看護倫理のための意思決定の 10 のステップ』日本看護協会出版会、2004
- 4) ダニエル F. チャンブリス(浅野祐子訳)『ケアの向こう側』日本看護協会出版会、2002
- 5) ファビエンヌ・ブルジュール(原山哲他訳)『ケアの倫理』白水社、2014

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/15 13:00- 18:00	保健医療における倫理的問題と背景 ・医療化の進展による諸問題、生命の質、平等と公平 保健医療の場における患者・クライアントの権利と医療者の義務 ・人間性の尊重、知る権利と自己決定権の保障、個人情報保護	内田
2	4/15 13:00- 18:00	看護者の基本的責任、看護実践上の倫理的概念 ・責務・アドボカシー・協力・ケアリング、倫理指針 看護実践における倫理的ジレンマとその本質 ・医療倫理と看護倫理、倫理的ジレンマと道徳的苦悩	内田
3	4/15 13:00- 18:00	ケアの倫理 ・支え合う平等という新たな地平を探る	内田
4	4/22	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
5	5/6	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
6	5/13	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
7	5/20	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
8	6/10	看護実践における倫理的問題への対応 ・子どもの虐待問題における看護職の調整的役割と責務	榊原
9	6/17	看護実践における倫理的問題への対応 ・急性・重症者ケアの場における看護職の調整的役割と責務	加藤
10	6/24	看護実践における倫理的問題への対応 ・高齢者ケアの場における看護職の調整的役割と責務	加藤
11	7/1	看護実践の場における倫理的ジレンマへの対応 ・事例検討により倫理的問題に対する効果的な対応を探求する	加藤
12	7/8	看護実践の場における倫理的ジレンマへの対応 ・事例検討①	加藤
13	7/15	看護実践の場における倫理的ジレンマへの対応 ・事例検討②	加藤
14	7/22	看護実践の場における倫理的ジレンマへの対応 ・事例検討③	加藤
15	7/29	看護専門職として倫理的問題にどう向き合うか	加藤
		課題レポート：×切○/○(△) テーマ：看護職者の倫理的責務	加藤

- 長田 京子：元基礎看護学講座教授
福間 美紀：基礎看護学講座教授
宇佐美しおり：四天王寺大学看護学部・看護実践研究開発センター教授
鶴屋 邦江：医療法人実風会新生病院 看護部長

1. 科目の教育方針

人々の健康生活を支える看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なケアのネットワークを構築していくことが重要となる。コンサルテーションは、ケアのネットワーク構築を推進するうえで重要な機能を果たす。CNSをはじめとする大学院修了者には、専門分野の高度な看護実践に関する相談・支援活動を展開することはもとより、ヘルスケア組織全体の看護の質向上のために、各機能間の協働と連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための実践的能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 保健・医療・福祉領域のケア提供者の職務遂行上の問題解決過程における相談・支援活動の目的と方法について理解する。
- 2) コンサルテーションの理論を学び、その概念、モデル、タイプ、プロセス、コンサルタントの役割、および活動の方法について理解する。
- 3) 職員のメンタルヘルスに関するコンサルテーションに必要な諸理論と職場におけるストレスマネジメントの具体的方法を理解する。
- 4) 看護実践に関するコンサルテーションについて、個人、集団、組織に対するコンサルテーションの具体的方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) コンサルテーションに関する理論、知識、方法について、講義、関連図書や論文の講読等をとおして理解を深める。
- 2) コンサルテーション事例の検討は、ロールプレイとディスカッション、分析結果や気づきに関する討議による演習形式で進め、実践力の向上を図る。

* 講義はオンライン講義とし、Teams によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。

* 演習は対面とするがフェーズが上がった場合にはオンラインとする

【評価】

評価は、授業への主体的参加、討議、レポート等により総合的に行う。

4. 参考図書等（ *その他の図書・文献は授業で紹介する。）

- 1) 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.
- 2) E・H・シャイン著、稲葉元吉他訳：プロセス・コンサルテーション、白桃書房、2011.
- 3) エドガー・H・シャイン著、金井壽宏監訳：問いかける技術、英治出版、2014.

5. 教育内容

後期木曜日 16:50~18:30

回	月/日	内 容	講師
1	10/7	コンサルテーションの概念 コンサルテーションの歴史的発展、定義、目的 コンサルティとコンサルタントの関係 コンサルテーションのプロセス、コンサルタントの役割	長田
2	集中 10/17 (日) 9:00~ 16:30	看護におけるコンサルテーションの理論と実際 ・コンサルテーションのタイプとモデル	宇佐美
3		・個人へのコンサルテーション 1	
4		・個人へのコンサルテーション 2	
5		・グループ、組織へのコンサルテーション	
6	10/21	倫理的調整におけるコンサルテーション	福間
7	10/28	看護管理におけるコンサルテーション	福間
8	集中 11/13 (土) 12:50~ 16:20	CNS の活動におけるコンサルテーションの実際 ・方法、戦略、課題 (1)	鶴屋
9		CNS の活動におけるコンサルテーションの実際 ・方法、戦略、課題 (2)	
10	11/18	看護職としての成長支援に関する理論とコンサルテーション	長田 福間
11	11/25	コンサルテーション展開演習 (対面)	長田 福間
12	12/2	コンサルテーション展開演習 (対面)	長田 福間
13	12/9	コンサルテーション展開演習 (対面)	長田 福間
14	12/16	コンサルテーション展開演習 (対面)	長田 福間
		レポート「コンサルテーションの実践における自己の課題」 締切: 2022.1.6 (木) 正午、提出: mk8592@med.shimane-u.ac.jp	長田

看護研究方法演習

単位数：2単位(60時間)

津本優子：基礎看護学講座教授

福間美紀：基礎看護学講座教授

橋本龍樹：臨床看護学講座教授

秋鹿都子：臨床看護学講座准教授

加藤真紀：地域・老年看護学講座准教授

宮本まゆみ：基礎看護学講座講師

木村真司：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

看護実践の経験知を可視化し、看護の学問的発展を支えるのが看護研究である。緻密な看護研究により、看護実践の意味が論理的に説明され、質の高い看護実践のための新たな知見が創造され、やがて看護学としての理論的体系化に至る。看護研究を行うことは、看護専門職としての責務である。看護研究の課題は、実践・教育・管理など自己の看護活動の問題意識に根差した、具体的で現実的なものであることが重要である。

本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学ぶ。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されている。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 看護研究の目的と意義を理解する。学習と研究の相違、問題解決過程と研究過程の相違をふまえ、看護研究のプロセスを理解する。
- 2) 研究デザインおよび主な研究方法の看護研究への適用について理解する。
- 3) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的方法を理解する。
- 4) 量的研究のデータ分析に必要な基本的な統計解析の方法を理解する。
- 5) 質的研究のデータ分析に必要な質的帰納的アプローチの方法を理解する。
- 6) 文献をクリティークして質の高い研究論文を、実践、研究、管理の問題解決に活用する方法を理解する。
- 7) 研究計画の全体像を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法】1～8 コマ目まではオンライン（オンデマンド）で行い、演習方式で行うコマ（9コマ目以降）は対面で実施する場合がある。

【評価】演習での議論、発表内容、課題レポート等により、総合的に判断する。

4. 基本テキスト

- 1) DFボーリット他/近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法（第2版），医学書院，2010
- 2) 石井京子，田尾清子著：ナースのための質問紙調査とデータ分析，医学書院，2002
- 3) グレグ美鈴，他著：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方（第2版），医歯薬出版，2016

【参考テキスト・資料】

講義の中で紹介する

5. 教育内容

木曜：16:50～20:00

コマ	月/日	内 容	講師
1・2	4/8	看護学研究概説：看護学の発展と看護研究・問題解決から研究へ ・看護現象の概念化と看護研究のデザイン ・主な研究方法の特徴と看護研究への適用 ・文献検索の必要性と方法 ・研究計画書の作成	津本
3・4	4/22	疫学研究総論：横断研究と縦断研究、コホート研究	橋本
5・6	5/6	実験研究 ：プロトコールの作成方法及び結果の分析・解析の理論的方法	橋本
7・8	5/13	量的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界	津本
9・10	5/20	量的研究(2) データ収集：サンプリング・質問紙作成・分析準備	津本 宮本 木村
11・12 13	<u>5/27</u> <u>14:55-</u>	量的研究(3)(4)(5) データ分析： ① データの要約	
14・15 16	<u>6/3</u> <u>14:55-</u>	② 2変量の解析 ③ 多変量の解析	
17・18	6/10	質的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界 (サンプリング、データの算出、コード化、カテゴリ化等)	秋鹿 加藤
19・20	6/17	① 質的研究(2) 質的記述的研究、グラウンデッド・セオリー	
21・22	6/24	② 質的研究(3) エスノグラフィー、現象学	
23・24	7/1	③ 質的研究(4) 事例研究、質的統合法	
25・26	7/8	④ 質的研究(5) アクションリサーチ、まとめ	
27・28	7/15	看護研究における倫理 ・看護研究における倫理的問題と倫理的配慮 ・看護研究倫理審査申請への準備	福岡
		研究における文献検討の意義と活用 ・文献クリティークの方法	
29・30	7/22	研究における文献検討の意義と活用 ・課題文献のクリティークと活用	

※時間外で、図書館の文献検索研修を受講すること（数人でまとまって申し込むこと）。

※4/15は「看護倫理」の集中講義のため休講とし、5月27・6月3日に振り分ける。

看護学特別研究

単位数：8単位

*看護援助学コース（担当：福間美紀教授）

現代および将来を見据えたヘルスケアシステムにおいて質の高い看護援助を提供するために、看護援助の理論と科学的思考力を獲得し、看護援助に関する現象や看護技術の検証と新たな看護援助の開発を目指して教育・研究を行う。

*看護管理学コース（担当：津本優子教授）

自己の看護専門職としての関心、及び、特論及び演習で学んだことを基盤に、看護管理に関する研究課題を見出して研究を実施し、その結果を論文にまとめる。

*地域・在宅看護学コース（担当：伊藤智子教授）

地域で生活する人々の健康と生活を支援する看護に関する研究課題を見だし、研究論文を作成する。

*母子看護学コース（担当：秋鹿都子准教授）

小児・母性の健全な成長・発達を支えるための看護支援の方法について分析し、看護の科学的根拠を見い出して成果を論文にまとめる。

*がん・成人看護学コース（担当：若崎淳子教授、橋本龍樹教授）

がん患者とその家族が直面する健康問題を広く検討し、がん看護に関する研究課題を見出し、患者家族のQOL向上を目指して新たな知識を創出し、成果を論文にまとめる。

*高齢者看護学コース（担当：原祥子教授、加藤真紀准教授）

高齢者の健康と生活を支える多様なケアサービスに関する課題を見出し、高齢者の健康生活の向上を目指した看護実践を追究し、論文を作成する。

看護学課題研究

単位数：4単位

*がん看護CNSコース（担当：若崎淳子教授）

がん看護実践上の課題を探究するため、がん看護学領域における研究動向を踏まえて自己の研究課題を明確化、研究計画書を作成し、研究を実行する。データ収集・分析の過程を通じて研究手法に関する理解を深めると共に論旨一貫性のある研究論文を作成する。

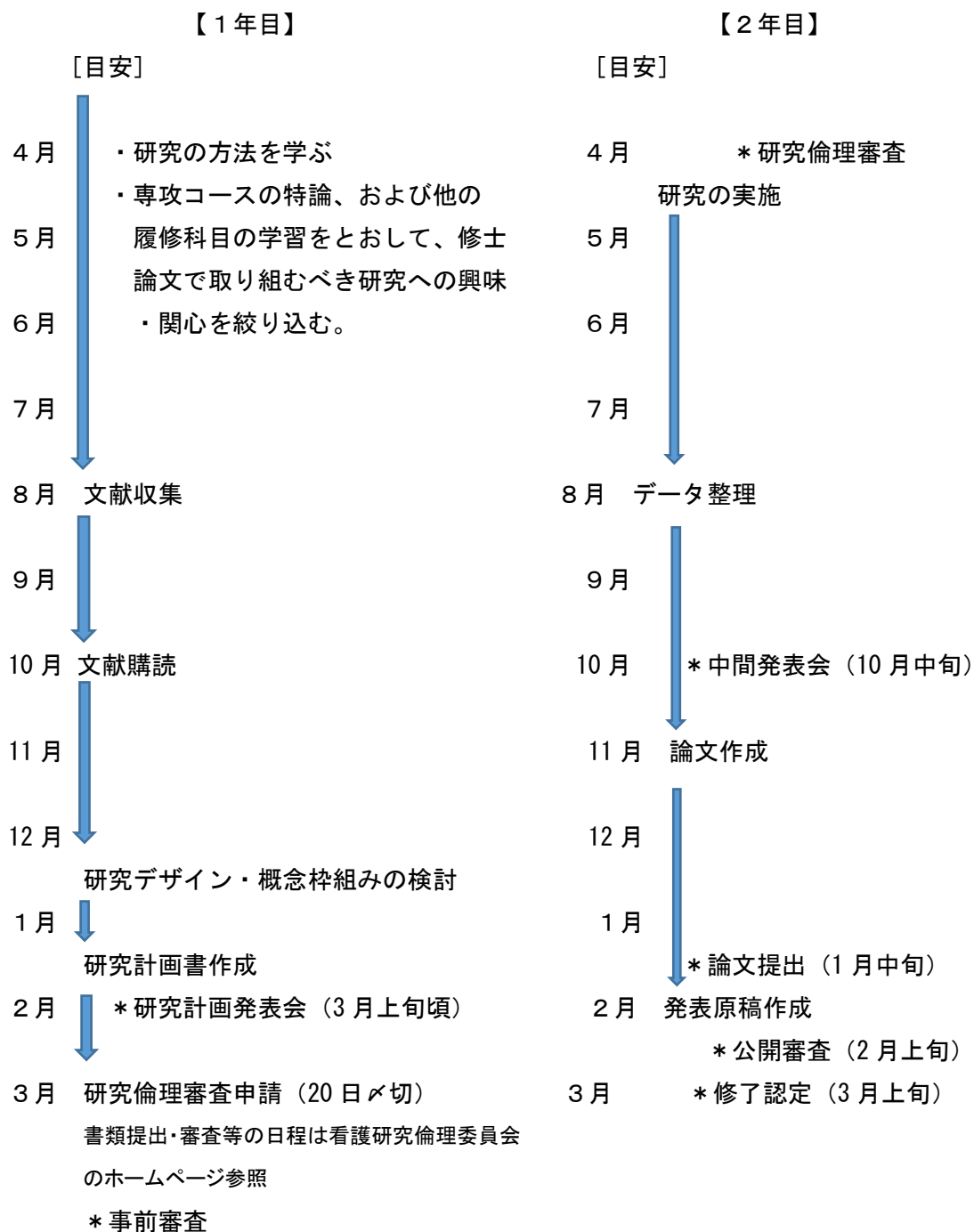
*老人看護CNSコース（担当：原祥子教授）

高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究する。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施する。課題研究の成果は、修士論文として作成する。

*助産学コース（担当：橋本美幸准教授）

女性、子ども、家族の性と生殖に関する健康と権利に関する問題や課題を見出し、これらを解決する助産実践の方法や対策について探求する。このプロセスを修士論文として作成し、発表する。

修士論文作成の目安と審査スケジュール



博士後期課程

1. 目的

世界に先駆けて超高齢社会を経験し、その健康課題に先進的に取り組んできた島根県においては、超高齢社会における健康課題の解明とその看護に焦点を当てた研究による看護方法の開発や知の構築を行っていく必要がある。

今後、さらに複雑さを増すことが予測される超高齢・長寿社会における健康問題に適切に対応して、人々の健康生活を支えるためには、これまで提唱されてきた加齢の諸理論や、培ってきた高齢看護学の知識・方法等をさらに発展させて、新たな知識と方法の集積による理論の体系化、すなわち「超高齢看護学」を構築することが急務である。

看護学専攻博士後期課程は、超高齢看護学の理論体系化に資する水準の独創的な看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与することを目的とする。

2. 目標

「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成する。

3. ディプロマ・ポリシー

3年以上在学し、所定の単位を取得し、かつ、研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査に合格することにより、博士（看護学）の学位を授与する。そのために、以下の学修成果を求める。

1. 国内外の文献分析や保健・医療機関等でのフィールドワークを通して、超高齢看護学の構築に必要な研究課題を設定できる。
2. フィールドのケア対象者や実践者、異分野の研究者等と連携・協働して超高齢看護学の理論体系化に有用な研究を自ら企画・立案・遂行できる研究能力が培われている。
3. 学術的意義、新規性、創造性、応用的価値のある超高齢看護学に関する博士論文が作成できている。
4. 博士論文の研究成果を国内外で発表するために必要なプレゼンテーション力、英語力が身につけている。
5. 大学等の教育研究機関及び保健・医療の現場で、看護学の教育・研究をリードしていくキャリアビジョンを明確に描けている。

4. カリキュラム・ポリシー

「超高齢看護学」を理論体系化するための高水準で独創的な研究を自立して行う能力を効果的に培うため、以下のカリキュラム（16単位）を設定する。

1. 「超高齢看護学」を構成する専門科目として、看護ケア方法や看護実践モデルの開発、看護理論の生成など超高齢看護開発に関わる『超高齢看護開発特講』と、看護の成果を効果的に提供するためのシステム開発に関わる『安全ケアシステム開発特講』の2科目4単位を1年次前期に設ける。国内外の看護学および看護学に関連する領域の理論、文献、報告書、資料等を網羅的に分析し、「超高齢看護学」の創生に繋がる可能性のある研究課題や理論構築の必要性を示す根拠の発見に努める。「超高齢看護学」の構築を展望するために、両科目の最終回は合同セッションとする。
2. 「超高齢看護学」の研究を学際的に遂行するための視点と方法論を学ぶための『研究方法特講』2単位を1年次前期に設ける。
3. 『超高齢看護開発特講』、『安全ケアシステム開発特講』、『研究方法特講』と併行して、1年次の通年科目である『超高齢看護学研究演習』2単位を設ける。本科目では、フィールドワークを通して研究課題を模索する。「超高齢看護学」は新たに構築する分野であることから、自己の研究的関心に即した現地において、その対象や現象を直接観察し、関係者への調査を行い、現地での資料を収集することなどによって、そのコミュニティの特性に応じた、顕在的及び潜在的な健康課題や、今後起こり得る健康課題を予測し、研究すべき課題を浮き彫りにする。
4. 異分野融合研究を積極的に進め、ケア開発を戦略的に推進できる学際的リサーチマインドを身に付けることを目的として、本学医学系研究科医科学専攻博士課程で開講されている科目のうちから、看護学との連携と融合が期待できる以下の13科目を関連科目として設定し、その内から1科目2単位以上を履修する。
『総合診療学Ⅰ』『総合診療学Ⅱ』『地域医療学Ⅰ』『地域医療学Ⅱ』『医学・医療情報学Ⅰ』『臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用』『地域がん治療学』『がん医療社会学』『緩和ケア学』『環境医学Ⅰ』『環境医学Ⅱ』『知的財産と社会連携』『機能性物質・食品の医療応用と環境影響』
5. 博士論文作成に係る『超高齢看護学特別研究』6単位を設け、学生の研究テーマと履修計画に応じて、入学時から修了まで、主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員の3名による重層指導体制により、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有する博士論文を作成できるよう個別に研究指導を行う。

5. 履修方法

専門科目として、「超高齢看護開発特講」と「安全ケアシステム開発特講」の2科目4単位に加えて、「研究方法特講」2単位、「超高齢看護学研究演習」2単位、「超高齢看護学特別研究」6単位、関連科目から1科目2単位以上の合計16単位以上を履修する。

6. 学位論文審査

論文は、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値の観点から審査することとし、口頭発表と口頭試問による公開の最終試験を実施する。

7. 修了の要件

本課程に原則として3年以上在学し、専門科目の必修科目14単位、関連科目の選択科目から2単位以上の合計16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格することとする。

8. 学位授与

博士（看護学）

9. 学位論文の公表

博士（看護学）の学位を授与された者は、学位論文が学術論文として印刷、公開されるよう、指導教員の指導のもとに、学位を授与された日から1年以内に関連分野の学会誌に投稿することを原則とする。ただし、学位が授与される以前にすでに印刷公開している場合は、この限りではない。

10. 長期履修制度と修業年限

修業年限は3年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第29条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の2倍の年限まで修業することができる。

11. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。

授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

12. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。(平成 31 年度貸与月額 第一種：無利子 80,000 円または 122,000 円、第二種：有利子 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円)

13. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

14. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム

区分	授業科目名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
専門科目	超高齢看護開発特講	1（前）	2		必修科目14単位修得すること
	安全ケアシステム開発特講	1（前）	2		
	研究方法特講	1（前）	2		
	超高齢看護学研究演習	1（通）	2		
	超高齢看護学特別研究	1～3	6		
関連科目	地域がん治療学	1（後）		2	選択科目から2単位以上修得すること
	がん医療社会学	1（後）		2	
	緩和ケア学	1（後）		2	
	環境医学Ⅰ	1（後）		2	
	環境医学Ⅱ	1（後）		2	
	医学・医療情報学Ⅰ	1（後）		2	
	地域医療学Ⅰ	1（後）		2	
	地域医療学Ⅱ	1（後）		2	
	総合診療学Ⅰ	1（後）		2	
	総合診療学Ⅱ	1（後）		2	
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1（後）		2	
	知的財産と社会連携	1（後）		2	
機能的物質・食品の医療応用と環境影響	1（後）		2		
修了に必要な単位数		16単位			

15. 履修モデル

- モデルA「認知症高齢者の看取りにおける地域包括ケアモデルの有効性に関する研究」
- モデルB「超高齢・過疎地域における後期高齢者のソーシャル・サポートと健康との関連に関する研究」
- モデルC「ICTの活用による地域包括ケアにおける安全管理システムの開発に関する研究」
- モデルD「多職種協働による地域包括ケアをリードする看護専門職育成モデルの開発に関する研究」

区分	科目名	配当年次	単位数	必修・選択の別	履修要件	モデルA	モデルB	モデルC	モデルD
専門科目	超高齢看護開発特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	安全ケアシステム開発特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	研究方法特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	超高齢看護学研究演習	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	超高齢看護学特別研究	1~3	6	必修	● 6単位	●	●	●	●
関連科目	地域がん治療学	1	2	選択	○				
	がん医療社会学	1	2	選択	○				
	緩和ケア学	1	2	選択	○				
	環境医学Ⅰ	1	2	選択	○				
	環境医学Ⅱ	1	2	選択	○				
	医学・医療情報学Ⅰ	1	2	選択	○ 2単位				○
	地域医療学Ⅰ	1	2	選択	○ 以上		○		
	地域医療学Ⅱ	1	2	選択	○				
	総合診療学Ⅰ	1	2	選択	○	○			
	総合診療学Ⅱ	1	2	選択	○				
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1	2	選択	○			○	
	知的財産と社会連携	1	2	選択	○				
	機能性物質・食品の医療応用と環境影響	1	2	選択	○				
合計					16単位以上	16単位	16単位	16単位	16単位

注) ●専門科目は14単位必修

○関連科目は2単位以上選択

16. 入学から修了までのスケジュール

1年次	4月 10月 2～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・入学 ・入学時オリエンテーション：教育課程、履修方法、研究の進め方、学位論文の審査等についてガイダンスを行う。 ・指導教員の決定 ・個別履修指導：指導教員の指導のもとに履修科目を選択し、履修する。 ・指導教員の指導のもとに、研究課題の焦点化と研究計画書の作成をすすめる。 ・中間発表会：検討してきた研究計画について発表する。
2年次	4～5月 9月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究倫理委員会で研究計画書の審査を行う。 ・調査フィールド（病院・施設・機関等）の倫理委員会の審査を受ける。 ・研究計画書にそって、研究をすすめる。 ・中間発表会：学位論文に係る研究の進捗状況について発表する。 ・中間発表会：学位論文に係る研究の進捗状況について発表する。
3年次	4～9月 12月 1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文の研究成果の一部を国内外の学会等で発表する。 ・予備審査：学位論文の草稿等について予備審査を行う。 ・学位論文審査願及び学位論文の提出 ・学位論文審査（論文審査・最終試験） ・学位論文の可否を研究科委員会で決定する。 ・博士後期課程修了・学位授与

17. 研究指導の標準的なスケジュール

年次	学期	大学院生の研究活動	研究指導の方法
1年次	前期	・ 研究課題の焦点化と研究方法の検討	・ 主研究指導教員は、入学時に大学院生の研究テーマに即して決定する。
			・ 副研究指導教員と研究指導補助教員は、大学院生及び主研究指導教員との合意により入学後に決定する。
			・ 指導教員*は、研究課題の焦点化と研究計画について指導する。
		・ フィールドワーク	
	後期	・ フィールドワーク	・ 指導教員は、研究計画の立案を指導する。
		・ 研究方法の決定	
・ 研究計画の検討、研究計画書の作成			
	・ 中間発表会での研究計画発表	・ 指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、研究計画の修正について指導する。	
	・ 看護研究倫理委員会の予備点検による研究計画の審査を受ける	・ 指導教員は、予備点検の結果に応じて、研究計画の整備と看護研究倫理委員会における審査に向けて指導する。	
2年次	前期	・ 看護研究倫理委員会への審査申請	
		・ 看護研究倫理委員会の審査結果を踏まえた研究計画の見直しと研究計画書の修正	・ 指導教員は、看護研究倫理委員会の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正について指導する。
		・ 研究計画書にそった研究活動の展開	・ 看護研究倫理委員会で承認された研究計画書に基づいて、指導教員は、大学院生の研究の進捗状況を確認しながら研究遂行を指導する。
		・ リサーチ・アシスタントとして積極的に本学の研究プロジェクト等に参画	・ 指導教員は、学生が必要な研究補助を担うことができるように支援し、研究チームにおける研究遂行を指導する。
	後期	・ 中間発表会での研究内容発表	
		・ 中間発表会における研究指導教員以外の教員の助言や指導を踏まえた研究活動の継続	・ 指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、これ以降の研究活動について指導する。
3年次	前期	・ 学位論文の作成	・ 指導教員は、学位論文の作成に関して指導する。
		・ 学位論文の研究成果の一部を国内外の学会で発表	・ 指導教員は、学生の学会発表における抄録作成、プレゼンテーションについて指導する。
		・ 予備審査の資料作成	・ 指導教員は、予備審査の資料作成に関して指導する。
	後期	・ 予備審査委員会による査読及び修正指導の審査	・ 指導教員は、予備審査の結果に応じた学位論文の修正について指導する。
		・ 学位論文審査委員会への審査申請	・ 指導教員は、大学院生が学位論文を完成させ、学位論文の審査を受けるための指導をする。
		・ 学位論文の審査及び最終試験（口頭試験）	
修了後 1年以内	・ 学位論文を国内外の看護系学会誌または保健・医療系学会誌等に投稿	・ 指導教員は、学会誌に投稿する論文の作成に関して、論文が受理されるまで指導する。	

* 指導教員：主研究指導教員、副研究指導教員及び研究指導補助教員

科目解説

超高齢看護開発特講
Advanced Lecture/Seminar on Development of Nursing Care in Super Aged Society

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

現在、日本は世界最長寿国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生涯にわたる健康と尊厳ある生活・療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉えたうえで、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。

2. 教育目標

- 1) 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、超高齢社会における顕在的及び潜在的な健康課題を自己の研究疑問に引き付けて整理する。
- 2) 国内外の論文クリティークを通して、超高齢社会における人々の健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、自己の研究課題を見出す。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

最終回は、安全ケアシステム開発との合同セッションとし、研究開発による「超高齢看護学」の構築を展望する。

Teams によるライブ配信を中心とする。

【評価】

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【論文クリティークのための参考文献】

- 1) 山川みやえ，牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.
- 2) 牧本清子：エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー，日本看護協会出版会，2013.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	高齢看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	原 祥子
2	4/19	<p>※学生の看護実践に基づく問題意識や以下のテーマに関する国内外の論文クリティーク（システムティックレビュー（SR）の検索データベース JBI CO_nNECT+（Aged Care 領域など）やコクラン・ライブラリーに収載されている SR のクリティークによる臨床ケアの方向性の検討を含む）を通して、超高齢社会における人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自我発達支援 ・高齢者のエンパワメントの概念と実践 ・高齢者の健康生活評価（包括的アセスメント） ・後期高齢者・超高齢者の QOL 評価 ・フレイル(frailty)の予防・介入 ・認知症ケア ・エンドオブライフケア ・高齢者の家族介護者支援 ・高齢者ケアの質評価、標準化 ・高齢者医療・看護における倫理的課題 ・ケアコーディネーションの理論・方法論の開発 	原 祥子
3	4/26		
4	5/10		
5	5/17		
6	5/24		
7	5/31		
8	6/7		
9	6/14		
10	6/21		
11	6/28		
12	7/5		
13	7/12		
14	7/19 or26		
15	7/19 or26	総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望	

安全ケアシステム開発特講

Advanced Lecture/Seminar on Development of Safety Nursing Care System

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

- 津本 優子：基礎看護学講座 教授
- 内田 宏美：天理医療大学 教授
- 石垣 恭子：兵庫県立大学応用情報科学研究科 教授
- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授

1. 科目の教育方針・教育の目的

超高齢社会を支える包括ケアのネットワークにおいて、ケアの質・安全を保障する観点から、ケアサービス提供にかかる課題を探究する。超高齢社会における様々な健康課題に対して、保健医療福祉看護関連の制度政策の提案も視野に入れて、安全で質の高いケアを組織的・系統的に提供するためのケア提供方法や人材育成・活用、包括ケアにおける安全システムの開発とリーダーシップ、包括ケアにおけるケア情報システムの開発等々、ケアの質・安全と社会システムとの関係を多角的に探索し、超高齢社会を支える安全ケアシステムの開発や理論開発の方向性を見出す。

2. 教育目標

- 1) 超高齢社会のケアを包括的に支援するシステム構築の必要と意義、開発上の課題を明らかにする。
- 2) 超高齢社会のケア包括支援システム構築における、看護情報システム導入・活用の在り方、開発の方向性と課題を明らかにする。
- 3) 安全ケアシステムを基盤としたケア包括支援システム構築のあり方と課題、効果的な運用について検討する。
- 4) 上記をとおして、超高齢社会における安全ケアシステム開発上の研究課題を探索する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】 講義および学生のプレゼンテーション、討論によって進める。

【知の統合】最終回に、超高齢社会看護開発学との合同セッションを持ち、「超高齢社会看護学」の知の構造化を図る。

【評価】プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断。

4. テキスト（テキストは指定しない。関連図書、関連の学術論文等を適宜提示する。）

【参考図書】

- 1) 井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①-⑦』日本看護協会出版会
- 2) Rebecca.A.Patronis Jones 『Nursing Leadership and Management -Theories, Processes and Practice』 F.A.DAVIS COMPANY, 2007
- 3) R.Curtis 『Integrated Care: Applying Theory to Practice』
- 4) 筒井孝子『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略—integrated care の理論とその応用』中央法規、2014
- 5) American Society for Healthcare Risk Management (ASHRM) (著), Roberta Carroll (編集) : Risk Management Handbook for Health Care Organizations, 3 Volume Set, 2010

5. 教育内容

(前期：月曜日) 20:00-21:30

回	月日	内 容	講師
※ 各単元で、国内外の文献をクリティークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探究する。			
1	4/12	<ul style="list-style-type: none"> ・ integrated care (包括ケア) のネットワークにおける安全管理システムの現状 ・ 包括ケアシステムにおける安全管理システム開発上の課題 ・ ケアサービスの標準化とケアの質・安全保証 ・ 包括ケアのネットワークへの安全管理システム導入戦略 ・ 安全管理システム稼働によるケアの質評価指標の検討 ・ 包括ケアシステムにおける安全管理者育成戦略と課題 ・ 超高齢社会における看護情報システム構築戦略と課題 	津本
2	4/19		
3	4/26		
4	5/10		
5	5/17		
6	5/24		
7	5/31		
8	6/7 ※	・ 療養型医療施設における看護・介護職の実践能力を向上するケア評価システムの開発	石垣
9	6/14 ※	・ 地域賦活ケアにおける保健医療福祉情報管理システム構築におけるケアの質・安全保証の戦略と課題	
10	6/18 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク組織論、変革理論、リーダーシップ理論の包括ケアシステムへの適用と課題 ・ 包括ケアにおける看護管理者のリーダーシップ能力開発戦略と課題 	内田
11	6/28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超高齢社会における安全で質の高い看護実践を支援するための看護情報システム開発戦略と課題 ・ 看護情報システムと安全管理システムとの有機的連動によるケアの質・安全保証戦略と課題 	津本
12	7/5		
13	7/12		
14	7/19 or 7/26	総括：超高齢社会における健康課題と健康支援システムを安全管理の観点から、保健・医療・福祉の有機的連携による安全で質の高いケア提供システム開発のための研究課題を明らかにし、超高齢看護開発特講との融合による「超高齢看護学」を展望する。	津本 原
15			

※ 嘱託講師の日程は変更する可能性がある

研究方法特講

Advanced Lecture on Research Method

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

○橋本 龍樹：臨床看護学講座 教授
原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
津本 優子：基礎看護学講座 教授
小林 裕太：看護学科 特任教授
出口 顯：法文学部社会文化学科 教授
稲垣 卓司：教育学部心理・発達臨床講座 教授
中村 守彦：地域医学共同研究部門 教授
内田 宏美：天理医療大学医療学部 学部長

1. 科目の教育方針

博士前期課程で学習した研究方法を踏まえたうえで、博士後期課程において超高齢看護学特別研究を行うために必要な研究アプローチについて、看護学に限らず、文化人類学・医学・生物学などで用いられる研究方法を幅広く学習する。また、英語の論文を作成するために必要な基本的ルールと技術を学ぶ。

2. 教育目標

講義では、質的研究である Grounded theory、Ethnography Research、現象学、解釈学を取り上げ、自らの研究領域の研究の概観を探求する。また、主に量的な研究手法をとる医学的研究方法（精神・心理学、生化学、形態学、細胞生物学、分子生物学、生理学、薬理学）や、アクションリサーチについても解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学・社会的な視点を入れることができ、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英語論文を読む能力と作成する方法を修得する。

3. 教育方法、進め方、評価等

講義形式を基本とする。教育内容によっては、実際の学術論文の読解など演習的な要素を含む。評価はレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

【参考図書】

- 1) The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence
Susan K. Grove, Nancy Burns, Jennifer Gray, Elsevier/Saunders, 2013, 7th ed
- 2) Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice
Denise F. Polit, Cheryl Tatano Beck, Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, 2016 10th ed

5. 教育内容

回	月日 (時限)	内 容	講師
1	4月16日	看護学研究方法の概説 ・看護学研究における研究倫理	原
2	4月23日	現象学・解釈学的アプローチの概要と特徴	原
3	5月14日	グラウンデッドセオリーの概要と特徴	原
4	5月21日	国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法	原
5	5月28日	分子生物学的研究方法 －医学的進歩における最新の分子生物学的アプローチ－	橋本
6	6月4日	看護学研究における知的財産と利益相反	中村
7	6月11日	－形態学及び細胞生物学的研究方法 －電子顕微鏡観察法及び免疫組織学的研究法	橋本
8	6月18日	看護学研究におけるアクションリサーチの意義	内田
9	6月25日	英語論文の読解法と作成法	橋本
10	7月2日	生理学的研究方法 －最新の医学・生理学の知見と研究方法－	小林
11	7月9日	薬理学的研究方法の概説	小林
12	7月30日	古典的エスノグラフィー、批判的エスノグラフィーの特徴と進め方	出口
13	リモート	ポストモダン・ポスト構造主義のエスノグラフィーの特徴と進め方	出口
14	8月6日 14:55-16:25	精神・心理的発達のアセスメントツール開発方法の概説	稲垣
15	8月6日 16:40-	精神・心理学的アプローチの特徴と進め方	稲垣
<p>・講義は、原則として 金曜日 18:30-20:00 演習室で行います。</p> <p>・7月26日の12回、13回は松江キャンパスで行います。時間は後日お知らせします。</p> <p>・8月9日の教室は後日お知らせします。</p> <p>・講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。</p> <p>・予備日：8/23、8/30</p>			

超高齢看護学研究演習

Research Seminar on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1年次（通年） 単位数：2単位

- | | |
|--------------------------------------|------------------------|
| ○原 祥子：地域・老年看護学講座教授 | 津本優子：基礎看護学講座教授 |
| 福間美紀：基礎看護学講座教授 | 橋本龍樹：臨床看護学講座教授 |
| 若崎淳子：臨床看護学講座教授 | 伊藤智子：地域・老年看護学講座教授 |
| 狩野賢二：クリニカルスキルアップ [®] センター講師 | 福田誠司：医療安全管理部 臨床遺伝診療部教授 |
| 出口 顯：法文学部社会文化学科教授 | 稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授 |
| 小林裕太：特任教授(元基礎看護学講座教授) | |

1. 科目の教育方針

「超高齢看護学」は、これまで培ってきた高齢看護学や健康長寿を支援するヘルスプロモーションの専門的取り組み等による知見を基盤として、新たに構築しようとする専門分野である。そのため、多角的な文献の分析はもとより、人々の生活の場で生成される健康課題の中から、超高齢看護学が取り組むべき研究課題を予見していくことが重要となる。したがって、本演習では高齢者へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。また、国際的視野の涵養とともに、課題の国際的な意義を検討するために、島根大学協定校での研修等を組み込む。

以上の方針に基づき、自己の研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。

2. 教育目標

- 1) 参加型看護研究及び行動モデルとその適用について理解できる。
- 2) フィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題を確認し、超高齢看護にかかる健康課題を明確にすることができる。
- 3) フィールドワークの成果とプロセスをまとめて、適切に発表できる。
- 4) 超高齢看護にかかる健康課題と自己の研究的関心を融合させ、超高齢看護学の構築に寄与し得る研究課題を焦点化することができる。
- 5) 自己の研究課題に対応した研究デザインを定め、適切な倫理的配慮のうえで研究を遂行するための方法、分析方法を探索し、論理的一貫性のある研究計画を検討できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 2単位 60時間の通年科目として、演習とフィールドワークにより展開する。
- 2) フィールドワークを経て研究計画の立案に至るプロセスを順当に辿れるよう、以下の流れで行う。
 - (1) 前半の約 1/3：フィールドワークを効果的に実施するための知識の習得と準備
 - (2) 中盤の約 1/3：フィールドワーク・まとめ
 - (3) 後半の約 1/3：博士論文で取り組む研究課題の明確化と研究計画の検討
- 3) フィールドワークの進め方
 - ・フィールドワークは島根大学協定校とその所在地域及び島根大学医学部が研究フィールドとしている医学部附属病院、大田総合医育成センターや自治体・関係機関を中心に実施する。
 - ・フィールドは学生が自己の研究的関心に即して選定し、そのフィールドと関係の深い教員の指導・支援の下でフィールドワークを実施する。
 - ・準備したフィールド以外の場を学生自身が開拓して実施する場合は、指導教員（主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員）が指導・支援を担当する。
- 4) フィールドワークの取り組み状況、プレゼンテーションの内容、討論への参加状況等により主研究指導教員が総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

【基本テキスト】

- 1) 佐藤 郁哉：社会調査の考え方 上・下，東京大学出版会，東京， 2015.

【参考文献】

- 1) プラニー リアムプットーン編（木原雅子，木原正弘訳）：現代の医学的研究方法－質的・量的方法、ミックスメソッド、EBP－，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2012.
- 2) John W. Creswell（操華子・森岡崇訳）：研究デザイン－質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会，2007.
- 3) 安西祐一郎：問題解決の心理学，中央公論社，東京，1985.
- 4) Tosteson DC：New pathway in general medical education. *New Eng J Med* 322: 234-238, 1990.
- 5) 佐藤隆博：構造学習法入門，明治図書，東京，1996.
- 6) Sundquist J, et al.：Neighborhood linking social capital as a predictor of psychiatric medication prescription in the elderly: a Swedish national cohort study. *Journal of Psychiatric Research* 55: 44-51, 2014.

5. 教育内容

金曜：20:00~21:30

回	月/日 (時限)	内 容	担当
1	4/9	ガイダンス 学生の看護実践からの課題候補の抽出	津本
2	4/16	フィールドワークの考え方 ・調査方法の種類と特徴	
3	4/23	・調査の進め方	
4 5 6 7 8	5月	フィールドワークの準備 ・国内外のフィールドワークの場所と方法の決定 ・活動計画の立案：目標の設定、具体的方法とスケジュール、 活動計画の倫理性の検討、利用可能な資源（システム・人材を含む）等の検討	科目担当 全教員
9 10 11 12 13 14 15 16	6月 7月 8月	フィールドワークの実施 [対応教員] ・医学部附属病院及び関連病院 [福田・狩野] ・大田総合医育成センター [橋本] ・老人看護 CNS が活動する松江市の病院 [原] ・がん看護 CNS が活躍する松江赤十字病院等 [若崎] ・島根大学疾病予防プロジェクト [福間] ・島根まめネット [津本] ・その他、適宜 [稲垣・出口・多田] 等	科目担当 全教員
17 18	9/13 (月)	フィールドワーク型研究活動の成果発表	科目担当 全教員
19 20	10月	・自己の研究課題の明確化 ・各種モデルを用いて設定した課題に即した仮説設定	※指導教員
21 22	11月	・研究課題に関する研究デザインの検討 ・研究方法の検討	※指導教員
23 ~ 26	12月 1月	・データ分析方法の探索 ・研究倫理の検討	※指導教員
27 28	2月	研究計画全体の構造化	※指導教員
29 30	3/7 (月)	研究計画の発表	科目担当 全教員

※指導教員の専門性、支援可能な分野、方法等についての詳細は、『超高齢看護学特別研究』のシラバスに記載している「5. 研究指導教員と指導の概要」を参照のこと。

超高齢看護学特別研究
Research on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1～3年次（通年） 単位数：6単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授 津本優子：基礎看護学講座教授
 福間美紀：基礎看護学講座教授 橋本龍樹：臨床看護学講座教授
 若崎淳子：臨床看護学講座教授 伊藤智子：地域・老年看護学講座教授
 狩野賢二：クリニカルスキルアップセンター講師 福田誠司：医療安全管理部臨床遺伝診療部教授
 出口 顯：法文学部社会文化学科教授 稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授
 小林裕太：特任教授(元基礎看護学講座教授)

1. 科目の教育方針

超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。

2. 教育目標

- 1) 特講・超高齢看護学研究演習の進行及び成果と連結させながら、超高齢社会における人々の健康課題解決に有用な研究計画を立案する。
- 2) 研究計画に沿って研究活動を展開できる。
- 3) 分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・研究指導教員及び研究指導補助教員の多重支援体制をとり、その指導の下に研究を進める。
- ・多重支援体制は、主研究指導教員と副研究指導教員及び研究指導教員の専門分野や専門領域を補完する研究指導補助教員の3人体制とする。

目安	内 容
1年次	・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
2年次	・研究計画に沿って、研究フィールド・協力者への適切な交渉と倫理的な手続きを行い、研究活動を展開する。
3年次	・収集したデータの分析を行い、結果の妥当性を検証したうえで、博士論文を作成する。

【評価】

研究プロセスへの取り組み状況、作成した研究計画書・論文により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) APA (江藤裕之他訳) : APA 論文作成マニュアル, 医学書院, 2004.

5. 研究指導教員と指導の概要

教員	指導の概要
原 祥子	認知症や運動器疾患など高齢者に多い疾病や加齢による様々な障がいに関わる専門的な看護を発展させるための新規性のある研究課題を選定し、関連する医・工分野と連携・融合したこれまでの研究を基に、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導する。
津本優子	地域包括ケア等のネットワークにおける看護情報システムの開発や情報リテラシーを高めるための教育システムの開発に関する研究課題及び安全な健康長寿社会の実現に寄与する観点からの研究課題に対して、疫学統計法・情報学の知見を活用して、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
福間美紀	中山間地における要支援高齢者や虚弱高齢者の支援、疾病予知予防の観点からの健康支援システムの開発に関する研究課題に対して、地域の医療及び保健機関と連携して行ってきた研究を踏まえ、主に疫学的方法やアクションリサーチを用いて、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
橋本龍樹	地域の実情に応じた、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証をするための研究課題を選定し、動物実験による発生工学的手法や分子生物学解析、生化学データの解析や病理学的解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。
若崎淳子	超高齢社会を生きる視点から、老年看護学とがん看護学の融合により QOL の維持・向上を目指した高齢がん患者のケアの開発やエビデンスの構築に向けて看護学を考究し、看護学の高度な専門知識をもって最新の知見と関連する理論により研究課題を選定し、複数の研究方法論を理解した上で独創的な研究を計画・実行し、論文を作成できるよう指導する。

伊藤智子	超高齢社会における人々の健康課題を、生涯発達や生活環境との関連から捉え、その人らしい健康生活支援、健康長寿の延伸、地域の健康づくり等に寄与する研究について、質的・量的研究方法により、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
狩野賢二	超高齢者における身体活動をフジカルアセスメントにより捉えることで、疾病治療のみならず疾病予防および生活支援における諸問題を客観的に評価することで、健康長寿への取り組みを研究的思考で捉えるテーマにおいてデータ収集・解析および論文作成の指導を行う。
福田誠司	高齢期の生活に多大な影響を及ぼす健康問題の一つである白血病を含む血液疾患と先天性代謝異常の専門家として、分子生物学分野における基礎医学的研究成果と豊富な臨床経験を基に、新規性のある研究課題を選定し、臨床医学的手法と基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
出口 顯	超高齢社会における人々の健康課題や健康長寿を支える先端医療をめぐる文化的対応の中に研究課題を求め、生命倫理に関する諸問題を文化人類学の切り口で分析した研究の実績を生かし、適切と判断されるテーマについて、エスノグラフィーを行ううえでの倫理と計画的なエスノグラフィー研究を行うための検討、研究計画書の作成、精度の高いデータ収集と分析、論文作成ができるよう指導する。
稲垣卓司	超高齢社会が直面している人間関係の希薄によって発生するライフステージに応じた精神・心理的課題の中から、児童から高齢者にわたる精神科医としての診療・研究を基に、支援方法を開発するための研究課題を選定し、精神医学的方法論も検討しながら目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
小林裕太	超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、健康を支援する環境づくりや健康長寿に寄与し得る研究課題について生理学的研究方法や薬理学的研究方法を選択し、精度の高いデータ収集・解析、論文作成の指導を行う。

地域がん治療学

Local cancer therapeutics

単位数：5単位

○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 並河 徹 教授：病態病理学
田島義証 教授：消化器・総合外科学 齊藤洋司 教授：麻酔科学
磯村 実 教授：人間科学部(医学部兼務) 田村研治 教授：先端がん治療センター
津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科 橋本龍也 講師：緩和ケアセンター

1. 科目の教育方針

地域がん治療学においては、地域に多い高齢者のがん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネージメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。
- 2) がん診療において必要とされる包括的なマネージメントについて理解する。
- 3) がん治療認定医機構の認定医ならびに日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医資格試験の受験に必要なレベルに到達する。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携について学ぶ

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がんに関する基礎医学的知見を説明できる。
- 2) がんの心理社会的側面・倫理的側面を説明できる。
- 3) がんの治療に関する基本原理を理解し、説明できる。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携が説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

【参考図書】

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集による「新臨床腫瘍学 改訂第5版」、南江堂、2019.
 - 2) 佐藤隆美：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂第4版、南山堂、2019.
 - 3) 国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第8版、医学書院、2019.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	山陰地区のがん医療の現状と地域がん対策	磯部 威
2	病診連携と ICT	磯部 威
3	病理学、臨床検査医学、分子生物学	並河 徹
4	家族性腫瘍、遺伝子診断	磯村 実
5	高齢者のがんの特徴	津端由佳里
6	高齢者機能評価	津端由佳里
7	消化器がんの手術適応	田島義証
8	地域におけるがん薬物療法（1）外来化学療法	津端由佳里
9	地域におけるがん薬物療法（2）地域連携パス	津端由佳里
10	副作用対策（1）血液毒性	田村研治
11	副作用対策（2）非血液毒性	田村研治
12	終末期ケア（1）疼痛管理	齊藤洋司
13	終末期ケア（2）コミュニケーションスキル	橋本龍也
14	演習（模擬試験）	磯部 威
15	総括	磯部 威

がん医療社会学

Cancer medical sociology

単位数：5単位

○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 齊藤洋司 教授：麻酔科学
熊倉俊一 教授：地域医療教育学 津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科

1. 科目の教育方針

がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のQOL（生活の質）や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療においての多職種によるチーム医療の重要性と実際を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

地域に多いunfit populationと呼ばれる、高齢者や合併症を有するがん患者に対して、診断、病状説明、最適な治療について対話ができる医療従事者を育成することを目標とする。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がん患者のQOL（生活の質）について理解する。
- 2) 各臓器別のがん腫について診断、治療戦略を学ぶ。
- 3) 高齢者や合併症を有するがん患者への対応を学ぶ。
- 4) がん診療におけるチーム医療について学ぶ。
- 5) がん診療における対話の重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

※適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	がん医療における対話の重要性	礪部 威
2	地域がん医療と地域医療医の育成	熊倉俊一
3	I C Tを用いた緩和ケア研修	齊藤洋司
4	化学放射線治療と免疫チェックポイント阻害薬	礪部 威
5	高齢者機能評価の概要	津端由佳里
6	がん治療における高齢者機能評価の有用性	津端由佳里
7	がん医療のメディカルアンメットニーズ	礪部 威
8	免疫関連有害事象	津端由佳里
9	Q O L（生活の質）評価	礪部 威
1 0	地域がん医療とチーム医療	礪部 威
1 1	地域がん医療における看護師の役割	礪部 威
1 2	地域がん医療における薬剤師の役割	礪部 威
1 3	I C Tを用いた地域がんチーム医療	礪部 威
1 4	演習（模擬試験）	礪部 威
1 5	総括	礪部 威

緩和ケア学

Palliative Care

単位数：5単位

○齊藤 洋司 教授：麻酔科学
玉置 幸久 准教授：放射線治療科
稲垣 正俊 教授：精神医学
橋本 龍也 講師：緩和ケアセンター

1. 科目の教育方針

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。

がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。

精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん医療における緩和ケアの意義、役割を理解する。
- 2) 全人的痛みの評価、緩和を学ぶ。
- 3) がんの痛みの特徴と治療を学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 緩和ケアの意義を説明できる。
- 2) 早期からの緩和ケアを行うことができる。
- 3) 全人的な痛みを4側面から評価できる。
- 4) がんの痛みの機序を説明できる。
- 5) 非がん患者の緩和ケアの適応について説明できる。
- 6) 精神的痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 7) スピリチュアルな痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 8) 緩和的放射線治療の特徴について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会編集：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版、金原出版、2014.

2) Geoffrey Hanks, Nathan I. Cherny : Oxford Textbook of Palliative Medicine FOURTH EDITION 2011.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	がんの痛みの特徴と機序	齊藤洋司
2	神経障害性痛の病態生理	齊藤洋司
3	内臓痛の特徴と機序	齊藤洋司
4	オピオイドの作用機序	橋本龍也
5	呼吸困難とオピオイド	齊藤洋司
6	全人的痛みと緩和ケア	齊藤洋司
7	主な身体的苦痛と緩和ケア	齊藤洋司
8	がん性痛の薬物療法	橋本龍也
9	がん性痛の神経ブロック療法	橋本龍也
10	緩和ケアと多職種協働	橋本龍也
11	地域連携と療養の場	齊藤洋司
12	がん患者の不安・抑うつ	稲垣正俊
13	がん医療におけるコミュニケーション	稲垣正俊
14	緩和ケアにおいて放射線治療の果たす役割	玉置幸久
15	緩和ケアにおける放射線治療の実際	玉置幸久

環境医学 I

Environmental Medicine I

単位数：5 単位

○田村太朗 准教授：環境保健医学
山崎雅之 准教授：人間科学部

1. 科目の教育方針

主体と環境との相互作用という観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究について学習する。研究の方法は「人間レベル」を中心に、生活環境や社会文化環境を含め、人の取り巻く環境と医学医療との関連を検討する。様々な環境で起こる問題を解決するためには、歴史的背景を学習し、そこから得られた技術や経験を理解するとともに、社会集団として国際的あるいは社会的なルール・制度・仕組みを把握することも重要である。問題解決とリスク低減のために、マクロ的視野および環境共生の枠組みに立った展開ができることを学習の狙いとする。環境医学 I では総論的な内容を主とし、概念や枠組み、社会制度等の理解を重視する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 環境と健康の関連性からとらえる研究テーマを開発する。
- 2) 生活習慣・生活習慣の健康への影響を評価する方法論を理解する。
- 3) 労働環境の実際的応用研究を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 疫学研究について説明できる。
- 2) 生活環境と健康リスクについて説明できる。
- 3) 働くことと健康について理解できる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更(オンライン⇒対面等)がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題

レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会、2014/2015
- 2) JM Last 編：疫学辞典、日本公衆衛生協会、2000.
- 3) KJ Rothman：Modern Epidemiology third Edition, Lippincott Williams&Wilkins, 2008.
- 4) B. ラマツターニ著、松藤元訳：働く人々の病気、北海道大学出版会、1980.
- 5) 和田攻監修：産業保健マニュアル（第6版）、南山堂 2013.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	疫学 総論	未 定
2	疫学方法論（1） 記述疫学	未 定
3	疫学方法論（2） 分析疫学（症例対照研究）	未 定
4	疫学方法論（3） 分析疫学（コホート研究）	未 定
5	疫学方法論（4） 介入研究	未 定
6	疫学方法論（5） スクリーニング	未 定
7	疫学方法論（6） 臨床疫学	未 定
8	生活環境と健康（1） 空気・水・騒音・気圧と健康	未 定
9	生活環境と健康（2） 放射線と健康	未 定
10	文化環境と健康	未 定
11	社会環境と健康（1） 社会制度における保健医療	未 定
12	社会環境と健康（2） 保健医療政策と人々の健康	未 定
13	労働環境と健康（1） 労働衛生管理体制と働く人の健康	未 定
14	労働環境と健康（2） 産業中毒とその対策	未 定
15	労働環境と健康（3） 産業医・産業保健スタッフの役割	未 定

環境医学Ⅱ

Environmental Medicine Ⅱ

単位数：5単位

○田村太朗 准教授：環境保健医学
山崎雅之 准教授：人間科学部

1. 科目の教育方針

技術化、情報化が著しく進歩した反面、環境問題やライフスタイルの変容、高齢化など種々の問題を抱える現代社会において、身体的・社会的・精神的な面での不適応から様々な健康問題が生じてきている。これら人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を理解する。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から理解する。
- 3) 健康を支援する環境づくりや環境に順応した人間行動を理解する。
- 4) 健康課題に対応する人類生態学、政策科学の概念と方法を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を列記することができる。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から例示することができる。
- 3) 健康を支援する環境づくりの要件を述べることができる。
- 4) 地球環境問題における環境に順応した人間行動を例示することができる。
- 5) 人類生態学、政策科学の概念と方法の特徴を述べることができる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更(オンライン⇒対面等)がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

1) Mary Dobson 著、小林力訳：Disease 人類を襲った30の病魔、医学書院、2010.

2) 日本禁煙学会編：禁煙学改訂2版、南山堂、2010.

※他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	環境医学 総論	未定
2	環境医学各論(1) 生活と健康	未定
3	環境医学各論(2) 社会と健康	未定
4	環境医学各論(3) 健康への自然と社会の相互作用	山崎雅之
5	地球環境問題(1) 地球温暖化	未定
6	地球環境問題(2) 化学物質による環境汚染	未定
7	地球環境問題(3) PM2.5による大気汚染	未定
8	地球環境問題(4) 生物多様性と生態系の破壊	山崎雅之
9	社会環境問題(1) 社会経済格差	山崎雅之
10	社会環境問題(2) 飲酒・喫煙	未定
11	社会環境問題(3) 生活習慣	山崎雅之
12	社会環境問題(4) 職業ストレスとメンタルヘルス不全	未定
13	人類生態学	山崎雅之
14	健康政策科学	山崎雅之
15	環境による発がん	未定

医学・医療情報学 I

Medical Informatics I

単位数：5 単位

○津本周作 教授：医療情報学
河村敏彦 准教授：医療情報部

1. 科目の教育方針

医学・医療情報学とは、情報学の手法を広く取り入れて、基礎・臨床医学および医療に役立てることを目的とした学問である。本講義では、現在、情報学・統計学ではどのような先端的研究がなされているかという基礎的な知識を与え、情報学・統計学の基本を習得させるとともに、それが今後どのように医療分野へ展開していくかということを展望させることを目的としている。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 医療情報システムについての基礎知識を学ぶ。
- 2) 情報セキュリティの基礎知識を学ぶ。
- 3) 情報学の最近の研究について学ぶ。
- 4) EBM の基礎技術である統計学について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 病院情報システムの基本的な構成について説明できる。
- 2) インターネット上でのセキュリティについての基本的考え方を説明できる。
- 3) 病院安全に要求される情報通信技術の基礎について説明できる。
- 4) 情報学の基本的な考え方を説明できる。
- 5) 統計学の手法を使って、データ解析できる。

3. 教育の方法、進め方

教育内容については履修希望者からヒアリングし、希望する分野について重点的に講義を行う。形式は講義およびソフトウェアを使った実習で進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Shortliffe, E. and Cimino, J. Biomedical Informatics 4th Edition, Springer, 2014.
- 2) Dawson, B. and Trapp, R. Basic & Clinical Biostatistics: 4th Edition, McGraw-Hill Medical, 2004.

※適宜、資料を配布する。

6. 教育内容

教育内容については履修希望者からヒアリングし、希望する分野について重点的に講義を行う。特に希望がなければ、以下のような構成で講義を行う。

回	授業内容	担 当
1	病院情報システム	津本周作
2	診療情報の電子化	津本周作
3	情報ネットワーク	津本周作
4	個人情報保護と Pmark	津本周作
5	情報セキュリティ	津本周作
6	サービスコンピューティング	津本周作
7	データマイニング	津本周作
8	検定論	河村敏彦
9	実験計画法の基本的な考え方について	河村敏彦
10	分散分析	河村敏彦
11	ノンパラメトリック統計	河村敏彦
12	多重比較	河村敏彦
13	生存率解析	河村敏彦
14	判別分析	河村敏彦
15	品質管理	河村敏彦

臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用
Point of contact between Clinical, Social and Environmental
Medicine and Advanced Informatics

単位数：5 単位

- 長井 篤 教授：医学系研究科医科学専攻 内科学第三
並河 徹 教授：医学系研究科医科学専攻 病態病理学
津本周作 教授：医学系研究科医科学専攻 医療情報学
磯村 実 教授：医学系研究科医科学専攻 人間科学部(医学部兼務)
山崎雅之 准教授：医学系研究科医科学専攻 人間科学部(医学部兼務)
○平川正人 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学
石賀裕明 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 地球資源環境学
廣富哲也 准教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学

1. 科目の教育方針

高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究手法を学ぶことで社会・環境医学の研究法とシステムを学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究方法、医療サービス設計などを理解する。基礎知識から臨床応用への発展を段階的に理解できるようにオムニバス形式の講義・セミナーで学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 情報技術の現状と展望について理解できる。
- 2) 情報と環境との係わりを理解できる。
- 3) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を理解できる。
- 4) 医学情報からのデータマイニングの方法を理解できる。
- 5) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を理解できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 利用者から捉えた最近の情報処理技術の動向について理解できる。
- 2) 情報との係わりの上で環境問題の現状について概説できる。
- 3) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を説明できる。
- 4) 医学情報からのデータマイニングの方法を説明できる。
- 5) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を概説できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、

課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 福嶋義光監修：遺伝医学 やさしい系統講義 18 講、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2013.
- 2) 村松正實・木南凌監訳：ヒトの分子遺伝学第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2011.
- 3) 河合忠著：異常値の出るメカニズム第 6 版、医学書院、2013.
- 4) 日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編集：臨床検査のガイドライン JSLM2012、日本臨床検査医学会、2012.

※項目ごとに適宜文献を示す。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	情報活用に向けた人間指向コンピュータデザイン	平川正人
2	心とコンピュータ	平川正人
3	脳とコンピュータ	平川正人
4	身体とコンピュータ	平川正人
5	センサ技術と情報処理	廣富哲也
6	情報通信技術とアシスティブ・テクノロジー	廣富哲也
7	科学的情報をもとにした環境問題の解明と対策	石賀裕明
8	疫学資料の収集と統計解析	長井 篤 (ゲストスピーカー ：環境保健医学)
9	地理情報システムの理解と活用	長井 篤 (ゲストスピーカー ：環境保健医学)
10	生活・健康福祉システムの活用	山崎雅之
11	生活習慣病の集団遺伝学 1 ：遺伝子はどのように生活習慣病発症にかかわるか	並河 徹
12	生活習慣病の集団遺伝学 2 ：生活習慣病遺伝子の同定法	磯村 実
13	データマイニングの基礎	津本周作
14	臨床検査情報学 1 医学統計から導かれる臨床基準値の考え方	長井 篤
15	臨床検査情報学 2 情報学を活用した最先端検査技術を理解する	長井 篤

知的財産と社会連携

Intellectual properties and Social contribution

単位数：5単位

○中村 守彦 教授：医学系研究科医科学専攻 地域医学共同研究部門

1. 科目の教育方針

知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにはがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 知的財産および知的財産権の概要を理解する。
- 2) 医療領域における知的財産権の概要を理解する。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携の研究事例について理解を深める。
- 4) 産学連携による新技術創出の状況を把握する。
- 5) 産学連携を社会連携の視点から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。
- 2) 医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。
- 4) 医・理工農連携および看工農連携による実用化の事例を説明できる。
- 5) 研究・開発のマネジメントを説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。研究事例については、医・看工農連携による成果を体験実習して講義内容を深める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、体験実習における態度、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 辻本一義：研究・教育・ビジネス現場のための特許・知的財産権の教科書、PHP 研究所、2004.
 - 2) 隅蔵康一：これからの生命科学研究者のためのバイオ特許入門講座、羊土社、2003.
 - 3) 出川通：最新MOT〈技術経営〉がよくわかる本、秀和システム、2005.
 - 4) 技術経営コンソーシアム編集、三菱総合研究所監修：標準MOTガイド、日経BP社 2006.
 - 5) 沼上 幹：「わかりやすいマーケティング戦略」、有斐閣アルマ、2008.
- ※他、適宜特許公報、文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	中村 守彦
2	知的財産概論 1 (基礎編)	中村 守彦
3	知的財産概論 2 (応用編)	中村 守彦
4	知的財産権 1 (創造)	中村 守彦
5	知的財産権 2 (保護)	中村 守彦
6	知的財産権 3 (活用)	中村 守彦
7	知的財産特論 1 (医療分野)	中村 守彦
8	知的財産特論 2 (医工連携)	中村 守彦
9	医・看工農連携による研究事例 1 (総合事例)	中村 守彦
10	医・看工農連携による研究事例 2 (島根大学の事例)	中村 守彦
11	教育研究と社会連携	中村 守彦
12	研究と開発のマネジメント	中村 守彦
13	産学連携による新事業創出事例	中村 守彦
14	看護学を核とした学際融合研究と知的財産の創出	中村 守彦
15		

機能的物質・食品の医療応用と環境影響

Medical Application and Environmental influence of Functional Materials and Foods

単位数：5単位

- 原田 守 教授：医学系研究科医科学専攻 免疫学
和田孝一郎 教授：医学系研究科医科学専攻 薬理学
吉山 裕規 教授：医学系研究科医科学専攻 微生物学
福田 誠司 教授：医学系研究科看護学専攻 医療安全管理部 臨床遺伝診療部
岡本 貴行 准教授：医学系研究科医科学専攻 薬理学
青井 典明 准教授：医学系研究科医科学専攻 耳鼻咽喉科学
小谷 仁司 講師：医学系研究科医科学専攻 免疫学
飯田 雄一 学内講師：医学系研究科医科学専攻 免疫学
半田 真 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
田中 秀和 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
西垣内寛 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
室田 佳恵子 教授：自然科学研究科農生命科学専攻 生命科学
中務 明 准教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
川向 誠 教授：連合農学研究科生物資源科学専攻
桑原 智之 教授：自然科学研究科環境システム科学専攻 環境共生科学

1. 科目の教育方針

医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能的物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能的食品としての市場性などについて概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 生理的条件下での機能的物質の特性を理解する。
- 2) 栄養分や薬剤として有効な物質の効果を理解する。
- 3) 生体内での機能的物質の作用を説明できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 新規機能的物質の開発・設計・合成の手法および生体内での機能について理解する。
- 2) アレルギー疾患制御、免疫賦活などの生命現象に関与する化合物を説明できる。
機能的食品について理解する。
- 3) がん治療への機能的物質の適用を説明できる。
- 4) 栄養分輸送の媒体である水、基本的栄養素であるミネラル（微量無機元素）の生体内での機能を理解する。
- 5) 環境における機能的物質の特性と挙動、および環境への影響を理解する。

- 6) 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を理解する。
- 7) 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 上野川修一・清水俊雄・清水誠・鈴木英毅・武田英二編：機能性食品の作用と安全性 百科、丸善出版、2012.
- 2) 清水俊雄：食品バイオの制度と科学－遺伝子組換え食品からニュートリゲノミクス－、同文書院、2007.
- 3) 那須正夫・和田啓爾：食品衛生学「食の安全」の科学、南江堂、2011.
- 4) 谷口克・宮坂昌之・小安重夫：標準免疫学、医学書院、第3版
※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	機能性物質による免疫応答増強	原田 守
2	消化器系と機能性物質	和田孝一郎
3	機能性物質・食品と微生物	吉山 裕規
4	機能性物質の細胞への作用： 機能性物質の正常細胞とがん細胞への効果の相違について	福田 誠司
5	機能性物質・食品の血液流動性への影響	岡本 貴行
6	衛生仮説とアレルギー性鼻炎 -Toll 様受容体を介したアレルギーの制御-	青井 典明
7	機能性物質の探索方法と生物活性評価機能性物質による免疫細胞制御	小谷 仁司
8	腸内細菌叢と免疫応答への影響	飯田 雄一
9	化学物質の環境への影響	田中 秀和
10	機能性成分の生体利用性と作用標的	室田 佳恵子
11	機能性色素材料としてのフタロシアニン	半田 真
12	機能性物質の有機合成	西垣内 寛
13	農作物の機能特性と利用	中務 明
14	微生物による食品サプリメントの生産と市場性	川向 誠
15	有害微量元素の生態影響と対策のための機能性無機材料	桑原 智之

令和3年度看護学専攻博士課程時間割

前期

	1・2時限 8:30～10:10	3・4時限 10:25～12:05	5・6時限 13:00～14:40	7・8時限 14:55～16:35	9・10時限 16:50～18:30	11・12時限 18:30～20:00	13・14時限 20:00～21:30
月		女性の健康教育 学	女性の精神保健学	助産薬理学	生殖器病態生理学	超高齢看護開発特講 N502	安全ケアシステム 開発特講 N502
火		地域母子保健学	高齢者看護学特論 N502	看護理論 N502	老年疾患治療論	看護援助学特論 基礎看護学第1研究室	
			母子看護学特論		病態生理学	地域・在宅看護学特論 N601	
			がん看護学特論 N404			看護管理学特論 N502	
					フィジカルアセスメント		
水			助産学特論	助産フィジカル アセスメント方法論	臨床薬理学	がん看護 病態生理治療学	
木			看護情報管理論	看護倫理	看護研究方法演習 N502, 情報科学演習室		
			高齢者アセスメント論 N502				
金			がん薬物療法看護論 N404	がん看護学援助論	産褥・新生児期助産 診断・技術学	研究方法特講	超高齢看護学 研究演習
			妊娠期助産診断・技術学	分娩期助産診断・ 技術学			
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義(講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること)						

後期

	1・2時限 8:30～10:10	3・4時限 10:25～12:05	5・6時限 13:00～14:40	7・8時限 14:55～16:35	9・10時限 16:50～18:30	11・12時限 18:30～20:00	13・14時限 20:00～21:30
月		産褥・新生児期 助産診断・技術 学		緩和ケア演習 N404			
					助産臨床推論		
火		高齢者サポート システム論 N502	認知症看護論 N502		家族看護援助論 N404	(専門分野別 看護学演習)	
水		妊娠期助産診 断・技術学	分娩期助産診断・技術学			老年慢性期ケア演習 6F地域・老年看護学第2研究室	
木			リスクマネジメント論 N502	看護人材育成論 N502	コンサルテーション論 N502	保健医療福祉政策論 N601	
金			緩和ケア論	がん薬物療法看護 援助論 N404	異文化コミュニ ケーション論	超高齢看護学 研究演習	
				助産管理学			
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義(講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること)						

博士前期課程	基盤科目	専門必修科目・専門選択科目
	赤字:CNS共通科目	

- * 2年次専門必修科目:「看護学特別研究」,「看護学課題研究」 随時
- * 「高齢者看護学実習」, がん看護CNSコースおよび助産学コースの各実習については別途指示

博士後期課程	専門科目
--------	------

- ※「超高齢看護学特別研究」は随時
- ※関連科目については別途指示

令和3年度 大学院医学系研究科看護学専攻 学年暦

月																															行事等予定		
4月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
			入学式																											昭和の日		2日(金) 入学式 新入生オリエンテーション 学生定期健康診断(内科・X線)	
5月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
				憲法記念日	みどりの日	こどもの日																											学生定期健康診断(内科・X線)
6月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
7月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
																																	スポーツの日
8月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
								山の日	振替休日																								
9月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
																					敬老の日			秋分の日									13日(月) 看護学専攻(博士後期課程)中間発表
10月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
																																	上旬 医学系研究科入学試験(博士前期推薦, 第1次募集) 15日(金) 看護学専攻(博士前期課程)修士論文中間発表会
11月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
			文化の日																					勤労感謝の日									
12月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
1月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
		元日									成人の日																						17日(月) 看護学専攻(博士前期課程) 修士論文提出
2月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
	曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月				
											建国記念の日													天皇誕生日								1日(火) 看護学専攻(博士前期課程)修士論文発表会 上旬 医学系研究科入学試験(第2次募集) 15日(火) 修士論文最終提出	
3月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
																			学位授与式				春分の日									1日(火) 看護学専攻(博士前期課程)研究計画発表会 上旬 医学系研究科入学試験(第3次募集) 7日(月) 看護学専攻(博士後期課程)中間発表 18日(金) 学位授与式	